

**特徴** 成蟲 黄色、頭頂、前胸背及び腹部は黒色、前胸背に二個の黄縦條を裝ふ、翅は透明に

して少しく紅色を帯ぶ、體長一分五厘。

幼蟲 黄白色、半透明に近し、體長一分。

**経過** 年二回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、翌春白色の卵子を麥其他禾本科植物の葉上に産下し、穂出づれば之に移りて食害す、六月下旬乃至七月上旬蛹化す、本邦に於ては其害未だ大ならず、蛹は黄色、兩端細小す、蛹期三週間、八月羽化す、第二回の幼蟲は十月上旬現はる。

**驅除法** 成蟲發生の時期を見計ひ、麥圃に至り、拘網を以て捕殺すべし、幼蟲を捕ふべし、幼蟲の加害せる麥葉の局部は黄色に變ずるを以て容易に認め得べし。

(三) いねきいろはむぐりばい *Chlorops oryzae* Mats. (第四十三圖版(7))  
被害植物 稻。

**特徴** 成蟲 體黄色、頭頂の一紋及び後頭は黒色、胸背には三黒條を縱走す、其中央にあるものは胸背の中部に達す、翅は透明、紫色の虹色を表はす、腹背暗黄、基部は黒色、體長八厘。

幼蟲 白色、稍々紡錘狀に近く、尾端に突起を有す、體長二分二厘。

**経過** 年發生の回数は未だ判然せざるも二回なるが如し、新潟地方にありて稻を害すること少なからずと云ふ。

**驅除法** 同前。

(四) いねむぐりばい *Oscinus oryzella* Mats. (第四十三圖版(8))

**特徴** 成蟲 暗黒、少しく綠色を帯ぶ、觸角は稍々卵形をなし、端刺に短毛あり、翅は透明、少しく暗色を帯び、紫様の虹色を表はす、平均棍は白色、脚は黒色、中肢の轉節は黄褐、體長八厘。

幼蟲 白色、少しく青色を帯ぶ、形稍々紡錘狀に近く、前端に黒色の二齒あり、體長一分二厘。

**経過** 年二回の發生、第一回は五月下旬乃至六月中旬、第二回は六月下旬乃至七月中旬、成蟲は葉内に白色長楕圓形の卵子を一粒づゝ産下す、其數七八十粒ありて數回に之を産卵す、蛹は黒褐、普通莖上に附着す、蛹のまゝにて越年す。

(五) いねあそむぐりばい *Siphonella viridiacnea* Mats.

**特徴** 成蟲 前種に酷似すれども、少しく大形にして、綠色一層甚だしく、顔は灰白にして、其前縁は半圓形に刻らる、體下及び脚は光澤なき灰綠色、腿節の末端及び脛節の基部は黄色、體長一分乃至一分二厘。

**経過** 前種と同一なるべし、前種と同時に發生したるものなれば、其差異は判然せず。  
**驅除法** 同前。

(六) なむぐりばい *Phytoomyza nigricornis* Macq. (第四十三圖版(9))



被害植物 十字科植物豌豆。

特徴 成蟲 灰黒色、頭は黄色、頭頂に一暗色紋を裝ふ、觸角は黒色、翅は大にして體長より長く、脈は黄白、平均棍は白色、脚は黒色、腿節の末端は暗黄色、體長六厘。

幼蟲 白色、稍々紡錘狀をなせども前部は一層細小す、體長一分。  
經過 發生の回数未だ明かならず、六七月頃、十字科植物及び豌豆の如き豆科植物の葉中に蜿蜒たる隧道を穿ちつゝ、食害し、老熟すれば葉中に蛹化す、蛹は黒褐にして長さ七厘あり、越年の状態は判然せざるも、恐らくは他の蠅と同じく成蟲の有様なるべし。

驅除法 同前。

(七) ひめいへばい *Homalomyia canicularis* L. (第四十三圖版(10))

被害物 室内の食物。

特徴 成蟲 體は灰褐、觸角は黒褐、端刺は羽狀をなす、胸背に黒褐の三縦條あり、翅は透明、少しく暗色を帯び、脈は暗黄、雄にては腹部の兩側は暗黄、雌にては全部灰褐、體長一分八厘乃至二分二厘。

幼蟲 暗色にして長楕圓形をなし、體上及び體側に肉狀の突起多し、體長四分。  
經過 年發生の回数は未だ判然せざれども、少くとも數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有様にて越年し、翌春室内の食物に集り、又時に室内に飛翔す、「いへばい」の如く大害を加へず、幼蟲は植物性の腐敗物に棲息す。

(八) だいこんばい *Anthonya flavojeta* Mts. (第四十三圖版(11))

被害植物 蘿蔔、蕪菁、其他の十字科植物及び豆科植物。

特徴 成蟲 體は暗灰色、胸背に判然せざる暗色の縦條を裝ふ、觸角及び脚は黒色、雄にては觸角上に一黄紋あり、雌にては複眼の内側白色なり、翅は透明、基部少しく黄色を呈す、雄の腹部には一黒條を縱走す、雌は之を缺く、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲 乳白色にして少しく黄色を帯ぶ、體は圓柱形にして判然せざる十一節より成り、前方に突出す、判然せる頭部なく、尾端は截斷狀に終り、其下縁に短齒を列ぬ、體長三分。

經過 年三四回の發生をなす、普通成蟲の有様にて越年し、翌春植物の根際に二百内外の卵子を産す、卵期は十日内外、孵化すれば直ちに根邊に入りて食害す、之に罹りたる蘿蔔は幼蟲分泌液のために腐敗すること速かなり、普通四週間内外にて一代を終る。

驅除豫防法 蠅の出づる時期を見計ひ網を以て捕ふべし、根際に石油乳劑の二十倍液を注入すべし、又第三回間引後石炭酸に百倍乃至二百倍の水を混じ、鋸屑に浸し、根際に撒布すべし、「タール」を塗抹せる紙を適宜に切りて根際を掩ひ置くべし。



(九) ひめくろばい *Ophyra nigra* Wied. (第四十三圖版(12))

被害動物 人類。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、眼は小豆様の赤褐、觸角は黒褐、胸背は光線の工合により少しく藍色を現はす、翅は透明脈は黄褐、光線の工合にて紅色を現はす、體長二分。

幼蟲 家蠅の幼蟲に酷似す。

經過 便所に普通なる種にして、幼蟲は糞尿を以て食とし、肥料成分を滅却すれども未だ害蟲と認むべきものにあらず、其經過未だ詳かならずと雖も、病菌を傳播する重なるものなるべし。

(一〇) おほくろばい *Cyrtoneura stalulans* Fall. (第四十三圖版(13))

被害動物 人類。

特徴 成蟲 暗灰色、胸背に四本の黒縦條を具へ、腹部の中央に黒色の一縦條を走らし、褐色の光澤ある斑紋を裝ふ、觸角の中部、小腮鬚稜狀部の末端及び脚は黄褐時に黒色なることあり、體長三分乃至三分五厘。

經過 幼蟲は植物性の腐敗物及び馬糞を以て食とし、成蟲の有様にて越年す、翌春屋内にありて食物に集まり大害を加ふ、又病菌の媒介をなす。

(一一) くろばい *Musca domestica* L. (第四十三圖版(14))

被害動物 人類。

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角は黄白、觸角及び小腮鬚は黒色、胸背に四箇の黒縦條を裝ふ、雄にては腹部の兩側に黄褐紋あり、體長(雌雄)二分乃至三分。

幼蟲 白色、長圓錐形にして、尾端は截斷狀に終り、之に褐色の二氣門を有す、口部は單に一個の黒色鈎を有するに過ぎず、體は十一個の環節より成り、第三節の兩側に各一個の氣門を有し、體下には疣狀突起ありて運行に便ならしむ、體長四分。

經過 年七八回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春馬糞其他の腐敗物に産卵す、一雌の總卵數は百二十内外約一週間にて老熟し、次で蛹化す、蛹は赤褐色にて圍蛹なり、長さ一分八厘。

(一二) くろいへばい *Musca corvina* L.

被害動物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、雄にては顔の兩側銀白色、胸背は光澤ある黒色にして、更に濃色の判然せざる四縦條を走らす、但し光線の工合により前胸の前方は白色を現はす、腹部は黄褐、第一節背線并に尾端は黒色、雌にては腹部黒色、灰白の光澤ある斑紋を裝ふ、體長二分二厘乃至二分五厘。

經過 同前、此害蟲は山間の道路に多く、都市には稀なり。

(一三) きんばい *Lucilia caesar* L. (第四十三圖版(15))

被害動物 動物性の食物。



特徴

成蟲 體は金綠色、前胸背の前縁に白粉を裝ふ、複眼は赤褐、顔は上方より見れば銀白色、觸角は黒褐、翅は透明、脈は黄褐、腹部は稍々球形に近し、日數を経たるものは黄金色を呈す、脚は黒色にして少しく綠色を帶ぶ、體長二分五厘乃至三分。  
幼蟲 白色にして少しく黄色を帶ぶ、體は十一節より成り、尾端の氣門及び口部は暗色を呈す、體長四分。

經過

年數回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、翌春動物性の食物其他屍骸に産卵す、卵は初めは赤褐にして次第に黒褐となる、約十日間にて一代を終る、時々生魚と共に人類の胃腑内に入り大害を加ふることあり。

(一四) おほきんばい Lucilia jeddensis Big.

被害物 同前。

特徴

成蟲 前種に酷似すれども遙に大形、青藍色にして觸角は黒褐、脚は黒色、體長三分乃至三分五厘。  
幼蟲 同じく前種に酷似すれども、尾端に赤褐の長楕圓紋ありて横置せらる、體長五分。

經過 同前。

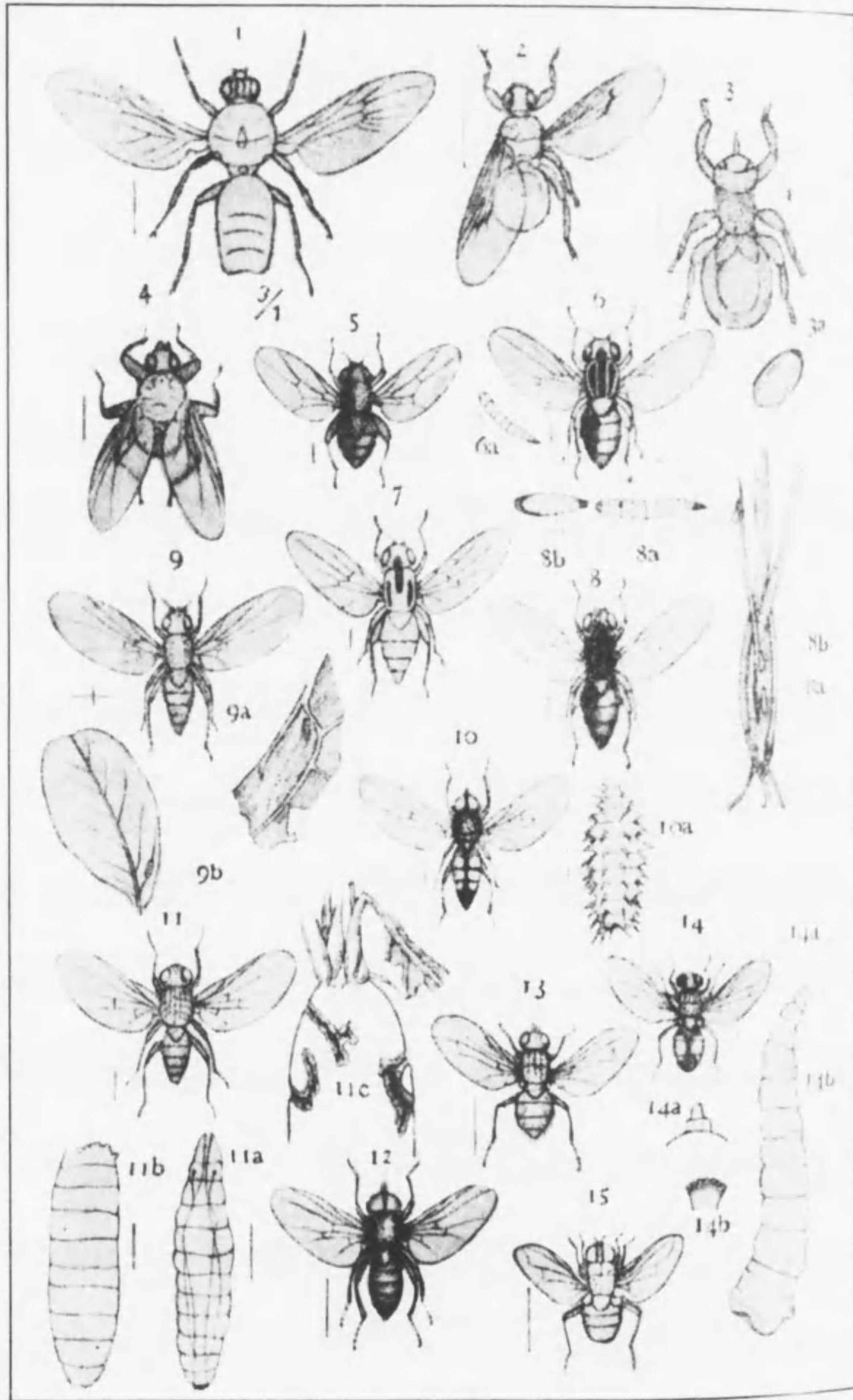
(一五) おびきんばい Lucilia dux Esch. (第四十四圖版(1))

被害物 同前。

圖參併四第

1703	Lucilia dux Esch.	おびきんばい
1704	Lucilia domestica L.	家門
1705	Lucilia serena L.	家門
1706	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1707	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1708	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1709	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1710	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1711	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1712	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1713	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1714	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1715	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1716	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1717	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1718	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1719	Lucilia hirticornis Fall.	家門
1720	Lucilia hirticornis Fall.	家門





第四拾參圖

1. Hippobosea equina Latr. うましらみばい ..... P.756
2. Eippobosea capensis Olf. いぬしらみばい ..... P.757
3. Melophagus ovinus L. ひつじしらみばい ..... P.757  
a. 蛹
4. Ornithomyia aobatonis Mats. あをばとしらみばい ..... P.758
5. Drosophila obscurus Fall. しゃうじやうばい ..... P.759
6. Chlorops circumdata Meig. むぎもぐりばい ..... P.759  
a. 幼蟲
7. Chlorops oryzae Mats. いねきいろはむぐりばい ..... P.760
8. Oscinis oryzaella Mats. いねむぐりばい ..... P.761  
a. 幼蟲 b. 蛹
9. Phytomyza nigricornis Macq. なむぐりばい ..... P.761  
a. 幼蟲 b. 蛹
10. Homalomyia canicularis L. ひめいへばい ..... P.762  
a. 幼蟲
11. Anthomyia flavopicta Mats. だいこんばい ..... P.763  
a. 幼蟲 b. 蛹 c. 被害ノ有様
12. O. hyra ni ra Wied. ひめくろばい ..... P.764
13. Cyrtoneura stabulans Fall. おほいへばい ..... P.764
14. Musca domestica L. いへばい ..... P.764  
a. 幼蟲ノ頭部 b. 氣門
15. Lucilia caesar L. きんばい ..... P.765



特徴 成蟲 前種に酷似すれども金綠色にして顔及び觸角は黃色、胸背に剛毛少なし、各

腹節の末端に紺色帯あり、體長三分乃至三分五厘。

幼蟲 不明。

經過 年幾回の發生をなすか判明せざれども小笠原島臺灣の如き熱帶地方に産するものなれば、少くも十數回に達すべし、前掲の地方にありては何れの時期にも見得べく、動物性の食物に大害を加ふ、早朝群をなして蜂の如き聲を發す。

(一六) くらばい (蒼蠅) *Calliphora Ita* Coq. (第四十四圖版(2))

被害物 同前。

特徴 成蟲 灰黒、腹部は藍色、顔は雄黃褐、雌銀白色にして少しく黄色を帶ぶ、口吻鞘は赤褐、觸角は黒褐、第三節の基部は赤褐、前胸の氣門は黄色、脚は黒色、鱗狀瓣灰色、其周圍は白色、體長四分乃至四分五厘。

(一七) こくろばい *Calliphora erythrocephala* Meig.

特徴 成蟲 前種に酷似すれども遙に小形、顔は赤褐、觸角は黒褐、第三節の基部は灰色、腹部は藍色、背線及び各節の横帯は黒色、體長二分乃至三分五厘。

(一八) さしばい *Stomoxys calcitrans* L. (第四十四圖版(3))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 灰色、頭頂に馬蹄狀の黒紋を裝ふ、顔は黄白色にして金光を放つ、胸背に四個



の黒縦條を走らす、腹部は卵形に近く之に七個乃至九個の大黒紋を散在す、脚は黒色、  
 脛節の基部は赤褐、體長二分乃至二分七厘。

幼蟲 光澤ある乳白色、口部に不等なる二鉤を裝ひ、氣門の周圍は黒褐、尾端の周圍に  
 は肉狀の突起多し、體長三分。

經過 年二回の發生をなし、幼蟲の有様にて、普通馬糞中にありて越年す、第一回の蠅は五  
 月、第二回は八、九月に互りて現はる、人畜を蝨し大害を加ふることあり、殊に牛馬に「ツ  
 レバノソーム」病菌を移植して大害を與ふ、馬の「フラフラ」病を媒介するを以て注意  
 すべし。

驅除法 林間にありては火繩を携ふべし、蓖麻子油の臭氣は之を驅除し得べし、又家畜房  
 にありては黄昏若くは早朝蠅の靜止する處に除蟲菊の浸汁に「アルボース」石鹼を混  
 じ灌注すべし、又網を以て捕ふべし。

(一九) しまばら *Sarcophaga carnaria* L. (第四十四圖版(4))

被害物 肉類、

特徴 成蟲 灰色、顔は光澤ある黄色、頭頂、觸角及び下唇鬚は黒色、眼は赤褐、胸背に五個の  
 黒縦條ありて、兩側にあるものは短し、稜狀部の中央に一個の暗色紋を裝ふ、翅は透明、  
 少しく暗色を帯ぶ、腹部は黒色、各節に四個の灰白紋を裝ふ、鱗狀鱗は白色、脚は黒色、雄  
 には後脛節に黒色の房狀毛を裝ふ、體長四分五厘乃至五分。

幼蟲 「きんばい」の幼蟲に酷似す、白色にして疣狀突起を散在す、尾端の肛門下に二個  
 の尾狀突起あり、口部の鉤は小にして判然せず、體長三分五厘乃至四分。

經過 年數回の發生をなし、蛹の有様にて越年す、卵は母體內にて成長し、幼蟲となりて産  
 下せらる、一週間内外にて一代を終る、而して生魚と共に人類の胃腸内に入り大害を  
 加ふることあり。

(二〇) ひめしまばら *Sarcophaga melanura* Meig.

被害物 同前。

特徴 成蟲 前種に似たれども、形小にして腹部の斑紋は光澤ある淡黄褐、雄の尾端は光  
 澤ある黒色にして灰色の黄紋を裝ふ、雌にては灰色、體長三分七厘乃至四分五厘。

(二一) こしまばら *Sarcophaga privigna* Rond.

被害物 同前。

特徴 成蟲 「しまばら」に酷似す、形小なれども割合に太し、翅は殆ど透明にして「しまばら」  
 の如く暗色を帯びず、腹部の斑紋は少しく黄色を帯ぶ、體長三分五厘乃至四分。

(二二) かひこのうじばら *Sturmia (Crossosmia) sericariae* Rond.

*Tachina cilipes* Macq. (第四十四圖版(5))

被害動物 家畜。

特徴 成蟲 體は灰黒、顔は灰白にして銀光を放つ、觸角黒褐、胸背に黒色の五縦條を裝ふ、



稜狀部は黄褐、翅は透明にして少しく暗色を帯ぶ、脈は黄褐、鱗狀鱗は白色、雄には腹部の両側に暗黄の大紋あり、全體剛毛多し、體長四分内外。

幼蟲 體は圓柱形をなし、頭部に向て尖小す、口部に二個の黑色鈎を裝ひ、尾端は截斷狀に終る、横皺多し、體長六分乃至七分。

經過 年一回の發生、蛹の有様にて越年す、翌春五月頃羽化し、葉下に二粒乃至三粒の卵子を産下す、一頭の總卵數は六千内外、卵子は普通葉の中肋に沿ひて産下せられ、葉と共に蠶兒の胎内に入る、十分成長すれば蠶體を辭し地下に下りて蛹化す、蛹は黑色なり。

驅除豫防法 蠶は葉上にありて喧を負ふの性あるを以て網を以て捕ふべし、蠶兒の病徴を現はすものは可成別に上簇せしめ、結繭後速に蒸殺して蛆の脱出を防ぐべし。

### 牛 蠅 科 Oestridae.

#### (1) うまばい *Gastrophilus equi* F. (第四十四圖版(6))

被害動物 馬牛。

特徴 成蟲 黄褐、頭、觸角、脚及び腹部は黄色、胸背に軟毛を密生し、稜狀部に刷毛狀の長毛を簇生す、翅は灰白半透明、中央の大紋及び翅端の二小紋は暗色なり、各腹部の基部は黄褐、雄にては腹部下方に彎曲し、雌にては最後の二節膝狀に曲折す、體長四分五厘内外。

幼蟲 初めは白色、馬の體内より出でたるときは黄赤色を呈す、前部細く、口に二鈎を裝ふ、體の中央部最も廣く、尾端は截斷狀に終る、各節に二列の棘狀突起列ありて後方に向ふ、體長六分乃至六分五厘。

經過 年一回の發生をなす、九ヶ月乃至十ヶ月間は寄主の體内にあり、蠶は六月より十月に亘りて出づ、成蟲は好んで山の頂上に喧を負ふ、高飛する性あり、雌は七百内外の卵子を馬の體毛に産附す、卵は黄白色にして長さ四厘内外、稍々圓柱形にして末端は斜に截斷せられたるが如し、一匹の馬に産附せらるゝ卵數は四百乃至五百、卵子孵化すれば毛間に侵入して皮膚に達し、口鈎を以て孔を穿つ、馬は之が爲めに痒みを覺え、之を舐るに當り幼蟲は舌に附着して口腔内に入り、次で胃腑に達す、後口鈎を以て胃壁に懸り液汁を吸收す、老熟すれば黑色卵形の蛹となり、馬糞と共に體外に出づ。

驅除法 主に放牧せる馬に寄生するものなれば、其驅除豫防困難なり、務めて網を以て蠶を捕へ、又金櫛にて卵子をかき取るべし、幼蟲の胃腑内にあるものを殺すには蓖麻子油を飲ましむべし。

#### (II) ひつじばい *Oestrus ovis* L.

被害動物 羊。

特徴 成蟲 體灰黄、黄白及び黑色の斑紋を裝ひ、顆粒狀の突起あり、觸角は黑色、脚は黄褐、翅は透明、脈は黄褐、鱗狀鱗は灰白、體長三分五厘乃至四分。



幼蟲 體は稍々圓錐形に近く、腹面は平たし、第二節より第十節まで各節の背の上に劍狀の横隆起を具へ、其兩側に一双の瘤狀突起あり、又腹面には疣狀突起多し、初めは白色なれども次第に褐色の横紋を有するに至る、體長六分五厘乃至一寸。

經過 年一回の發生をなす、成蟲は七月より十月に亘りて出づ、蠅は胎生兒を鼻孔に産下す、幼蟲は深く鼻孔に入り其内部に寄生するを以て大害を加ふ、約九ヶ月間にて老熟すれば鼻孔より出で、地上に下りて蛹化す、蛹は六週間にして羽化す、羊の此害虫に侵さるゝや、鼻孔より一種の分泌物を出だし、頻繁に嚏をなし、同時に呼吸困難の狀を示し、鼻を地上其他種々の物體に摩擦するを以て、容易に其存在を知り得べし。

驅除法 蠅の出づる時期を見計ひ、網を以て捕ふべし、家畜房は可成白色に塗り、以て蠅の存在を知るに容易ならしむべし、蛆の寄生せる微候を現はす場合には、噓煙草を鼻孔に挿入し、噓の都度共出で來たる幼蟲を殺すべし、砒石劑其他の劇劑を用ふるも蛆は容易に死することなし、蛆の發生夥しくして加害甚だしき場合は、鼻骨を切開して其内の蛆を殺すべし。

(三) うしばい *Hypoderma bovis* Deg. (第四十四圖版⑦)

被害動物 牛。

特徴 成蟲 黒色にして軟毛を密生す、顔は灰黄色、胸背に黒色の四縱條を負ひ、横條の前方に綠黄、稀に白色の長毛を簇生す、後脚部は黄色、後胸背及び腹部は黒色、後者基部の

兩側は白色若くは黄色、尾端は赤黄、翅は灰にして少しく灰色を帯び、眼は褐色、平均體長は黒褐、體長四分三厘乃至五分。

幼蟲 初めは白色、老熟すれば黒褐にして稍々梨形を呈し、瘤狀突起多く、又短刺を粗生す、第二節乃至第九節に至る迄各二個の光澤ある疣狀突起を裝ふ、體長七分乃至九分。

經過 年一回の發生をなす、成蟲は七月より九月に亘りて出で、牛の皮膚に産卵す、卵子孵化すれば皮下に蝕入して大害を加ふ、卵子は白色、一端は褐色、長楕圓形にして少しく扁たし、初めは甚だしく加害せざるも、第二齡以後は局部瘤狀に膨れ、其成長と共に瘤も亦大形となり、終に膿化して大害を加ふるに至る、老熟すれば地上に降り、蛹化す、蛹は黒色、蛹期は四週間に外。

驅除豫防法 牛の皮膚に蓖麻子油を塗り置くべし、腫物を破りて蛆を除却し、百倍の石炭酸液にて局部を洗滌すべし、蠅は注意して捕獲すべし。

虻 科 Tabanidae

(一) こまふあぶ *Haematopota trista* Big. (第四十四圖版⑧)

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗褐、眼の上方大半は淡黄褐、下方小部分は黒色、觸角は黒色、第三節の基



部は暗黄褐、顔は灰色、黒色の小點を密布す、小腮鬚は暗黄褐、胸背に三條の灰白線を縦走す、腹部は黒褐、各節の後縁は黄色、翅は暗色、灰色紋を散在す、脚は黒色、脛節の兩端は黄褐、體長三分四厘。

經過 未だ判然せざれども、幼蟲は蛇に同じく朽木に棲むものゝ如し。

驅除豫防法 成蟲を捕殺すべし、朽木を取り除くべし、牛馬の場合には蓖麻子油を塗抹し置くべく、林間を旅行するときは火繩を携ふべし。

(二) あかはねごまふあぶ *Haematopota rufipennis* Big.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、少しく大にして顔及び小腮鬚は黒色、第三觸角節の基部は赤褐、翅は赤褐を帯ぶ、體長三分五厘。

(三) めくらあぶ *Chrysops dispar* F. (第四十四圖版(9))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黒色、觸角は黒褐にして長く頭の二倍以上あり、第一節は黄色、頭は黄色、觸角上下の瘤狀突起は光澤ある黒色、胸背に四條の黄線を縦走す、翅は透明、前縁中央の三角紋及び其下方にある小紋は黒色、第一及び第二腹節は黄色、但し第一節の中央にある二紋は黒色、背線は黄色、脚は黒色、中脛節及び中後の跗節は末端を除き暗黄、體長三分五厘。

經過 未だ判然せず、幼蟲は土中に棲むものゝ如し。

(四) くらめくらあぶ *Chrysops japonicus* Wied. (*C. aterius* Kirby.) (第四十四圖版(10))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 全體光澤ある黒色、翅は白色透明にして少しく暗色を帯び、前縁及び中央の大三角紋は黒色、體長三分五厘。

(五) ひげながさしあぶ *Dichelacera japonica* Big.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角は暗黄、末端及び小腮鬚は黒色、白色を裝ふ、腹部は暗黄、基節は赤褐、尾節端は黒色、鱗狀瓣平均棍及び脛節は暗黄、翅は稍々透明なり、體長五分。

經過 不詳。

(六) こしろふあぶ *Tabanus amoenus* Wk. (*T. trigeninus* Coq.)

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は灰黒、複眼は黒褐にして少しく綠色を帯ぶ、顔は灰色、觸角は黒褐、第三節の基部は赤褐、胸背の中央に三個の灰白縦線を走らし、其中央にあるものは細し、翅は透明にして少しく暗色を帯ぶ、脈は黄褐、前縁は黒褐、鱗狀瓣は暗黄、平均棍は黄色にして末端の大部は黒褐、腹部は黒色、各節の後縁及び三角形の中央紋は灰白、脚は暗黒、脛節は末端を除き黄色、體長(雌雄)五分乃至六分。



(七) あかうしあぶ *Tabanus chrysurus* Loew. (第四十四圖版(11))  
被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黒褐、頭及び顔は黄色、複眼は暗黒にして少しく緑色を帯び光澤あり、觸角及び小腮鬚は黄色、口吻は黒褐、胸背は中央に二個の黄縦條を走らす、兩側も亦黄色なり、翅は透明にして少しく褐色を帯ぶ、脈は黄色、腹部は黒褐、各節の後縁は黄色、但し第六節以下は全部黄色、脚は黄色、腿節は末端を除き黒褐、跗節は褐色、體長(雌)八分乃至八分五厘、此は最大の虻にして北海道に普通なり。

(八) うしあぶ *Tabanus trigonus* Coq. (第四十四圖版(12))  
被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は灰黒、複眼は黒綠、顔は灰黄、觸角の第一及び第二節は黄褐、第三節は黄色にして末端は黒色、口吻は黒褐、胸背に灰白の五縦條を走らす、翅は透明にして少しく褐色を帯ぶ、脈は黄褐、前縁脈は褐色、腹部は黒褐、各節の後縁中央の三角紋及び側部は淡黄、脚は黒褐、腿節の末端及び脛節は黄色、體長(雌)八分、中國地方に普通なり。

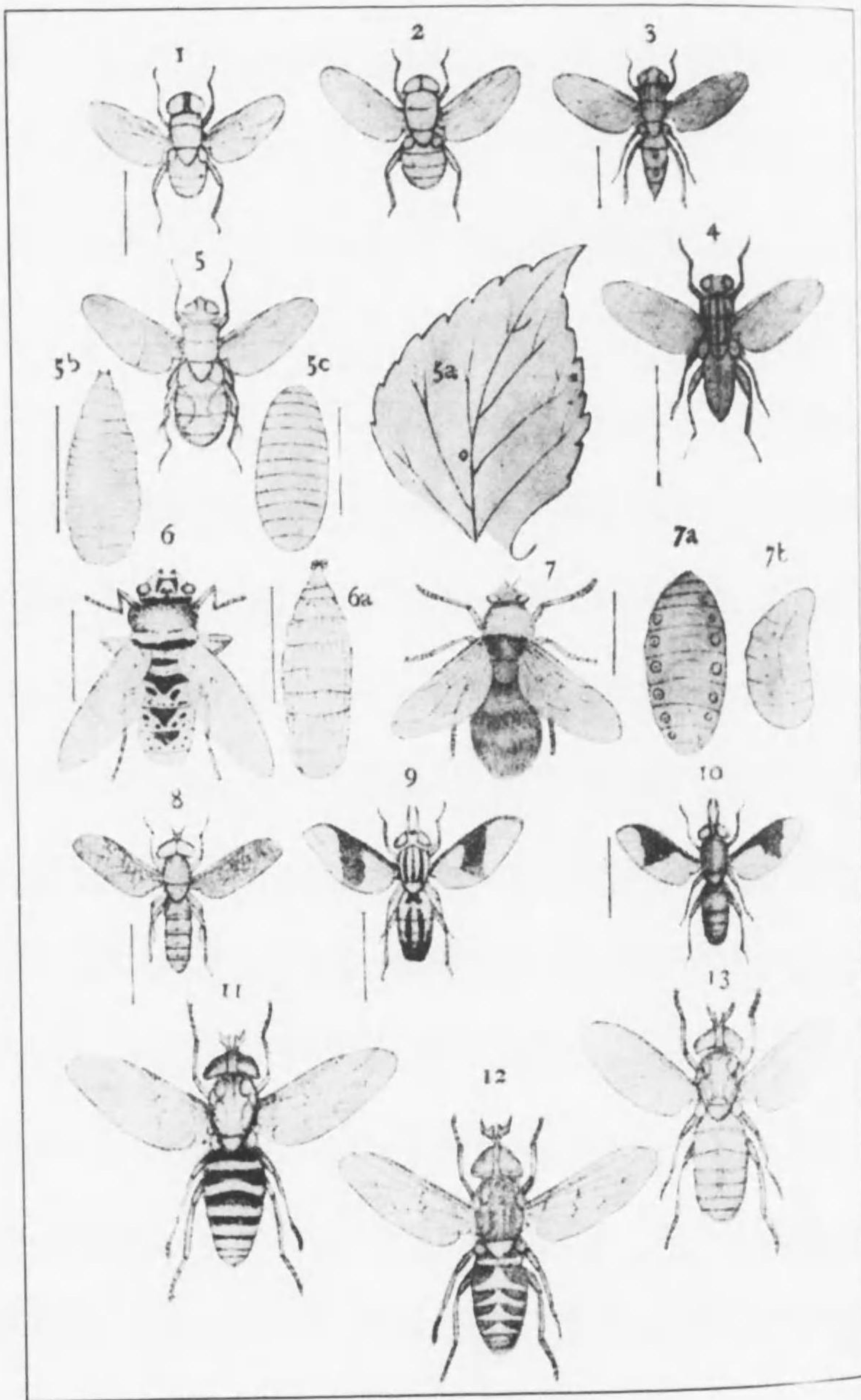
(九) あかあぶ *Tabanus rufidens* Big. (第四十四圖版(13))  
被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗灰色、灰色の短毛を密生す、複眼は暗黒にして少しく緑色を帯ぶ、顔は淡黄、短毛を密生す、觸角は黄色、第三節は基部及び枝狀突起を除き黄色、口吻は黒褐、胸

第四十四圖

Table with 2 columns: Species names and Plate/figure numbers. The text is mirrored from the right page.





第四拾四圖

- |   |                 |       |       |
|---|-----------------|-------|-------|
| 1. <i>Lucilia dux</i> Esch.                       | をびきんげい          | ..... | P.766 |
| 2. <i>Calliphora lata</i> Coq.                    | くろばい            | ..... | P.767 |
| 3. <i>Stomoxys calcitrans</i> L.                  | さしばい            | ..... | P.767 |
| 4. <i>Sarcophaga carnaria</i> L.                  | しまばい            | ..... | P.768 |
| 5. <i>Sturmia (Crossocosmia) sericariae</i> Rond. | かいこのうじばい        | ..... | P.769 |
|   | a. 卵 b. 幼蟲 c. 蛹 |       |       |
| 6. <i>G. rophilus equi</i> F.                     | うまばい            | ..... | P.770 |
|   | a. 幼蟲           |       |       |
| 7. <i>Hypoderma bovis</i> Deg.                    | うしばい            | ..... | P.772 |
|   | a. 幼蟲 b. 蛹      |       |       |
| 8. <i>Haematopota tristis</i> Big.                | ごまふあぶ           | ..... | P.773 |
| 9. <i>Chrysops dispar</i> F.                      | めくらあぶ           | ..... | P.774 |
| 10. <i>Chrysops japonicus</i> Wied.               | くろめくらあぶ         | ..... | P.775 |
| 11. <i>Tabanus chrysurus</i> Loew.                | あかうしあぶ          | ..... | P.776 |
| 12. <i>Tabanus trigonus</i> Coq.                  | うしあぶ            | ..... | P.776 |
| 13. <i>Tabanus rufidens</i> Big.                  | あかあぶ            | ..... | P.776 |



背には判然せざる三個の暗黒縦條あり、翅は透明にして淡褐を帯び、前縁及び脈は褐色、平均棍は褐色、腹部は赤褐、腹背の中央に黒色の縦條を走らし、其中に更に灰色の判然せざる縦條あり、腹面の中央には黒褐の太き縦條を有すれども尾端に達せず、脚は黒褐、脛節は黄色、體長(雌雄)七分乃至七分五厘。

(10) きばらあぶ *Tabanus tropicus* Meig.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は灰黒、複眼間にある光澤ある一個の黒紋あり、觸角は黄色、第三節末端の二分の一若くは三分の二は黒褐、胸背は光澤を有し灰色の三縦條あり、翅は透明にして少しく褐色を帯ぶ、脈は黄褐、腹部は灰黒、初めの第三、第四節の側面は廣く黄橙色、各節の後縁は細く黄色、脚は黄褐、脛節は末端を除き黒褐、跗節は褐色、體長(雌雄)五分五厘乃至六分、東北地方に普通なり。

(11) きいろあぶ *Tabanus pyrrhus* Wlk. (第四十五圖版(1))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黄褐、赤黄の短毛を密生す、複眼に紋條なし、觸角は黄色、小腮鬚は淡黄、口吻は黄褐、胸背には縦條を有せず、翅は透明にして前縁及び脈は黄色、鱗狀瓣及び平均棍は淡黄、腹背は赤黄、中央の短き縦條及び尾端の四節は黒褐、金色の短毛を密生す、脚は黄色、脛節端及び跗節は黒褐、體長(雌雄)四分五厘乃至五分、中國地方に普通なり。



## 水虻科 Stratiomyidae.

## (一) ひげながみづあぶ Stratiomyia barca Wk. (第四十五圖版(2))

被害植物 苗代の稚稻。

特徴 成蟲 體は黒褐、雄の複眼は相密着し、顔に金色の短毛を密生す、雌の後頭及び觸角の上方に各一個の黄色大紋を装ふ、觸角は黒色にして長く、第三節は大にして紡錘状をなす、胸背は黒褐、稜状部に黄色の二棘刺あり、翅は暗色半透明にして脈は黄褐、末端は透明、平均棍は淡黄、腹部は黒色、第一及び第二節の側面并に第三節の後縁は黄色、尾端の一縦條も亦黄色、脚は黒色、脛節の基部及び跗節は黄色、體長(雌雄)五分乃至五分五厘。

幼蟲 體は長き紡錘状、尾端に至るに隨ひ細小となる、暗色にして背上に暗黄色の四縦條を併走す、但し外側にあるものは斷續せり、頭は暗褐にして兩側に弓状の一縦溝を具へ、其兩側に各一個の單眼あり、尾節は細くして長さ次節に二倍す、體長一寸四分、俗に之を「なめうじ」と云ふ。

經過 年一回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、翌春泥水其他腐敗水に産卵す、稀に苗代に發生し、苗根を浮上して大害を加ふることあり。

驅除豫防法 早春花上にある蠅を捕獲すべし、苗代にて之を發見したる場合は水を落し

石灰酸に水を混じり灌漑すべし、又石油乳劑の十倍液を注ぐも効あり、又水は時々落して新鮮なるものを入るべし、水腐敗せざれば此害虫の蕃殖を見ることなし。

## 長角亞目 Nemalocora.

## 大蚊科 Tipulidae.

## (一) ひめきりうじがらんぼ Tipula parva Loew. (第四十五圖版(3))

被害植物 稻麥。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭の中央前胸胸側胸背の細き二縦條稜状部及び平均棍は黄色、觸角は淡黄にして末端は少しく暗色を帯ぶ、各節の末端は黒色、二三の剛毛を装ふ、翅は透明にして少しく暗色を帯び、中央に近く白色の透明紋あり、脈及び縁紋は暗褐、第一及び第二腹節の兩側は淡黄、脚は頗る長く、暗黄、腿節は淡色にして其末端は黒褐、體長三分五厘乃至五分五厘。

幼蟲 體は暗灰色、頭は小にして黒き大腮と觸角とを具へ、圓柱形にして横皺多く、尾端は截斷状に終り、其周圍に約十二個の肉状突起を具へ、中央に二個の氣門ありて其直下に肛門あり、體長七分五厘。



經過 年二回の發生、普通幼蟲の有様にて越年す、翌春蛹化し六月上旬羽化す、蚊は卵子を

苗代に産下す、其數三百内外なり、卵は黒色長楕圓にして一端に三角形の附屬物あり、七月下旬乃至八月上旬蛹化し、約二週間を経て羽化す、其性甚だ遅鈍にして低く飛翔す、幼蟲は粘土濕地又は日蔭を好み、晝間は泥中、地中若くは地物の下に住し、夜に至り稻麥の根際を嚼み切り大害を加ふ、故に此名あり。

驅除法 蚊は飛翔遅鈍なるを以て、其羽化の時期を見計ひ網を以て捕獲すべし、苗代に蕃殖したる場合は、前述の「ひげながみづあぶ」と同様の方法を行ふべし。

(二) おほきりうじがらんぼ *Tipula longicauda* Mats.  
被害植物 稻麥。

特徴 成蟲 體は灰色、口吻、小腮鬚及び觸角は黄色、第二及び第三節の末端は黒褐、胸背に灰褐の四縦條ありて、中央にあるものは後方に至りて細まる、稜狀部は暗黄、翅は透明にして少しく暗黄を帯び、翅底及び前縁並に縁紋は黄色、脈は褐色、平均棍は黄白、末端の頭狀部は黒褐、腹部は黄色、黒褐の一縦條あり、脚は黄色、腿節及び脛節の末端並に跗節は黒褐、體長(雌雄)六分五厘乃至八分。

經過 同前。

蚊 科 Culicidae.

(一) うすか *Culex pallens* Coq. (第四十五圖版中)

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 雌の頭は黄褐、口吻黄色、觸角褐色、第一節及び第二節の基部は黄色、胸背は黄褐、側片及び後胸は黄色、稜狀部は灰白、平均棍腹部及び脚は黄色、但し平均棍の末端は褐色を帯ぶ、翅透明、虹様の彩色を現はす、雄の雌と異なる重なる點は、其觸角長き旋毛狀を呈し、之に銀白の部分有するにあり、體長一分五厘乃至二分。

幼蟲 體は暗灰色、頭圓く、二個の單眼を具へ、大腮は割合に大にして内方に曲る、觸角に筈狀毛あり、腹部は大にして尾端に至るに隨ひ次第に細小す、尾節は二個に分れ、各其末端に氣門を開き、其周圍に放線狀の剛毛を裝ふ、體長三分。

經過 年數回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春二百乃至三百の卵子を溜水若くは潭水に産下す、卵子は蠟狀を呈し、互に相固着して船形をなす、數日の後孵化す、幼蟲は動植物性の腐敗物を食ひ、三週間にして約三回の脱皮を終り、蛹化す、蛹は活潑にして二個の判然せる角狀突起を裝ひ、其末端に氣門あり、幼蟲の運動する狀恰も棒を振るの觀あるを以て俗に「ぼうふり」と云ふ。

驅除豫防法 幼蟲を驅除するには石油を用ゆ、成蟲の黄昏軒下等に群集せる時期を見計ひ網を以て捕獲するか、又は除蟲菊の粉末を燻蒸すべし、蜻蛉は蚊を食餌となすが故に保護すべし、其幼蟲も亦「ぼうふり」を食とす、「テレビン」油を廣口の罎に入れ、開口した



る儘之を室内に置くも効あり。潭水の腐敗する場合には幼蟲の蕃殖する患あるを以て、成るべく新鮮なるものを入れ代ゆるか、然らざれば常に金魚などを入れ置くべし。

(II) くろか *Desvoidya obturbans* Wk. (*Culex subulbatus* Coq.)

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗褐、複眼の後方及び觸角の基部は暗黄、胸背の中央に褐色毛を裝ひ、兩側に白毛を混ず、翅は透明にして少しく暗色を帯ぶ、脈は暗褐、同色の鱗状毛を並列す、平均棍は淡黄、末端は少しく暗色を帯ぶ、腹部は暗褐、脚は暗黒、後腿節基部の大半は白色、夏日東京地方に普通なり、體長(雌雄)一分七厘乃至二分。

經過 同前。

(III) はまだらか *Myzorchynclus* (*Anopheles*) *sinensis* Wied. (第四十五圖版(5))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗灰色、頭小、觸角は細くして暗褐、太さ小腮より短し、胸背には褐色の五縦條を走らし、最も外側にあるものは太し、翅は透明にして少しく暗色を帯ぶ、脈は黄色にして黒褐及び黄色の鱗毛を有し、中央部に近く黒褐色をなせる四五個の鱗毛紋あり、平均棍は灰白、雌の腹部は暗黄、背線は黒褐、雄にては暗褐、金色の長毛及び短毛を混生す、脚は暗黄、跗節の各接合部は黄白なり、體長(雌雄)二分内外。

幼蟲 普通蚊の幼蟲は垂直に浮べども、此類にありては水平に游泳す。

經過 年數回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、其經過普通蚊と異なることなし、卵子は普通一個宛産下せられ、稍々紡錘状をなす、色は灰黒なり、成蟲の靜止するときは、口吻を前方に突出し、尾端を擧ぐるを以て、容易に識別することを得べし、此蚊の唾液線中に「プラスモデウム」と稱する下等動物を宿し、其刺螫の都度人類の血液に移り「マラリア」熱病を起す。

驅除豫防法 普通蚊と異なりて、靜止のときは口吻を下方に斜出し、腹端を上方に擧ぐるを以て、容易に區別するを得べし、播州高砂附近に發生する蚊は大部之なり(普通蚊と同じく黄昏軒下等に群集する時期を見計ひ網を以て捕獲すべく、幼蟲は普通蚊の幼蟲と異なり流水に棲息するを以て、注意して掬ひ捕ふべし、又魚を放ちて之れを捕食せしむるも可なり。蜻蛉の幼蟲は好みて之を食す、刺螫せられし場合には、針端にて其局部に穴を穿ち之に石炭酸の五十倍液を注ぐべし。

搖蚊科 *Chironomidae*.

(I) ぬかが *Ceratopogon jezoensis* Mats.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗灰色、觸角黄色、翅は灰白、半透明、縁紋は褐色、其兩側は白色、平均棍は白



色、腹面は黄色、體長(雌雄)三厘内外。  
幼蟲 未だ判然せざれども、歐洲産のものと同じく樹皮下若くは腐蝕植物下に棲息するもの、如し。

經過 不明なれども、山間に普通にして其甚だ微小なるに係らず之に刺整せらるゝときは甚だしき腫傷を生ず、札幌地方にありては九月頃最も多し。

驅除豫防法 障子には寒冷紗を張り其侵入を防ぐべし、一度室内に入りたるものは除蟲菊の粉末を燻して殺すべし、微小にして認識に苦しめども亦網を以て捕獲し得べし、刺整せられたる場合は前同様石炭酸五十倍液を用ふべし、又無臭沃度フォルムを塗抹するも有効なり、燈火に飛來するの性あるを以て誘殺すべし。

(11) おほぬか *Ceratopogon arakawa Mats.*

被害動物 鶏(入畜?)。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、形大にして翅は暗色、之に十三四個の白紋あるを以て容易に區別することを得べし、體長五厘。

幼蟲 黄白色、十一節より成り、前半次第に細小し、尾端切斷狀をなす、體長五厘。

經過 未だ判然せざれども、幼蟲は鶏糞中に棲息し、凡二週間位に一代を經過するもの、如し(四國地方にありて)稚鶏に大害を加ふ。

驅除豫防法 室内にありて除蟲菊を燻烟すること、網を以て捕ふることを停止するも

にはアルボース液に五十倍の水を混じて灌注すること、幼蟲は鶏糞中にあるを以て掃除すべし。

(12) いねゆすりか(すねつとか) *Chironomus oryzae Mats.* (第二百六十七圖)

被害植物 稻。

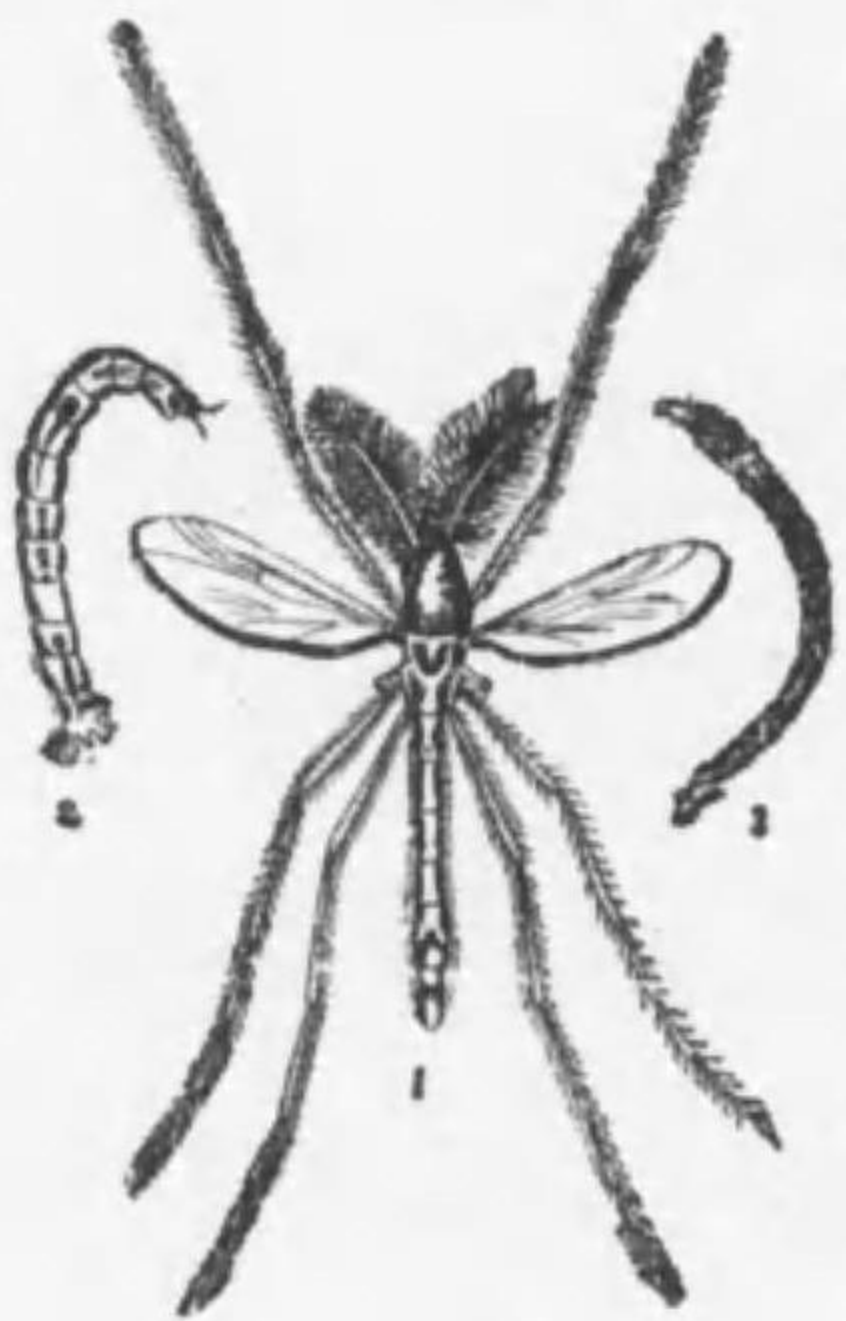
特徴 成蟲 體は黒色、雌にては觸角は絲狀をなせども、雄にありては甚だしく羽狀を呈す、暗黄色、體長七厘。

幼蟲 初めは灰色、老熟すれば淡き血色を呈す、頭は褐色にして大腮は甚だしく發達し、四齒あり、尾節第十二節に袋狀の四附屬物を具へ、其背上には二本の小突起ありて

之より長き硬毛を生ず、體長八厘常に一分餘の泥筒中に住す。

第二百六十七圖  
いねゆすりか

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 泥筒中にある幼蟲



經過 年四回の發生をなすもの、如し

成蟲の有様にて越年し、翌春四五月頃水上其他泥地に産卵するもの、

如し、第二回の蚊は六月中旬より七月に亘り、第三回は八月上旬乃至九

月第四回は九月下旬乃至十月下旬雌の産卵數は百内外、蛹は泥筒中において黄色、尾端に長毛を裝ふ、苗代に發生し時に大害を加ふることあり。



驅除法 蚊の發生する時期を見計ひ網を以て捕ふべし、但し群生するの性あるを以て捕殺し易し、幼蟲には石油を用ふべし(一反歩に付苗代なれば八合、本田には一升位の割合)。

蚋 科 Simuliidae.

(一) きあしぶゆ(ぶよ) *Simulium crassitarsis* Macq. (第四十五圖版(6))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗色、金色の短毛多し、觸角は短くして黒色、紡錘狀にして十節より成り、前胸は稍々球形に膨起す、翅は透明、前縁の三脈は暗黄にして判然すれども、他の脈は淡色にして判然せず、脚は黄褐、雄にては脛節及び跗節膨大す、體長九厘乃至一分二厘。  
驅除豫防法 林間を行く場合には西洋蚊帳布を以て袋を造り覆面すべし、火繩を携帯するも亦有効なり、又小川に魚を放ち幼蟲を捕食せしむべく、刺蝮せられたる場合には「ぬかが」と同様に石炭酸の五十倍液を塗抹すべし、釣魚家は手袋を用ふるか若しくは蓖麻子油を塗抹するを良しとす。

(二) あしまだらぶゆ *Simulium colubtzensis* Schin.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黒色、黄色の短毛を被ふ、觸角の基部は黄色、轉節、腿節の基部、脛節の大部分。(末端を除く)並に第一跗節の基部は白色、平均棍は黄白、他は前種の如し、體長八厘乃至一分。本邦最も普通なる種類にして、何れの地に至るも其發生を見ざるなし、殊に北海道及び樺太に普通なる種類にして、農家に大害を加ふ。

(三) おほぶゆ *Simulium kawamurae* Mats.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黒色、觸角の基部は黄色、前胸背前縁の兩側は黄褐、胸背には金の短毛を粗生す、光線の工合により前縁及び兩側は白色、翅は透明にして基部は黄色、平均棍は鮮黄色、腹部に暗黄帯あり、脚は黒色、基節、轉節及び腿節の基部は暗黄、脛節及び第一跗節は末端を除き白色、體長一分四厘、九州熊本地方に普通なる種類なり。

(四) ひめぶゆ *Simulium arakawae* Mats.

特徴 成蟲 體は黒色、觸角は短大、脚は黒褐、跗節は暗黄、翅は透明にして前縁の太き脈は暗黄、體長五厘、札幌地方に稀ならざる種類なり。

微翅目 Aphaniptera.

蚤 科 Pulicidae.

(一) のみ蚤 *Pulex irritans* L. (第四十五圖版(7))



第四圖正圖

1717	<i>Trioxys parvulus</i> W.	トリアクシス パルヴルス
1718	<i>Microgaster parvulus</i> W.	ミクロガスター パルヴルス
1719	<i>Trioxys parva</i> Low.	トリアクシス パルヴァ
1721	<i>Trioxys pallens</i> Goul.	トリアクシス パレンス
1722	<i>Microgaster pallens</i> (Andr.) Wied.	ミクロガスター パレンス
1723	<i>Microgaster crassicornis</i> Mord.	ミクロガスター クラスコルニス
1724	<i>Trioxys irritans</i> L.	トリアクシス イリタンス
1725	<i>Microgaster muscivorus</i> Duf.	ミクロガスター ムスカビウス

被害動物 人・猿。

特徴 成蟲 體は側扁にして赤褐、頗る光澤あり、觸角口吻及び脚は淡色、體は後方に傾斜せる剛毛を粗生す、脚は側扁にして大に、後肢は甚だしく發達して跳躍に適す、剛毛多し、體長雌雄三厘五毛乃至九厘。

幼蟲 細長なる圓柱形にして白色、剛毛を粗生す、觸角は短くして二節より成り、口は咀嚼に適す、頭を除き十三節より成り、尾端に二個の尾狀突起を裝ふ、體長一分二厘。

經過 年數回の發生をなす、幼蟲の有様にて疊下に越冬し、翌春蛹化し、次で成蟲となる、蛹は側扁にして尾端に二個の突起を裝ふ、前方の脚鞘は判然とす、幼蟲は初めは白色、次第に暗色となり、甚だ活潑なり、塵埃を集めて巢を造り、其内に蛹化す、寒帯及び熱帯には稀なれども、温帯地方には普通なり。

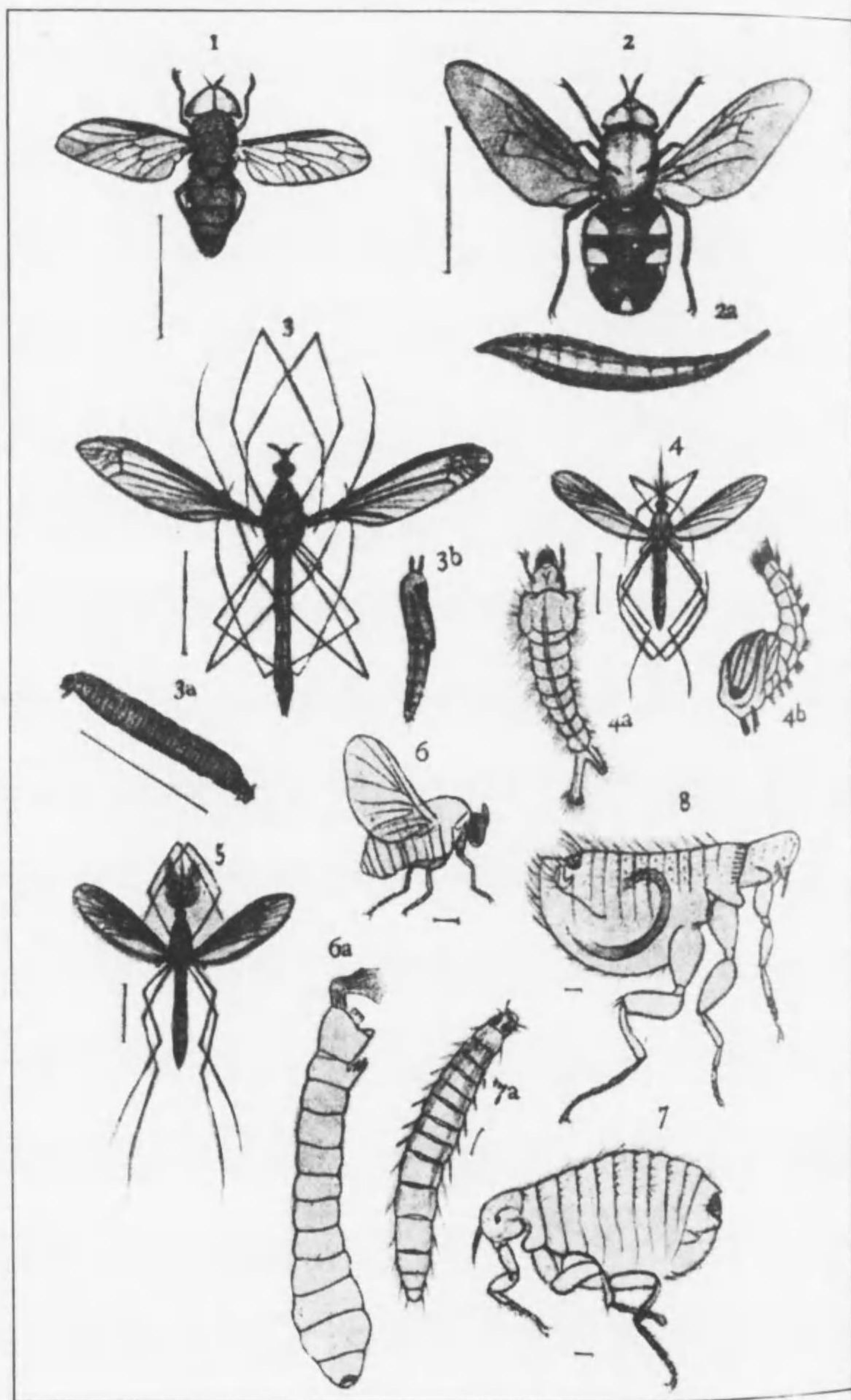
驅除豫防法 除蟲菊を撒布すべし、疊の下には除蟲菊又は胡桃の葉を挿入し置くべし、疊下は可成清潔になし置くべし。

(II) いぬのみ *Ceratopsyllus canis* Deg.

被害動物 人・犬・猫・鼠。(C. felis Bouch.)

特徴 成蟲 前種に酷似すれども後頭及び前胸背の前縁に各七個乃至九個の齒狀刺毛を有す、脚は長く、前跗節にては第五節、後跗節にては第一節最も長し、體長八厘乃至一分一厘。





第四拾五圖

- 1. *Tabanus pyrrhus* Wk. きいろあぶ .....P.777
- 2. *Stratiomyia barca* Wk. ひげながみづあぶ .....P.778  
a. 幼蟲
- 3. *Tipula parva* Loew. ひめきりうじかがんぼ .....P.779  
a. 幼蟲 b. 蛹
- 4. *Culex pallens* Coq. うすか .....P.781  
a. 幼蟲 b. 蛹
- 5. *Myzorrhynchus (Anopheles) sinensis* Wied. はまだらか .....P.782
- 6. *Simulium crassitarsis* Macq. きあしぶゆ .....P.786  
a. 幼蟲
- 7. *Pulex irritans* L. のみ .....P.787  
a. 幼蟲
- 8. *Ctenopsyllus musculi* Dug. いんどのみ .....P.789



幼蟲 同前。

經過 同前、但し普通蚤の如く甚だしく跳躍せず、猫蚤は從來別種の如く思考せられたれども、近時共同種なること判然せり、此種は又鼠に寄生することあり。

驅除豫防法 除蟲菊をアルボース石鹼水に浸漬し、之を以て洗淨すべし。

(三) いんどのみ *Ctenopsyllus musculi* Dug. (第四十五圖版(8))

被害動物 人鼠。

特徴 成蟲 普通蚤と異なる所は、體甚だしく側扁にして細長きことなり、而して後脛節の刺は一例にして相接近し、頭は稍々圓錐形に近く、眼を缺き、色は少しく淡色なり、體長六厘乃至七厘五毛。

幼蟲 未だ判然せざるも、普通蚤と同じく塵埃を食するものならん。

經過 未だ充分の經過を知るを得ざれども、鼠の死後人類に移り來り加害す、若し死鼠より移り來りたるものとせば、其病菌を人類に移殖するや明なり、彼のベスト菌の如きは多くは此蚤によりて傳播せらるゝものなり。

驅除法 鼠を驅除すべし、人類に移り來りたるものは、普通の蚤と同じく除蟲菊を用ゆべし。

(四) とりのみ *Xestopsylla gallinacea* West.

被害動物 人、猫、犬、馬、家禽等。



特徴 成蟲 普通蚤よりも遙に小形にして形短く、殊に胸部は甚だしく短縮し緊縮あり、

下唇鬚及び觸角の第三節に副節なし、小腮鬚は長し、體長五厘。

經過 未だ判然せず、家禽に普通なる種類なれども、時に移り來り加害することあり、此他左の二種は鼠に寄生するものなるも、往々人類に寄生することあり。

驅除法 油紙若くは油布にて袋を造り、其内に家禽若くは家畜を入れ、後更に苛酸加里の

二三片を其中に入れ置くべし、然るときは數時間の後全體の蚤を驅除し得べし、但し此袋は頸に縛る様になすべく、頸以上にある蚤には二硫化炭素若くは除蟲菊アルボリス石鹼水を加へたるものを塗抹すべし。

(五) ねづみのみ *Pulex cheopis* Roth.

被害動物 人鼠。

普通蚤よりも遙に短小なり

(六) おほねずみのみ *Deratopsyllus fasciatus* Bosc.

被害動物 人鼠。

普通蚤よりは遙に大なり。

### 鞘翅目 Coleoptera.

#### 瓢蟲科 Coccinellidae

(一) にじゅうやほし(一名てんたうむしだまし) *Epilachna 28-maculata* Motsch. (第四十六圖版(1))

被害植物 茄子、馬鈴薯、南瓜、西瓜等。

特徴 成蟲 黄褐、前胸の三紋及び翅鞘の二十八紋は黒色、即ち各翅鞘には 2 3 3 3 2 1 の六列に排列す、脚及び體下は少しく淡色なり、體長(雌雄)二分五厘。

幼蟲 灰白、各節に四個乃至六個の分岐せる黒色の刺毛を横列し、其一刺に約十二三分刺を裝ひ、其分刺には關節あり、頭は灰黒、脚は割合に長く、一個の爪あり。

經過 年一回稀に二回の發生をなす、成蟲の有様にて越年す、翌春軟葉を食ひ之に産卵す、

卵は黄色、長楕圓形にして兩端細小す、十二三日にて孵化す、一雌の總産卵數は二百内外、卵子より出でたる當時は黄白色、葉緑層を食するを以て網狀の纖維を殘留す、約三週間にて蛹化す、蛹は黄白色にして頭部に黒紋を裝ふ、物に驚くときは脚の關節より黄色の液汁を滲出す、晩秋に至り軒下、朽木下等に入りて越年す。

驅除法 物に驚くときは脚を縮小して地上に落つる性あるを以て、心臟形の網内に拂ひ落すべし、幼蟲には十五倍の石油乳劑を用ふ。

(二) おほにじゅうやほし *Epilachna 23-functata* F. (第四十六圖版(2))  
被害植物 同前。



特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は體の大にして總べて斑紋の遙に大なる

こと、前胸背の三紋は縦に長きこと、體は黒褐なること等なり。體長雌雄三分乃至三分五厘。

幼蟲 前種に酷似すれども少しく大なり。

經過 同前。

擬瓢蟲科 Endomycidae.

(一) きいろてんたうむしたまし *Saula japonica* Gorb. (第四十六圖版③)

被害植物 樟。

特徴 成蟲 體は黄色乃至黄褐、觸角黑色、基部の三節暗黄、末端の三節太し、頭及び前胸背は黄褐、後者の後兩側は銳角をなして突出す、兩側に灰色の短毛あり、翅鞘は少しく弓狀に膨起し、灰色の軟毛多く、點刻は細微なるを以て判然せず、脚は黒褐、脛節の基部並に爪は黄褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、年二三回の發生をなすものゝ如し、九州地方にありては四月上旬より現はれ、樟樹の葉を食害す、第二回の成蟲は七月中旬、第三回は八九月出づるものゝ如し、其害甚だしからず。

驅除法 同前。

金花蟲科 Chrysomelidae.

(一) かめのこはむし *Cassida nebulosa* L. (第四十六圖版(4))

特徴 成蟲 體は楕圓形、體上は少しく穹狀に膨起し、若きものは灰白、老いたるものは黄褐、體下は光澤ある黑色、前胸背は横楕圓形にして斑紋を缺き、翅鞘には多數の小黑點を散在す、脚は黄色、體長(雌雄)二分五厘内外。

幼蟲 體は黄緑にして平たく、各節の兩側に各一本の太き肉刺を具へ、之に六七個の小刺を裝ふ、小枝には關節を有するものあり、尾端には長き尾狀の附屬物を有し、平時は之を上方に舉げて蟲糞を附着せしめ、以て外患を免るゝものゝ如し、體長三分内外。

經過 年一回の發生をなす、稀に二回の發生をなすことあり、成蟲の儘越年し、翌春甘菜、菜の如き植物に集まりて之を食ひ同時に産卵す、卵子は黄色、長楕圓形にして葉下にありて塊をなす、其成長不整にして大小の幼蟲を混するを常とす、數回の脱皮後、葉下に懸垂して蛹化す、蛹は背で幼蟲の裝へる脱皮を尾端に附着す、形成蟲に似るも體側に肉様の突起を有す、前胸背は大、前縁に三個の切目ありて其縁に小刺を列ぬ、蛹期八日内外甚だしき大害をなさず。

驅除法 同前。

(二) ひめかめのこはむし *Cassida nigroguttata* Gorb. (第四十六圖版(5))



被害植物 同前。

特徴 成蟲 前者に酷似すれども遙に小形なり、前胸背及び翅鞘の兩側は鼈甲様の黄色、前者の中央にX字形の黒紋を具へ、後者の兩側には甚だしく凹陥せる部分ありて其上に弓狀の太き黒紋及び小黒紋を散在す、縦隆は高く、點刻は大にして深し、脚は黄色、體下は黒色、體長(雌雄)一分七厘乃至二分。

幼蟲 前種に酷似すれども小形なり。

經過 同前。

(三) いねのとげどげ(一名鐵甲龜) *Hispa callicantha* Bates. (第四十六圖版(6))

被害植物 稻甘蔗粟稗等。

特徴 成蟲 體は黒藍色、眼、觸角脚及び體下は黒色、觸角は體の半より長く、末端の棍棒狀をなせる六節は黒褐、前胸背に四分せる指様の棘狀突起あり、尙其後方に一棘刺あり、翅鞘には點刻多く、各二十内外の棘刺を裝ふ、脚は割合に長く、腿節の末端は赤褐、體長(雌雄)一分五厘内外。

幼蟲 扁平長楕圓形にして白色を呈し、少しく綠色を帯ぶ、淡黄色の太き且低き縦隆起を有し、其兩側には細き數條の縦皺を有す、頭部は細小、第一、二、三の三節は其兩側圓く、他は皆突起を出し、尾節の背上には二つの刺狀突起あり、體長二分内外。

經過 年五回の發生をなし、成蟲の狀態にて越冬す、三月上旬より苗代に飛來し、葉の裏面

(四) かたびろとげどげ *Hispa sulquadrata* Baly. (第四十六圖版(7))

被害植物 櫟楡及び其他の殼斗科植物。

特徴 成蟲 暗黒色、頭觸角前胸背の兩側翅鞘下半部の側緣並に後緣、脚腹面等は黄色乃至黄褐、前胸背の棘狀突起は黄色にして其尖端は黒色、翅鞘には黄褐の斑紋ありて稜狀部の下方にあるものは稍々X字形をなす、肩部は弓狀に膨脹し、中央の側緣は弓狀に刻らる、側緣の棘狀突起は鋭尖なり、鞘上には瘤狀突起及び縦隆起あり、體長一分六七厘。

經過 未だ判然せざれども、成蟲は五六月頃より現はれ、櫟楡其他の殼斗科植物の葉縁層を食す、白色にして稍々平たし、老熟すれば葉組織内に蛹化すること、前種の如し、此害に罹りたるときは葉の表裏共に褐色に變色す、中國及び九州に普通なれども東北地

に止まり、葉皮を喰して食す、一個宛葉肉内に卵を産下し、其の孵化せる幼蟲は葉肉を食して更に下方に下り約二寸内外に及ぶ頃老熟す、蛹は黄色にして長楕圓形を呈し、前胸背の兩側に短き指様の四刺あり、又腹部の兩側に小刺を列ね、第五節にあるもの最も大なり、長さ一分六厘、常に稻葉の皮下にあり、臺灣にては有名なる害虫の一なり。

驅除法 拘網を以て稻葉を掬ひ捕ふべし、幼蟲及び蛹は葉皮下にあるを以て如何なる藥劑を用ふるも効なし、故に一匹宛手にて捕ふるの外なし、但し其幼蟲若くは蛹のある處は白枯せるを以て容易に識別するを得べし。



(五) だいこのみはむし *Psyllodes angusticollis* Baly.  
方には稀なり、北海道に産せず。

被害植物 蔬菜類。

特徴 成蟲 體長卵形にして膨起し、地色は黒緑、觸角は暗褐にして體の半に達す、翅鞘には二十餘條の點刻列を縦列し、其列間は殆ど平滑、各脛節は黄褐、後腿節は黒色、體長六厘乃至七厘。

経過 發生の回数未だ判然せざるも、或者は幼蟲の儘越年し、翌春四五月に至りて成蟲となる、植物の稚葉を食ひ、老熟して地中に蛹化する、蛹期は八日乃至十四日間、成蟲は卵子を一個宛葉下に産附し、之より孵化せる幼蟲は葉柄若くは葉脈に潛入して食害す、性甚だ活潑にして、早天に於て其害殊に甚だしく、人之に近づけば忽ち跳躍す。

驅除法 日中は殊に跳躍するの性盛なるを以て、鳥黏に四五割の魚油若くは種油を混煮せるものを用ひて捕ふべし、早朝夜露の未だ乾かざる前心臟形の受網の内に落し適宜に殺すべし、亞砒酸銅(綠色砒石)或は亞砒酸鉛に百倍の澱粉を混じ、散粉器を以て撒布すれば甚だ有効なり。

(六) おほだいのみはむし *Psyllodes punctifrons* Baly. (第四十六圖版(7))

被害植物 蔬菜類、ホトケ草。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども稍々大にして色は濃緑、頭小さく、觸角は暗黄、基節及び

脚は黄色、翅鞘の點刻列間に小點刻を密布す、後腿節は甚だしく膨大し、黒色を帯ぶ、體長一分。

経過 前種に同じ。

驅除法 同前。

(七) むぎのみはむし *Chaetocnema cylindrica* Baly. (第四十六圖版(9))

被害植物 麥類。

特徴 成蟲 體卵形に近く、光澤ある黒綠色を帯ぶ、觸角暗黒、其基部にある四節及び脚は黄褐、後肢の腿節は甚だ膨大し、黒褐なり、體長八厘乃至九厘。

経過 未だ判然せざれども、早春麥類を害すること大なり。

驅除法 同前。

(八) むぎのりのみはむし *Chaetocnema japonicum* Jac.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども翅鞘は美麗なる青藍色、觸角は暗黒にして其基節の三、

四節は黄色、頭及び前胸背に點刻多し、脚は黄色にして腿節は黒褐、體長八厘。

経過 未だ判然せざれども前種に混じて麥の稚葉を食害す、其害甚だしからず。

驅除法 同前。

(九) くはのみはむし *Phyllotreta funesta* Baly. (第四十六圖版(10))



被害植物 桑。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、脚は黒褐、觸角の基部に於ける三節及び跗節は赤褐、眼大前胸背の中央に顆粒状の小突起と小點刻とあり、兩側にも亦各一個の小突起を裝ふ、翅鞘は前胸より少しく廣く、兩側は稍々平行し、小點刻を散在す、體長一分乃至一分三厘。

經過 未だ判然せざるも、早春より現はれ、稚葉を食害すること大なり、秋田地方にありて其害大なり、「じやうかいぼん」は好んで之を捕食す。

驅除法 同前。

(10) きすちのみはむし *Phyllotreta sinuata* Redt. (第四十六圖版(11))

被害植物 蘿蔔、蕪菁、萵菜、其他の十字科植物。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、頭は前胸より小、頭頂に點刻なく、額には少數の點刻を具ふ、觸角は絲状、基節の二三節は暗黄褐、末端は大なり、翅鞘の兩側に各一條の廣き黄色線を裝ひ、其翅底に近き一端は稍々靴形をなして膨大し、他の一端は少しく内方に曲る、後腿節は膨大す、脛節の基部及び跗節は黄褐、何れも灰白の短毛を粗生す、體長八厘、幼蟲 形細長にして稍々圓柱形、尾端細し、色は黄白、頭第一節及び尾節の硬皮板は暗褐、各節に瘤状の小突起ありて之より各一本の短毛を生ず、脚は三双、尾脚あれども小なり。

經過 年四五回の發生をなす、成蟲の有様にて土地若くは落葉下に越冬し、翌春野生十字科植物の葉下に一個宛の卵子を産下す、之より孵化せる幼蟲は其處に一代を終りて成蟲となり、直ちに培養植物に來りて食害するものゝ如し、卵は葉下の脈に沿うて産附せらる、卵期十日内外、幼蟲は孵化後葉下に潛入して葉綠層を食ふ、凡一週間に老熟し、地下一寸七八分の處に入りて蛹化す、蛹は裸蛹にして暗黄、蛹期は凡十五日間、普通一代の經過に凡一ヶ月を要す、幼蟲は加害甚だしからざるも成蟲は稚葉を食害すること猖獗なり、殊に早天に於て然りとす、其性雨露を嫌忌し、日中は性活潑にして盛に跳躍す。

驅除法 同前。

(11) あゐのみはむし *Crepidodera chloris* Foudr. (第四十六圖版(12))

被害植物 藍甘菜。

特徴 成蟲 體は長卵形、光澤ある黒色、觸角黒色、基部の二三節は黄褐、頭は褐色、點刻を有せず、但し複眼の内側に二三個の小點刻を有す、前胸背には點刻多く、基部には横溝ありて其終末に各一條の縱溝あり、翅鞘は前胸より廣く、點刻の縱列を連ね、脚は黒色、脛節及び跗節は黄褐、體長七厘乃至九厘。

經過 未だ判然せざるも、早春甘菜及び藍畑に現はれ、稚葉を食害す。

驅除法 同前。



(一一) むぎながのみはむし *Crepilodera japonica* Baly.

被害植物 麥類。

特徴 成蟲 體は長楕圓形にして光澤ある黒緑、觸角は黒色にして基部の三四節は黄褐、頭及び前胸背には點刻多く、後者基部の兩側は凹陥し、更に其兩側に短縱溝あり、翅鞘は前胸より少しく廣く、殆ど相平行し、點刻を縱列す、脚は黒褐、脛節及び跗節は黄褐なり、體長一分内外。

經過 早春麥圃に現はれ、稚葉を食し、時に大害を加ふることあり。

驅除法 同前。

(一二) あさのみはむし *Halica flavicornis* Baly. (第四十六圖版(13))

被害植物 大麻。

特徴 成蟲 體は長卵形にして黒色、少しく綠色を帶ぶ、觸角は黄白、末端は黄褐、頭は小にして點刻なく、前胸背には點刻多く、基部には淺溝を横走す、翅鞘は前胸より廣く、之に不規則なる點刻列あり、體長七厘。

經過 未だ判然せざれども、恐らくは他の植物に卵子を産下するものならんか。

驅除法 同前。

(一四) かみなりはむし *Halica coerulea* Baly.

被害植物 赤楊、神、白楊、新。

特徴 成蟲 體は黒藍色、頭及び觸角は黒色、第一觸角節の兩端は黄褐、前胸背には點刻を

缺き、頗る光澤を有し、後縁に近く一横溝を穿ふ、翅鞘には點刻多し、然れども割然たる

縱列をなさず、脚及び體下は黒色、後脛節は肥大し、跳躍に適す、體長一分五厘乃至二分。

經過 未だ判然せざれども、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は六月上旬、第二回は八月、第三回は九月、臺灣及び沖繩地方にありては年數回の發生をなすものゝ如し、沖繩にありては三月頃より現はれ、幼蟲は葉上にありて葉を食ひ、老熟すれば地中に入りて蛹化する、葉上にありて跳躍する音盛なるを以て此名あり。

(一五) すちかみなりはむし *Halica latericosa* Jac.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる主點を擧ぐれば左の如し。

一、翅鞘上にある點刻は微小にして甚だしく判然せず。

二、翅鞘の兩側(前縁)に各一條の縱隆ありて、其末端は稍々翅端に達す。

三、觸角第一節の兩端は黄褐ならず。

四、少しく小形なり、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過 未だ判然せざれども、前種と同様なるべし、臺灣及び沖繩に産せず、本邦には普通にして前種よりも一層多し。

(一六) こかみなりはむし *Halica viridicyanea* Baly.



圖六卷四第

197.10. 197.11. 197.12. 197.13. 197.14. 197.15. 197.16. 197.17. 197.18. 197.19. 197.20. 197.21. 197.22. 197.23. 197.24. 197.25. 197.26. 197.27. 197.28. 197.29. 197.30. 197.31. 197.32. 197.33. 197.34. 197.35. 197.36. 197.37. 197.38. 197.39. 197.40. 197.41. 197.42. 197.43. 197.44. 197.45. 197.46. 197.47. 197.48. 197.49. 197.50. 197.51. 197.52. 197.53. 197.54. 197.55. 197.56. 197.57. 197.58. 197.59. 197.60. 197.61. 197.62. 197.63. 197.64. 197.65. 197.66. 197.67. 197.68. 197.69. 197.70. 197.71. 197.72. 197.73. 197.74. 197.75. 197.76. 197.77. 197.78. 197.79. 197.80. 197.81. 197.82. 197.83. 197.84. 197.85. 197.86. 197.87. 197.88. 197.89. 197.90. 197.91. 197.92. 197.93. 197.94. 197.95. 197.96. 197.97. 197.98. 197.99. 197.100.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は藍色、觸角稜狀部脚及び體下は黑色、但し個種により前胸背の黑色なるものあり、翅鞘の點刻は「かみなりはむし」に酷似すれども一層小形なり、體長一分二厘。

經過 不明なれども柳に普通なる種類にして、五月頃より十月迄加害あり、跳躍する性は前種と異ならず。

(一七) くははむし *Aenidia armata* Baly. (第四十六圖版(14))

被害植物 桑、萃樹。

特徴 成蟲 形細長、體は黑色、翅鞘は光澤ある黒線、顔觸角其基部の下面前肢の腿節端脛節及び附節は暗黄、觸角は長くして體長の半を超え、暗色を帯ぶ、前胸背は光澤ある黒藍色、中央に横溝を具へ、別に短淺の縦溝ありて前者と十字形をなす、翅鞘は長方形稜

狀部は黑色、肩部には少しく瘤狀をなせる部分あり、其成熟せるものにおいて腹部膨大し、尾節を翅鞘端より露出す、體長二分乃至二分三厘。

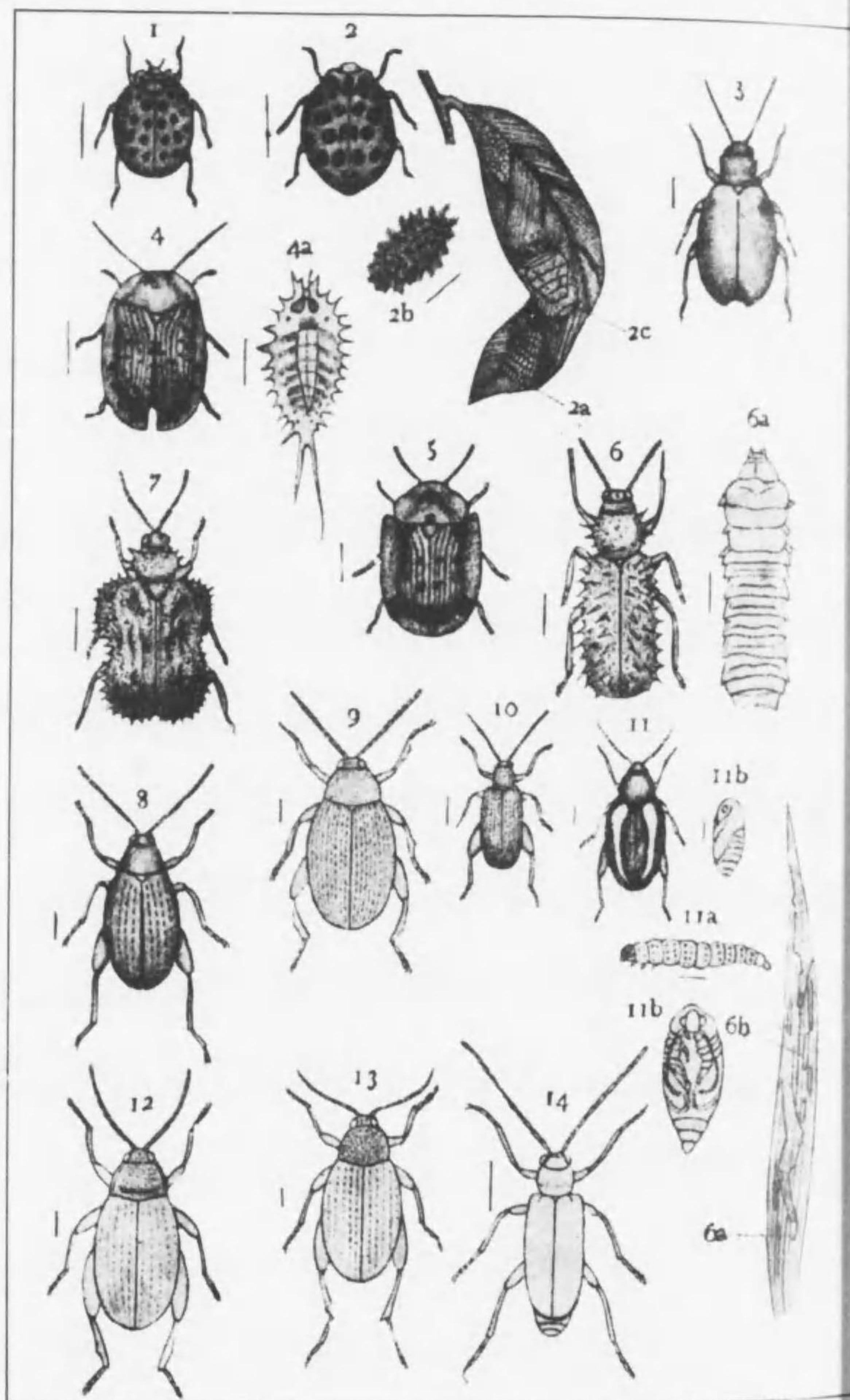
經過 未だ分明ならざれども蛹の有様にて地中に越冬し、翌春五六月に至り羽化するものゝ如し、其害甚だしからず、性遲鈍にして動搖すれば脚を縮小して地上に落つ。

驅除法 朝露の未だ乾かざる早朝樹上の成蟲を受網内に落して殺すべし。

〔附言〕拙著害虫目錄に此學名を *Luperus impressicollis* Motsch. となせるは誤なり、爰に之を訂正す。



圖六拾四第



第四拾六圖

1. *Epilachna 28-maculata* Motsch. にじゅうやぼし.....P.791
2. *Epilachna 28-punctata* F. おほにじゅうやぼし.....P.791  
a. 卵 b. 幼蟲 c. 蛹
3. *Saula japonica* Gorb. きいろてんたうむしだまし.....P.792
4. *Cassida nebulosa* L. かめのこはむし.....P.793  
a. 幼蟲
5. *Cassida nigroguttata* Gorb. ひめかめのこはむし.....P.793
6. *Hispa callicantha* Bates. いねのとけどげ(一名兼甲龜).....P.794  
a. 幼蟲 b. 成蟲加害の状況
7. *Hispa subquadrata* Baly. かたびろとげとげ.....P.795
8. *Psyllodes punctifrons* Baly. おほだいこのみはむし.....P.796
9. *Cha tocnema cylidrica* Baly. むぎのみはむし.....P.797
10. *Phyllotreta funesta* Ba'y. くはのみはむし.....P.797
11. *Phyllotreta sinuata* Redt. きすぢのみはむし.....P.798  
a. 幼蟲 b. 蛹
12. *Crepidodera chloris* Fondr. あるのみはむし.....P.799
13. *Haltica flavicornis* Baly. あさのみはむし.....P.800
14. *Aenidia armata* Baly. くははむし.....P.802



(一八) ふたすぢひめはむし *Monolepta nigroliniata* Motsch.

被害植物 荳科植物 稻 甘蔗。

特徴 成蟲 體黄色、頭は黄褐、大點刻を装ふ、觸角は黄褐、絲狀にして體長の半を超え、前胸

背は稍々卵形に近く、翅鞘は胸背より遙に廣く、中央に各一條の黒線を縦走すれども翅端に達せず、體長一分乃至一分二厘。

經過 未だ判然せざれども早春荳科植物、殊に大豆の子葉を出せる頃より現はれ、葉面に圓形の孔を穿ちて食害す、臺灣地方にありて稻甘蔗を害することあれども、其害大ならず、札幌地方に稀なれども東北地方には多し。

(一九) ほたるはむし(一名あゐのうらむし) *Monolepta dichroa* Har.

被害植物 藍草 棉 蔬菜。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、口部は褐色、頭前胸背及び觸角の基部は黄色、觸角は暗褐

翅鞘は隆起し微小の點刻あれども、判明ならず且つ縦列をなさず、脚は暗褐、腿節の末端及び脛節の基部は黄色、體長一分二厘乃至一分五厘。

之に變種ありて *var. apicipennis* Jac. と云ふ、原種と異なる所は翅鞘端の黄色を呈するにあり、本邦にては變種の方多し。

經過 年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有様にて越年す、第一回は六月中旬乃至下旬、第二回は九月乃至十月、蔬菜其他作物の葉を食ひ、葉面に多數の小孔を穿つ。



幼蟲は常に葉の裏面にあるを以て「うらむし」の名あり、五月下旬蛹となり、次で羽化  
第二回の幼蟲は七月中旬に至りて蛹化す、廣く本邦に播布す。

驅除法 同前。

(110) リんごはむし(はんのきはむし) *Agelastica alni* L. var. *coerulea* Motsch. (第四十七圖版(1))  
被害植物 苹果、梨、櫻、桑、赤楊。

特徴 成蟲 地色は紫藍色若くは緑藍色、觸角稜狀部脛節及び跗節は黒色、頭頂には圓形  
の凹陥せる部分あり、觸角は長くして體の半に達す、前胸背は稍々隆起す、稜狀部は三  
角形、翅鞘は前胸より廣く、尾端に至るに隨ひ増大す、脚及び觸角には灰黄の短毛を密  
生す、爪の兩内側に太き疣狀突起あり、體長二分三厘乃至二分五厘。  
幼蟲 黒色、長楕圓形にして扁く、光線の工合にて少しく綠色を帯ぶ、體下は灰黄、頭及  
び第一節の硬皮板并に各節に於ける疣狀突起は光澤ある黒色、各背上の突起は長く  
して横置せらる、胸部は他節より大きく其兩側膨起し、之に黄色の剛毛數本を生ず、各  
腹節の兩側も亦膨起し、其中央には各横溝を具へ、尾端は截斷狀に終る、全體黄色の剛  
毛多し、脚は三双、黒色にして割合に長く、爪は赤褐にして彎曲す。

經過 年二回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、早春出で、稚葉を食害す、交尾後は雌  
の腹部膨大し、尾節は翅鞘端より露出するに至る、卵子は黄色、長楕圓形にして二十八  
星に同じく一塊をなし、葉上に産下せらる、幼蟲は網狀に葉を食害す、札幌地方にて其

最も食害する時期は八月下旬なり、四週間に外にして老熟し、食葉を辭して地中に入  
り、繭様の土窩を造りて其内に蛹化す、蛹は淡黄、大凡二週間にして羽化す、羽化せしも  
のは再び食害を始め降霜と共に潜伏處を求め、爰に越年す、其性遲鈍なり。

驅除法 同前。

(111) くろうりはむしもどき *Imperodes nigripennis* Motsch.

被害植物 十字科植物、豇科植物、薄荷。

特徴 成蟲 黒色、頭及び前胸背は暗黄、雄にては翅鞘の基部稍々圓形をなして暗黄、雌に  
ては翅鞘の全部黒色、觸角の基部は暗黄、體長一分六厘乃至二分五厘。

經過 未だ判然せざれども年一回の發生をなし、卵の有様にて越年するものゝ如し、幼蟲  
は五月中旬頃より現はれ葉を食害す、老熟すれば地中に入り土窩を造り其内に蛹化  
す、蛹は約一週間を経て羽化す、成蟲は幼蟲と同じく葉を食ひ大害を加ふ、樺太地方に  
ありては十字科植物を害すること大なりと云ふ、うりはむしもどき *Imperodes discre-*  
*pens* Baly. (第四十七圖版(19))は定めて前種と同種なるべし、試験の結果によれば暗黄  
色の翅鞘を有するものと黒色の翅鞘を有するものとあり、而して黒色の翅鞘を有す  
るものは「くろうりはむしもどき」と毫も異なる所あるを見ず。

〔附言〕拙著害虫目録第六十三頁に *Imperodes Pallidulus* Baly. (たいこのとびはむし)とある  
は「うりはむしもどき」の誤なれば爰に訂正す。



(二二) あとほしはむし *Aulacophora angulicollis* Motsch. (第四十七圖版(2))  
被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は淡黄、頭は小にして黄褐、複眼は黒色、前胸背は方形に近く、後縁に接して一條の横溝を有す、翅鞘は淡黄にして小點刻を密布す、翅底内縁に沿うて左右各一個の黒紋を有し、翅を疊むときは合して一紋となる、前縁は黒色、前外縁に近く各一個の大なる黒紋を有す、此紋は外縁の黒線と相接合す、體長一分八厘。

(二三) うりはむし(瓜守) *Aulacophora femoralis* Motsch. (第四十七圖版(3))

被害植物 西瓜、南瓜、胡瓜等。

特徴 成蟲 黄褐にして光澤を有し、眼、上唇、腹部及び中後の兩肢は黒色、觸角及び前肢の脛節並びに跗節は暗褐なり、觸角絲狀、眼は割合に大にして突出し、前胸背は略正方形にして横溝を有す、翅鞘は前胸より廣く後方に至るに隨ひ膨大す、全面微小の點刻を密布す、雌は黒色の産卵管を具へ、雄の尾節は黄色なり、體長二分四厘乃至二分六厘。  
幼蟲 黄色、頭は褐色、圓柱形にして長く、短毛を粗生す、尾端は圓錐形をなして細小なり、脚は三双、體長三分五厘。

經過 年一回發生し、成蟲の有様にて越年す、幼蟲は地中に在りて根を食害し、翌春出でて葉を網狀に蠶食す、性甚だ活潑にして、外敵に遇へば直ちに飛翔す、日中は地上に落ちて死狀を擬すること少し、七月頃最も猖獗を極む、卵は圓形橙黄色にして根邊若くは

地表に産附せられ、約三週間にして孵化す、幼蟲期は一ヶ月乃至二ヶ月、廣く全國に分布す。

驅除法 同前。

(二四) くろうりはむし(くろうりばり) *Aulacophora nigripennis* Motsch. (第四十七圖版(4))

被害植物 同前。

特徴 成蟲 頭及び前胸は黄色、前胸背には横溝あり、眼、胸片及び脚は黒色、翅鞘は光澤ある黒藍色、體長二分三厘乃至二分五厘。

經過 前種と同じく地中にありて幼蟲期を經過するものゝ如し、成蟲は前種より遅鈍にして其數少く隨つて其害も亦大ならず。

驅除法 同前。

(二五) いちごはむし *Galatuceella distincta* Baly. (第四十七圖版(5))

被害植物 西洋莓。

特徴 成蟲 暗黄にして短き灰毛を密生す、形は長楕圓形、腹部、頭頂、觸角基部を除く及び稜狀部は黒色、脚は黄褐、跗節は暗色を帯ぶ、前胸背の中央は三角形に隆起し、其兩側は凹陷す、尙其前縁及び後縁角に各一個の疣狀突起あり、翅鞘は稍々長方形にして前胸より廣く、之に小點刻を密布す、其兩側に暗色の一縦線ありて基節より起り殆んど翅端に達す、體長一分五厘乃至一分七厘。



經過 未だ判然せざれども五月中旬より葎圃に出で其葉面を食害す其害大ならず。  
驅除法 同前。

(二六) やなぎるりはむし *Plagioderia distincta* Baly.

被害植物 草棉白楊赤楊。

特徴 成蟲 體は綠藍色、觸角は暗褐、基部は黃褐、脚は暗綠、腿節及び脛節の末端並に跗節は褐色、爪は黃色、前胸背に點刻を缺く、翅鞘には點刻を密布すれども縱溝を有せず、肩部に瘤様の突起ありて其外方に縱溝あり、體長一分五厘。  
「だいはむし」に酷似すれども、後腿節の膨大せざること及び翅鞘にある點刻の縱列をなさざること等によりて容易に區別するを得べし。

經過 未だ判然せず、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は五六月、第二回は七八月、第三回は九十月、幼蟲は黃色にして黑色の疣狀突起を裝ふ、成蟲、幼蟲共に葉を食ひ網狀の纖維を残留す。

(二七) だいはむし *Phaedon brassicae* Baly. (第四十七圖版(6))

被害植物 蘿蔔蕪菁蓴菜其他十字科植物。

特徴 成蟲 體は略々半球狀、頭は小、前胸背と共に點刻を密布す、觸角は黑色、額片は五角形をなす、前胸は少しく膨起し、幅は其長さの約二倍あり、後縁は廣し、翅鞘は隆起し、之に十六條の點刻縱線を並列す、尾節に黃色の部分あり、體長一分二厘乃至一分四厘。

幼蟲 體細長扁平にして黑色、各節に六個乃至八個の疣狀紋あり、背上にあるものは長くして横置せられ、之より各褐色の剛毛一、二本を生ず、各節の左右は膨起し、環節の縱皺は多少緊縮す、脚は黑色、體下は灰黃、體長二分内外。  
經過 年三四回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春出で、蔬菜類の葉を網狀に食害す、卵は黃色、楕圓形、成蟲は葉柄若くは葉面の表皮を破りて一顆宛産卵し、後巧に其上を被ふも表面乾枯するため其局部黑色を呈す、幼蟲の孵化したるものゝ初めは灰色なれども脱皮する毎に黑色を増す、三回の脱皮を終へ老熟すれば地中に入り土窩を造り其内に蛹化す、蛹は淡黃、頭觸角脚翅等は判然せり。

驅除法 同前。

(二八) ひめだいはむし *Phaedon incertum* Baly.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は第一、着色の綠藍なること、第二、前胸背に於ける點刻の小なること及び其中央に於ける點刻數の少きこと、第三、前胸後縁角の前種より鋭角をなせること、第四、稜狀部の半楕圓形をなせること等なり、但し雌にありては稜狀部に殆んど點刻なし、體長一分乃至一分四厘。  
幼蟲 前種と異ならず。

經過 同前。



驅除法 同前。

(二九) ふちはむし *Phytodecta rubripennis* Baly. (第四十七圖版(7))

被害植物 藤。

特徴 成蟲 形前種に似たれども、頭胸は黒色、點刻を密布す、翅鞘赤褐にして膨起し、九條の點刻列を縦走す、稜狀部、體下及び脚は黒色、體長一分五厘乃至二分。

驅除法 同前。

(三〇) とほしはむし *Phytodecta gracilicornis* Kraatz. (第四十七圖版(8))

被害植物 柳、白楊、赤楊。

特徴 成蟲 雄にては體は光澤ある黒色、前胸背は稍々四角形、兩側に大なる點刻を粗布す、翅鞘は黄色、乃至赤色、各翅に五個の黒紋を裝ひ、尾端に近き二紋は普通相癒着して鈎狀をなす、九條の點刻ある縦溝あり、間室には微小の點刻あれども判然せず、觸角は割合に細く、基部の大半は黄色、脚は黒色、腿節端は黒褐、脛節の大部及び跗節は黄褐、は黄色、斑紋は判然せず、體長二分乃至二分五厘。

經過 五月下旬より現はれ、柳、白楊、赤楊等の葉を網狀に食害す、經過未だ判然せず。

(三一) だろのきはむし(だろはむし) *Melasoma populi* L. (第四十七圖版(9))

被害植物 白楊、柳。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒藍色、觸角及び兩鬚は黒色、前胸背は兩側に各一條の縦溝を

具へ、粗大の點刻を裝ふ、翅鞘は赤黄、點刻を密布し、四五條の縦溝あれども判然せず、體下及び脚は黒藍色、跗節は黒色、體長三分五厘。

(三二) るりはむし *Melasoma aenea* L. (第四十七圖版(10))

被害植物 柳、白楊、赤楊、樟。

特徴 成蟲 體は光澤ある金綠色若くは黒藍色、觸角は黒色、前胸背より少しく長し、頭及び前胸背に點刻を裝ひ、後者は四角形に近く、稍々平たし、翅鞘には點刻多く、三四條の縦溝あれども判然せず、脚は黒色、光線の工合にて綠色を現はす、體長二分五厘。

經過 年二回の發生成蟲の有様にて、越年し、翌春交尾後葉下に黄白の卵子を産下す、一雌の總産卵数は約百四五十、凡一週間に於て孵化す、幼蟲は黄白にして、黒色の疣狀突起を裝ふ、約三週間に於て老熟し、次で葉上に蛹化する、第一回の成蟲は八月下旬乃至九月上旬現はる。

(三三) やなぎはむし *Melasoma virginipunctata* Scop. (第四十七圖版(11))

被害植物 柳、白楊。

特徴 成蟲 體は黒藍色、觸角は胸部より少しく長く、棍棒狀にして、尖端の半部は黒褐、殘部は黄色、頭は黒色、中央少しく凹陥す、前胸背は少しく黒色にして平たく、兩側は黄色、各翅鞘に十個乃至十一個黒色の縦紋を裝ひ、其中或ものは縦に相癒合す、接合部は細くして黒色、脚は黄色、腿節端は黒藍色、尤も種類により腿節の大部黒藍色なるものあ



り、體長二分六厘。

經過 未だ判然せず、成蟲は七月上旬發生す、其數多からず。

(三四) はくかはむし *Chrysonela guttata* Gebl. (第四十七圖版(12))

被害植物 薄荷。

特徴 成蟲 體上は黒紫色、體下及び脚は光澤ある紫藍色、觸角は割合に短く、末端は暗黒にして棍棒狀をなし、少しく平たし、前胸背は略々四角形、前縁及び後縁角は鋭角をなして突出す、翅鞘は穹狀に膨起し、之に平滑なる十條の點紋列を裝ひ、全面に小點刻を密布す、腹面には短き灰白毛を粗生し、跗節には灰褐の軟毛を密生す、體長三分五厘乃至四分。

(三五) よもぎはむし *Chrysonela aurichalcea* Gebl.

被害植物 菊其他の菊科植物。

特徴 成蟲 體は黒藍色、觸角體下及び脚は黒綠、觸角は體の半以上に達し、棍棒狀をなす、頭及び前胸背に少しく點刻を密布す、前胸背は稍々穹狀に膨大し、前縁角は鋭角をなす、稜狀部割合大にして、其基部に點刻を裝ひ、末端は褐色、翅鞘は點刻を密布すれども判然せる縦列をなさず、溝を缺き、間室は平滑なり、體長二分内外。

經過 未だ明ならず、恐らくは菊科植物株に艾の根部を食するものなるべし、成蟲の有様にて越冬し、翌春艾に普通なれども亦菊の葉を食害することあり。

(三六) ばらるりはむし *Cryptoccephalus approximatus* Raly. (第四十七圖版(13))

被害植物 薔薇、李樹梨及び其他薔薇科植物はしばみ。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒藍色、觸角は體より遙かに長くして黒色、基部の四節は黄色、頭は下方に向ひ、前頭は黄色、顆粒多し、頭頂は黒色にして少しく藍色を帯ぶ、前胸背は穹狀に膨起し、頗る光澤を存し、點刻は微小なるを以て判然せず、稜狀部は少しく突出し、點刻なし、翅鞘は粗大の點刻縦列を裝ひ、之は稍々溝をなせども判然せず、脚は黒褐、腿節の基部及び前脛節は黄色、前肢は發達して長し、體長一分五厘内外。

經過 未だ判然せず、成蟲は五月上旬より現はれ、薔薇及び其他同科植物の葉を食害す、青森以南には普通なれども、未だ北海道に於て捕獲したることなし。

(三七) くるぼしはむし *Cryptoccephalus 6-punctata* L. (第四十七圖版(14))

被害植物 李樹、薔薇、檜櫟。

特徴 成蟲 體は黄褐、體下及び頭は黒色、頭の中央にある一點は黄褐、觸角は黒色、基部の三四節は黄色、前胸背は雄にては大部黒色、前縁及び兩側は黄褐、雌にては黄褐、兩側にある括弧様の紋及び稜狀部上の短縦線は黒色、翅鞘に六個の黒紋あり、其中四個は一列をなして前列に位し、二個は稍々大にして後列にあり、脚は黒色、腿節末端は内方に黄白の一紋を裝ふ、體長二分五厘乃至三分。

經過 前種に同じく未だ判然せず、成蟲は四月下旬より現はれ、薔薇科及び殼斗科植物の



葉を食害す、中國九州地方には普通なれども、東北地方及び北海道には産せざるが如し。

(三八) きぼしるりはむし *Gynandrophthalma aurica* F. (第四十七圖版(15))

被害植物 柳樺。

特徴 成蟲 體は黒色、脚及び前胸背の兩側は黄色、觸角は黒褐、基部の四節は黄色、頭は光澤ある黒綠色、複眼間に一凹陷を裝ひ、縮刻を有す、前胸背は黒色、點刻を缺く、稜狀部は光澤ある黒色、點刻を有せずして少しく膨起す、翅鞘は暗青色、光澤を帯び、點刻を密布す、體長二分乃至三分。

經過 未だ判然せず、五月乃至六月頃より現はれ、柳樺等の葉を食害す、其數甚だ多からず。

(三九) ぶだうさるはむし *Eumolpus obscurus* L. (*E. vitis* F.) (第四十七圖版(16))

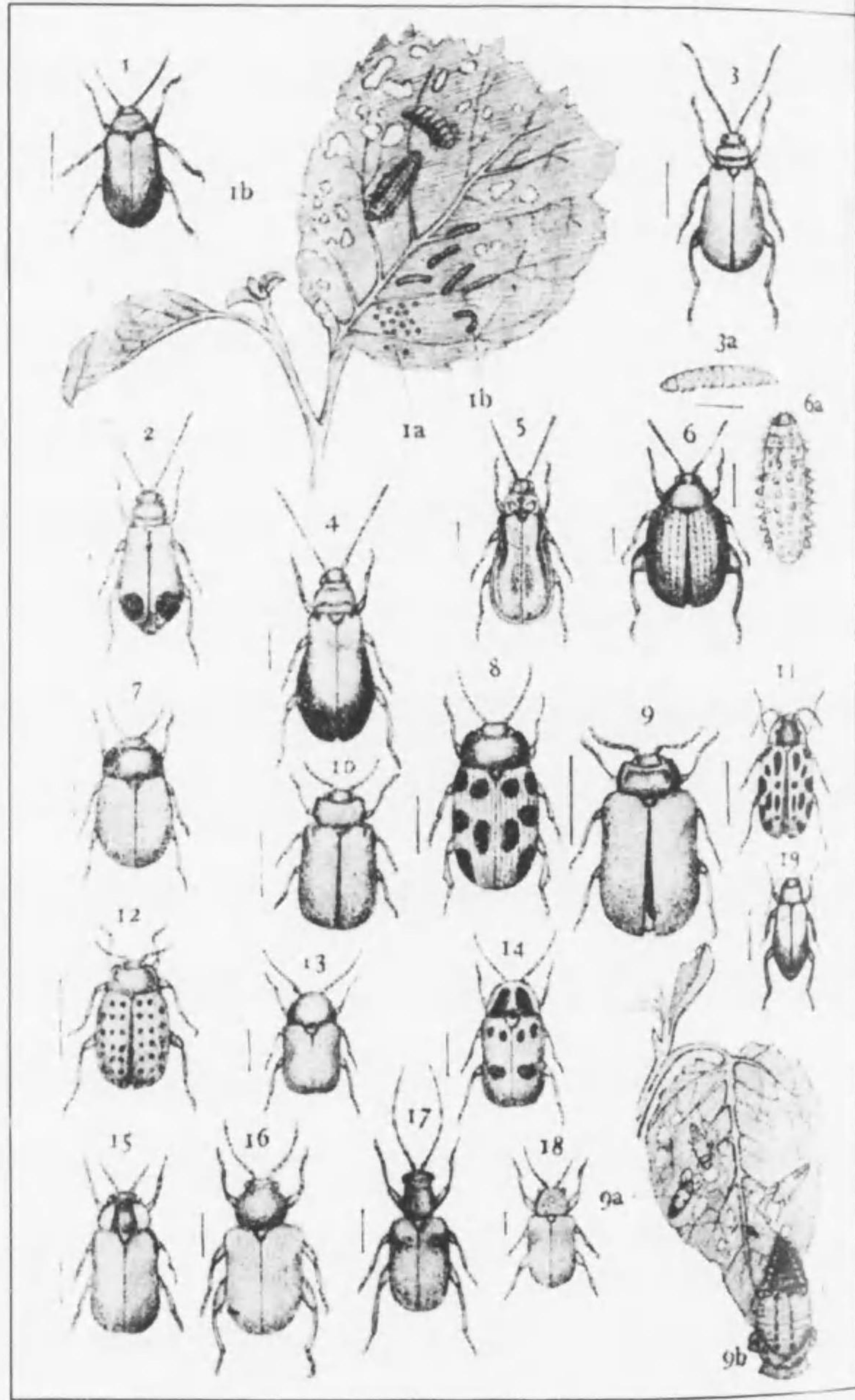
被害植物 葡萄、蔦。

特徴 成蟲 暗黒、頭は平たくして前胸下に隠れ上方より見ること能はず、觸角は長く、末端の四節大にして、基部は赤褐、前胸は稍々球形にして黒色、小黑點を密布す、翅鞘は赤褐、前胸より廣く、肩部突出し、鞘上は少しく凹陷し、十六條の暗色縦線を有し、全面小點刻を裝ふ、脛節の全部及び腿節は赤褐、體長一分六厘。

經過 未だ分明ならざれども、幼蟲は地中にありて根を食害するものゝ如し、成蟲は六月頃現はる、葡萄の新芽及び嫩葉を食ひ、大害を加ふることあり。

（以下は左ページの表の複製と思われる、内容は非常に小さく、ほとんど判読不能である。）





第四拾七圖

1. *Agelastica alni* L. var. *cerulea* Motsch. りんごはむし .....P.804  
a. 卵 b. 幼蟲
2. *Aulacophora angulicollis* Motsch. あとぼしはむし .....P.806
3. *Aulacophora femoralis* Motsch. うりはむし(瓜守) .....P.806  
a. 幼蟲
4. *Aulacophora nigripennis* Motsch. くろうりはむし .....P.807
5. *Galerucella distincta* Baly. いちごはむし .....P.807
6. *Phaedon brassicae* Baly. だいごはむし .....P.808  
a. 幼蟲
7. *Phytodecta rubripennis* Baly. ふちはむし .....P.810
8. *Phytodecta gracilicornis* Kraatz. とまはむし .....P.810
9. *Melasoma populi* L. だろのきはむし .....P.810  
a. 幼蟲 b. 蛹
10. *Melasoma aenea* L. るりはむし .....P.811
11. *Melasoma vigintipunctata* Scop. やなきはむし .....P.811
12. *Chrysomela guttata* Gebl. はくかはむし .....P.812
13. *Cryptoecephalus approximatus* Baly. ばらるりはむし .....P.813
14. *Cryptoecephalus 6-punctata* L. くろぼしはむし .....P.813
15. *Gynandrophthalma aurita* F. きぼしるりはむし .....P.814
16. *Eumolpus vitis* F. ぶどうさるはむし .....P.814
17. *Leprotes pulverulentus* Jac. りんごのこふきはむし .....P.815
18. *Demotina decorata* Baly. かさはらはむし .....P.815
19. *Luperodes d'screpens* Baly. うりはむしもどき .....P.805



驅除法 同前。

(四〇) リんごのこふきはむし *Leptotes pulverulentus* Jac. (第四十七圖版(17))

被害植物 苹果樹。

特徴

成蟲 體は暗黒、觸角は長くして暗褐、基部の三節は黄色、上唇及び兩鬚は黄色、頭には顆粒を密布し、中央に一縦溝あり、前胸背は圓柱形にして細く、頭に同じく顆粒を密布す、翅鞘は廣くして點刻列を縱走す、各翅に二條の縦溝あり、灰色の短毛を密生す、脚は黒褐、脛節端及び跗節は黄褐、體に白鱗を裝ふ、體長二分五厘。

(四一) かさはらはむし *Demotina decorata* Baly. (第四十七圖版(18))

被害植物 桑

特徴

成蟲 體は黄褐、頭は光澤あり、眼は黒くして突出し、觸角は長く、末端の四節少しく膨大す、前胸は圓柱形、前後の兩縁細く、背上には小刻點を散在し、中央に隆條を裝ふ、翅鞘は長方形にして前胸より廣く、肩部は少しく隆起し、點刻の縦線を並行す、全面灰白の短毛を裝ふ、脚は割合に長くして黄色、爪は少しく赤色を帶ぶ、體長一分二厘。

經過

判然せざれども六月上旬より現はれて桑芽を食ひ大害を加ふることあり、之に抵觸するときは脚を縮小して落下す。

驅除法 同前。

〔附言〕從來此の害蟲に *Xanthonia placida* の學名を用ひ來りたれども、誤謬なるを以て茲



(四二) いもさるはむし *Chrysocelus chinensis* Baly. (第四十八圖版(1))

に訂正す。

被害植物 甘藷。

特徴 成蟲 黒銅色、頭は下方に向ひ、觸角は體の半以上に達し、初めの三四節は暗褐、頭及び前胸背の點刻は翅鞘にあるものよりも遙に相近接す、腿節は何れも棍棒狀に膨大す、體長(雌雄)二分内外。

幼蟲 白色、頭は淡褐、横皺多く、細毛を粗生す、脚の爪は黒褐、體長三分。

經過 年一回發生、幼蟲の有様にて越年す、翌春蛹化し次で成蟲となる、成蟲は沖繩及び臺灣地方にては、五月中旬より七月下旬に亘りて現はる、葉莖を食ひ大害を加ふることあり、幼蟲は土中において球根の表面に寄生す、老熟すれば土中五寸乃至一尺の處に蛹化す、沖繩及び臺灣地方に普通なるものにして、時に大害を加ふることあり。

(四三) こいもさるはむし *Chrysocelus pretiosus* F.

被害植物 甘藷。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども其異なる要點は第一、形少しく小なること、第二、色澤に青色、青藍色、黒銅色の諸色あること、第三、前胸背の小なること、第四、前胸背の點刻遙に小形なること等なり、體長一分六厘乃至二分。

經過 同前。

(四四) あかかねさるはむし *Aerohium naschekewitschi* Motsch. (第四十八圖版(2))

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體は光澤ある金綠色、觸角は黒色、基部の一二節は黄褐、頭は前胸下に入りて唯前頭のみを見得べし、前胸背は稍々圓柱形をなし、點刻を粗布し、灰白の短毛を粗生す、翅鞘は光澤ある赤銅色にして周圍綠色、大なる點刻の縱列あれども溝は判然せず、脚は黒色、腿節は黒藍色、前肢は發達して長し、體長二分五厘。

經過 未だ判然せず、成蟲は五月上旬より現はれ、葡萄の葉を食害す、新潟地方にありては其害大なりと云ふ、臺灣地方にありては三四月頃より現はる、幼蟲は地中に棲息するものゝ如し。

(四五) いねどろはむし(泥負蟲) *Leana tristis* Herbst. (*Leana flavipes* Suff.) (第四十八圖版(4))

被害植物 稻。

特徴 成蟲 形細長、頭觸角及び眼は黒色、頭は光澤を帯び、觸角の基部は黄褐、胸部は黄色或は黄褐、稍々圓柱形をなし、後方少しく縮る、翅鞘は青藍色にして點刻を縱列す、肩部には各一個の深き切目あり、體下黒色、脚黄色、又は黄褐、腿節の一部及び跗節は暗色、體長一分五厘乃至一分八厘。

幼蟲 體暗黄褐、稍々西洋梨形をなし、第五第六節最も膨起す、頭は黒色、體上に蟲糞を負ふ、此蟲の肛門は殆んど腹背と平行せるを以て之より出づる蟲糞は自然腹背に集



まり、其葉上にあるときは悦も小土塊の觀をなす、各節には六個乃至二十二個の黒色の疣状突起ありて、初めの三節にあるものは一列をなせども第四節以下にあるものは二列に横走す、何れも一本の短毛を生ず、脚は三双にして黒褐なり、體長二分内外。

經過 年二三回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春五六月出で、苗代に集まり産卵す、卵子は二週間内外にて孵化す、幼蟲は葉脈に沿ひて縦に葉縁層を食ひ表皮を残留するを以て、被害葉は平行せる數條の白線となる、六月下旬葉上に綿様の灰白楕圓形の繭を作り其内に蛹化す、蛹は黄色、楕圓形にして兩端細小す、觸角、翅鞘等判然せり、七月上旬乃至中旬羽化す、第二回より其經過不規則にして、或ものは八月中旬に出で、或ものは九月上旬現はる、第三回は九月下旬乃至十月上旬なり、但し札幌地方にては年二回の發生をなす。

驅除法 稻葉の表裏に附着せる土塊様のものは多くは其幼蟲なるを以て、掬網を以て捕殺すべし、其繭も亦發見するに難からず、成蟲も亦網にて捕殺すべし。

(四六) すげはむし (一名おほねくひはむし) *Donacia simplex* F. (第四十八圖版(4))

被害植物 稻、莎草。

特徴 成蟲 體細長、頭は小、頭頂に一個の縦溝を有す、複眼は黒色にして割合に大、觸角は黒色にして絲狀、前胸は長方形にして中央に一縦溝あり、翅鞘は金綠色にして胸部より廣く、點刻列を縦走す、腹部は銀白の短毛を以て被はれ、後腿節には微小なる突起を

有す、體長二分五厘。

驅除法 成蟲は莎草、蛙蟻に棲息するを以て網を以て捕ふべし、又産卵せんが爲め苗代又は本田に來る成蟲を搜索すべし。

(四七) ねくひはむし *Donacia lenzi* Schönl. (第四十八圖版(5))

被害植物 稻、蛙藻、莎草。

特徴 成蟲 體綠褐、頭小、頭頂に一縦溝あり、複眼は黒色、前胸背は稍々正方形、中央に一縦溝あり、其前縁角は少しく突起す、翅鞘の背面は平坦にして小點刻を縦列し、肩部は尖り、翅端は切斷狀をなして終り尾節を蔽はず、腹部は銀白色、脚は黄色、後腿節に一突起あり、其外側に黒斑を有す、體長二分内外。

幼蟲 體は長形にして兩端細小す、體上は球狀に膨起し、體下は稍々平たし、頭は小、尾端に爪様の附屬物あり、地色は灰白、暗黒の短毛を粗生す、體長二分。

經過 幼蟲は六月より八月に亘りて稻根を食害すれども、成蟲は稻葉に來ることなく、蛙藻の葉を食ふ、日中は性活潑にして、人々に近づけば忽ち飛散す。

驅除法 同前。

天牛科 *Cerambycidae*.

(一) るりかみきり *Cheonoma fortunei* Thoms. (第四十八圖版(6))



被害植物 梅、杏、李。

特徴 成蟲 體は橙黄色、頭は前胸より稍々幅廣く、複眼及び觸角は黒色、後者は少しく褐色を帯び、其長さ體長に等し、第一節は長く、第二節は短し、前胸は圓柱形、前縁及び後縁に各一條の横溝あり、翅鞘は光澤ある黒藍色にして、不規則の點刻を密布す、脚は短かくして橙黄色、暗色の軟毛を裝ふ、體長三分四厘内外。

幼蟲 黄色、頭は黄褐、老熟すれば四五分に達す。

經過 年一回の發生、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化するものゝ如し、成蟲は五月下旬乃至六月上旬現出す、初めは葉裏の中肋を食ひ、交尾後は幹に孔を穿ち、其内に一粒の卵子を産下す、卵は黄白、長さ五厘、數日の後孵化す、初めは表皮を食ひ、次第に皮下に侵入す。

(二) りんごかみきり *Oberca japonica* Thumb. (第四十八圖版(7))

被害植物 苹果樹。

特徴 成蟲 體は橙黄色、頭、觸角及び腹部の末端は黒色、頭部に粗糙の點刻を散在し、中央に一縱溝あり、前胸に微細の點刻と軟毛を密布す、翅鞘は細長にして、翅底は橙黄色、其他は暗色、中央少しく黄色を帯び、黒色の點刻縱列を具へ、後脛節の末端は稍々暗色を呈す、體長五分五厘乃至六分。

幼蟲 初めは淡黄にして光澤を有し、成長すれば淡褐となる、頭は長方形にして鋭き

(三) きくすゐかみきり *Phytoecia ventralis* Chev. (第四十八圖版(8))

被害植物 菊。

大腸を具へ、第一節は大にして平たく、尾端に至るに隨ひて細小す、體長一寸。  
經過 成蟲は六七月頃現はれ、嫩枝の外皮を破り、木質部に穿孔し、各一個の長楕圓卵子を其内に納め、後前の外皮を以て巧に之を覆ふ、幼蟲は數日の後孵化し、下部より梢上に向ふて食害するの傾あり、嫩枝の髓部を食ふを以て、其局部は枯死し、大害を被ることあり、八月下旬に老熟し、次で蛹化す、蛹は淡黄、其儘越年し、翌春羽化す、被害樹枝は褐色の蟲糞を直下の葉上に堆積するを以て容易に其存在を認め得べし。

特徴 成蟲 全體暗黒、少しく藍色を混す、頭胸及び翅鞘に點刻及び短毛を密布す、觸角は

暗黒にして體長を越ゆ、頭頂に一縱溝あれども判然せず、前胸背には赤色の楕圓紋あり、各腿節は濃黄色、末端の數腹節は黄色、體長三分内外。

幼蟲 體は黄白、前種の幼蟲に酷似す、體長五六分。

經過 五六月頃菊科植物の莖幹を切斷して大害を加ふ、白色長楕圓形の卵子を一個宛縦に莖中に産下し、之より孵化せる幼蟲は莖中を上下するがため、植物を枯死せしむ、秋季老熟し、次で蛹化して其儘越年し、翌春羽化す。

(四) あさかみきり *Thyestes gebleri* Fald. (第四十八圖版(9))

被害植物 大麻。



**特徴** 成蟲 體は暗色、灰白の微毛を密生す、頭頂に一縦溝あり、觸角は體と同長、第三節以下各節端は黒色、前胸は圓柱形、背上に灰黄の三縦條を裝ひ、稜狀部は灰黄、翅鞘の基部に點刻を有し、他部に短毛を密生す、其接合部及び前縁の大半は灰黄、體長雄四分、雌四分五厘乃至五分。

(五) ごまだらかみきり *Mesosa japonica* Bat. (第四十八圖版(10))

**被害植物** 辛樹漆、榆。

**特徴** 成蟲 體は黒色、顆粒狀の點刻を密布す、頭頂に一縦溝あり、其兩側に各一列の黄色毛を列す、觸角の第一節は大にして黒色、第二節は小にして葡萄酒色を呈す、以下の各節は灰白と葡萄酒色との斑をなす、前胸背は稍々正方形、中央に一縦溝と其兩側に黄色斑を有す、翅鞘は前胸よりも遙に廣く、顆粒及び黄斑を散在し、其中後方に近き黄斑は波狀をなす、脚は黒色、各脛節に二個の黄色紋を裝ふ、體長雄四分、雌四分五厘内外。

(六) くはかみきり *Apriona rugicollis* Chev. (第四十八圖版(11))

**被害植物** 桑、柑、橘類、無花果。

**特徴** 成蟲 體は暗綠、黄毛を裝ふ、頭頂は隆起し、中央に一縦溝あり、複眼は腎臟形、黒色にして少しく紫赤色の光澤を帯ぶ、觸角は體より長く、基節及び各節の末端は黒色、前胸背に横皺多く、兩側に各一個の棘狀突起あり、翅鞘の基部には黒色の顆粒多く、肩部は突起す、翅端は截斷狀をなし、之より二小刺を出だす、脚は細長、灰白毛を裝ひ、腹部に黄

(七) しろすちかみきり *Atocera lineolata* Chev. (第四十九圖版(1))

**被害植物** 枇杷、櫻桃。

**特徴** 成蟲 體は灰黒、微細の黄毛を以て被はる、頭頂は膨起し、其中央より顔に互りて細き一縦溝あり、觸角間は凹陥す、複眼は黒色、額片の下部は瑪瑙色、上唇には四個の剛毛を密生す、體長雄一寸二分、雌一寸六分。

**幼蟲** 體は乳白色、少しく黄色を帯ぶ、頭は略ぼ長方形にして平たく、前頭の周圍は黒褐、黒褐の鋭き大腮を有す、第一節は膨大し、其氣門は殊に大なり、第二及び第三節は短く、尾節に至るに隨ひ長さを増す、第五節以下の背腹節に瘤狀二突起ありて、樹幹の隧道を上下するに便ならしむ、全體黄褐の短毛を粗生す、體長二寸六分内外。

**經過** 成蟲は八月頃現はれ、樹枝樹幹に孔を穿ちて其内に卵子を藏む、一孔に産下する卵数は七八個を普通とす、一雌の總産卵数は百數十、卵子は白色、長楕圓形にして、長徑七八厘、孔は樹皮を以て被はるれども容易に看破することを得べし、其性濕氣を忌むを以て、可成樹液少なき老木を好むの傾あり、産卵の際は其個所より二三寸下方を切斷し、樹液の上昇を防ぐ、幼蟲期は約三ヶ年、孵化當時は樹皮下の形成層を食害し、翌年に至り材質部に入る卵形の大孔を穿ち、之より褐色の蟲糞を排泄す、常に上方に向ひ縦孔を造りて食害す、全く老熟すれば孔内に木屑を集め、其内に蛹化す、蛹は黄白、既に成蟲の具有せる觸角及び脚を認め得べし。

**特徴** 成蟲 體は灰黒、微細の黄毛を以て被はる、頭頂は膨起し、其中央より顔に互りて細き一縦溝あり、觸角間は凹陥す、複眼は黒色、額片の下部は瑪瑙色、上唇には四個の剛毛



塊を有す、大肥は大にして光澤ある黒色、複眼の後方に一條の太き白條あり、前胸には横皺多く、中央に微細の一縦線を具へ、其兩側に各一個の白斑と棘状突起とを裝ひ、其下方に各一條の白線あり、稜状部は白色、翅鞘の基部に黒色の顆粒を密布し、肩部に一刺を出だし、中央には不正の白斑を散在す、中後の兩胸側は白色、各脛節の末端には天鵞絨様の毛塊あり、體長一寸七分。

幼蟲 前種に酷似すれども遙に大なり、完熟したるものは長さ二寸四分餘、脚は細長にして三節より成る、一本の褐色爪を裝ふ。

經過 同前。

(八) のこぎりかみきり *Prionus insularis* Motsch. (第四十九圖版(2))

被害植物 松、杉、檜、榎。

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角兩鬚體下及び脚は黄褐、觸角は兩鋸齒状にして第三節最も長

大、前胸兩側に各三個の齒状突起ありて中央にあるものは大なり、粗に點刻を裝ふ、稜状部稍々五角形、亦少しく點刻あり、翅鞘は粗糙にして三個の判然せざる大なる縦溝を具へ、縮刻多し、胸下に黄褐の短毛を密生す、體長八分乃至一寸三分。

經過 未だ判然せず、三四年を経て一回の發生をなすものゝ如し、樹幹に産卵せる幼蟲は孵化して材質部に蠶入し、食害す、幼蟲は他の天牛と異ならず、黄白にして第一二節は甚だしく膨大し、稍々平たし、頭には褐色の鋭齒を裝ふ、其數多しと雖も、多く朽木を食

するを以て大害なし、廣く本邦に分布す。

(九) うすばかみきり *Aegosome sinicum* White. (第四十九圖版(3))

被害植物 白楊、柳。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭は中央にて深く凹陷す、上唇に金色毛を密生す、觸角は絲状にし

て大に、雌にては體の三分の二に達す、前胸背は廣底四角形にして顆粒多く、兩側に棘刺なし、翅鞘に四條の縦隆を具へ、初めの二條は末端に近く合して一條となり、外側の一條は中央より分岐して二條となり、末端に至りて更に相合す、體下及び脚は赤褐、體長一寸一分乃至一寸四分。

經過 此も亦前種の如く經過判然せず、兩三年を経て一回の成蟲を生ずるものゝ如し、成蟲は七月下旬乃至八月月上旬に發生するもの多し、白楊の樹幹に蠶入し、其材質部を食害すること他の天牛と異ならず、其數多きを以て大害を加ふ、廣く本邦に播布す。

(一〇) ころかみきり *Spondylis luyestoides* L. (第四十八圖版(1))

被害植物 松、杉、檜、榎等。

特徴 成蟲 體は黒色、長楕圓形、大肥は發達して大なり、觸角は短くして纒かに翅底に達

するに過ぎず、前胸背は稍々球形にして相應合せる粗大の點刻及び縮刻を粗布す、翅鞘にも亦同様の縮刻あり、何れも光澤を帯ぶ、後者には二條の判然せる縦條あり、體下は黒褐、體長六分乃至七分。



**經過** 未だ判然せざれども、「のこぎりかみきり」と同様の經過をなすものゝ如し、其數多からざるを以て甚だしく有害ならざるべし、形状は一見吉丁蟲に似たる所より其學名あり、九州地方にありては十月上旬發生するもの多し、此幼蟲の他の天牛の幼蟲と異なる所は、頭の突出(大腮の突出)せると、脚割合に長きとにあり、前硬皮板には點刻多く、後硬皮板には顆粒多し、尾節には稍々圓錐形の二突起あり。

**(11) さびかみきり** *Crioceraphalus rusticus* L. (第四十八圖版(13))

**被害植物** 松、杉、檜。

**特徴** 成蟲 體は暗褐、少しく平たし、黄色の短毛を密生す、觸角は體より短く、柄節は大にして棍棒狀をなす、兩鬚は黄色、頭の中央に細き縱溝を具へ、前胸背は稍々圓形、中央に一縱溝を裝ひ、二三個の凹陷あれども甚だしく判然せず、翅鞘には二條の縱隆あり、點刻を密布す、體下は赤褐、體長七分乃至八分。

**經過** 未だ判然せず、成蟲は松の樹幹に蠹入して材質部を食す、老木若くは新しき倒木に産卵する性あり。

**(12) おほくろかみきり** *Megascenum quadricostulatum* Krantz. (第四十八圖版(14))

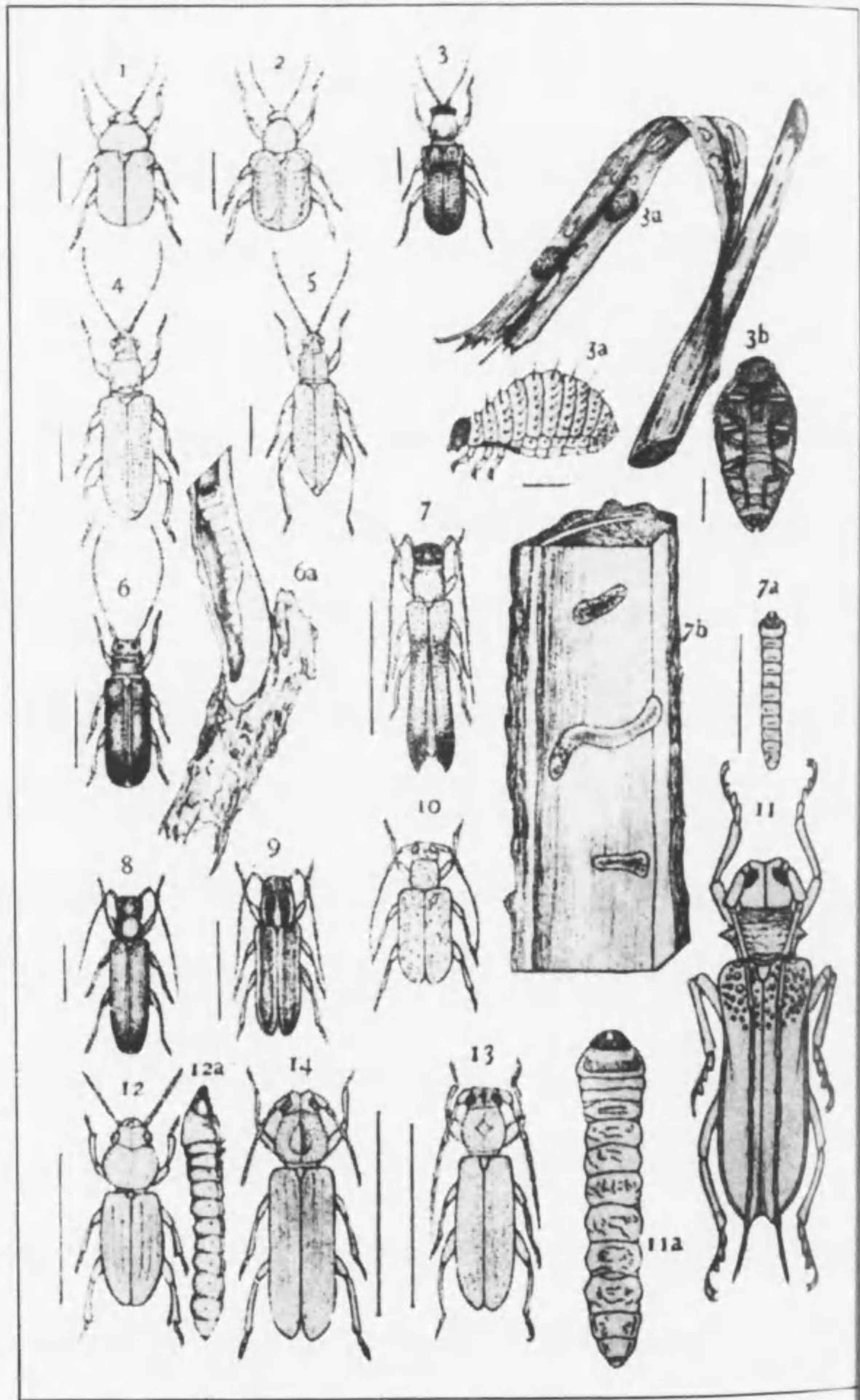
**被害植物** 樅、えぞまつ、とどまつ。

**特徴** 成蟲 體は黒褐、觸角は雄にては略々體と同長、雌にては纒かに體の半に達するに過ぎず、前胸背は稍々球狀、中央は淺く凹陷し、其中央に更に一個の縱溝あり、顆粒及び

圖八拾四第

1877	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1878	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1879	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1880	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1881	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1882	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1883	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1884	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1885	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1886	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1887	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1888	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1889	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ
1890	<i>Phyllorhynchus yamanashiensis</i> Haly	ヤマナシノコギリカミキリ





第四拾八圖

1. *Chrysochus chinensis* Baly. いもさるはむし ..... P.816
2. *Acrotinium gaskewitschi* Motsch. あかがねさるはむし ..... P.817
3. *Lema tristis* Herbst. (*Lema flavipes* S. ff.) いねどろはむし ..... P.817  
a. 幼蟲 b. 蛹
4. *Donacia simplex* F. すげはむし ..... P.818
5. „ *lenzi* Schöf. ねくひはむし ..... P.819
6. *Chreonora fortunei* Thoms. るりかみきり ..... P.819  
a. 幼蟲
7. *Oberea japonica* Thunb. りんごかみきり ..... P.820  
a. 幼蟲 b. 被害樹断面
8. *Phytoecia ventralis* Chev. きくすむかみきり ..... P.821
9. *Thyestes gebleri* Fald. あさかみきり ..... P.821
10. *Mesosa jadonica* Bat. ごまだらかみきり ..... P.822
11. *Apriona rugicollis* Chev. くはかみきり ..... P.822  
a. 幼蟲
12. *Spondylis bupr stoides* L. くろかみきり ..... P.825  
a. 幼蟲
13. *Crioccephalus rusticus* L. さびかみきり ..... P.826
14. *Mogasemum quadricostulatum* Kraatz. おほくろかみきり ..... P.826



點刻多し、翅鞘は各二個の縱隆を築ひ、其間室は粗糙にして縮刻多く、灰色の微小毛あり、體長六分乃至一寸。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、札幌地方にありては七月下旬より八月上旬に互りて現はれ、「とどまつ」えぞまつ」の樹幹に蠶入して材質部を食す、多く新伐木に産卵するの性あり、「くろかみきり」に酷似すれども、前胸背に大なる凹陥あるを以て容易に識別することを得べし。

(一三) まるくびひらたかみきり *Asennum amurense* Krantz. (第四十九圖版(4))  
被害植物 とどまつ、えぞまつ、松。

特徴 或蟲 體は黒褐色にして灰白毛を密生す、翅鞘は暗黄褐、觸角は短くして纒かに體の半に達し、末端は黄褐、頭頂は圓く凹陥す、前胸背は稍々圓形にして中央少しく凹陥す、稜狀部は長くして黒褐、翅鞘に判明なる廣き五縱溝ありて、其間室は縱隆をなす、前縁に近く横皺あり、脚は短く、尾端は暗褐なり、體長三分五厘乃至四分。

經過 六月上旬乃至七月中旬現はれ、新伐木に蠶入す、其數多からず、小形にして觸角短きが爲め一見叩頭蟲の觀あり、札幌地方にては定山溪に普通なり、年一回の發生をなすものゝ如し。

(一四) おほまるくびかみきり *Asennum striatum* L.  
被害植物 同前。



## 特徴

成蟲 前種に酷似すれども形造かに大なるを以て容易に區別することを得べし。前胸背には顆粒状の小突起多く、中央に廣き一縦溝あり、觸角は黒色、翅鞘に五條の判然せる縦隆あり、間室は網目様の縮刻をなす、個種により翅鞘の黄褐なるものあり、體長四分五厘乃至六分。

經過 不明、成蟲は六月下旬現はれ、新伐木地に集來して之に産卵す、内地にては稀なる種類なれども、樺太には普通なるが如し、同地にありては七月中旬現はる、年一回の發生をなすものゝ如し。

(一五) えぞまつかみきり *Tetrajana luridum* L. (第四十九圖版(5))

被害植物 とどまつえぞまつ。

特徴 成蟲 體は黒色にして、黒毛多し、頭及び前胸背は頗る光澤を帯ぶ、觸角は割合に大にして體の半以上に達す、柄節大に次の三節は小、末端の節は黄褐、頭及び前胸背には點刻を粗布す、前胸背の中央は最も廣く、中央に一縦溝を具へ、後縁には一横溝あり、翅鞘は光澤を缺き、二縦隆を具へ、短毛を密生す、腿節は大なる棍棒状をなす、第三跗節及び爪は黄褐、個種により翅鞘、觸角及び跗節の黄褐なるものあり、體長三分三厘乃至四分五厘。

經過 七月上旬より現はれ、新伐木地に集まり來りて爰に産卵す、樺太地方にありては七月中旬現はる、前種と同時なるが如し、其數甚だ多からず、歐洲にては落葉松及び普通

(一六) よつぼしかみきり *Stenogrinum 4-notatum* Pat. (第四十九圖版(6))

被害植物 栗、樺、檜。

特徴 成蟲 體は黄褐、翅鞘の末端は淡色にして、髓甲様の光澤を有す、觸角は體より少しく長く、頭及び前胸背に顆粒及び點刻多く、前胸背は稍々圓柱形にして中央少しく大なり、縦溝の中央に各二個の黄白紋あり、點刻を粗布し、光澤あり、腿節は頗る大に、稍々球桿状をなす、體長三分乃至四分。

經過 成蟲は六月乃至八月現はれ、栗其他殼斗科植物の樹幹に産卵す、幼蟲は材質部を食ひて縦孔を穿ち、一方に蟲糞を排出する口を開くを以て容易に其存在を認め得べし、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、幼蟲は黄白色にして、形狀他の天牛の幼蟲に異ならず、成蟲は栗の開花期に現はれ、其花粉を以て食とするものゝ如し。

(一七) ほそかみきり *Distenia gracilis* Bless. (第四十九圖版(7))

被害植物 とどまつ松。

特徴 成蟲 體は暗褐、細長、頭頂に一縦溝あり、觸角黄褐、體より遙に長く、柄節大なり、前胸背の兩側に大なる棘状突起あり、翅鞘は深き點刻列を縱走し、中央より末端に至るま



で點刻なし、灰黒の短毛密生す、脚長し、體長七分乃至八分。  
經過 成蟲の發生する時期は一定せず、七月上旬乃至十月現はれ、松柏科の植物幹に蠶入して食害す、其數多からず。

(二八) はひいろかみきり *Allophagus inquisitor* L. (第四十九圖版(8))

被害植物 松とどまつ・えぞまつ。

特徴 成蟲 體は灰色、觸角は短くして翅底に達するに過ぎず、基部の大半は黄褐、末端は黒褐、前胸背の中央に黒褐の縦條を具へ、兩側に一個の棘狀突起ありて少しく上方に向ふ、翅鞘は前胸背より甚だ廣く、三個の縦隆ありて黒褐色を呈す、其内に黄色の部分あり、間室には黒褐の隆紋を散在す、全體灰色の短毛を密生す、體下は黒褐、脚は赤褐、腿節末端は褐色、腹面の中央に一個の縦隆あり、體長五分乃至六分。

經過 未だ判然せざるも年一回發生するものゝ如し、成蟲發生の時期は一ならず、五月より十月に至る間何時にても捕獲し得べし、幼蟲は普通樹皮下にありて食害す、老熟するまでには少なくとも一尺乃至一尺四寸の蝕孔を生ず、蝕孔は木屑及び蟲糞を以て常に充實せり、幼蟲の他の天牛と異なる所は頭の一層扁平なること、頭縁の截斷狀なること、及び硬皮板後縁の中央三角形に割られあることなり。

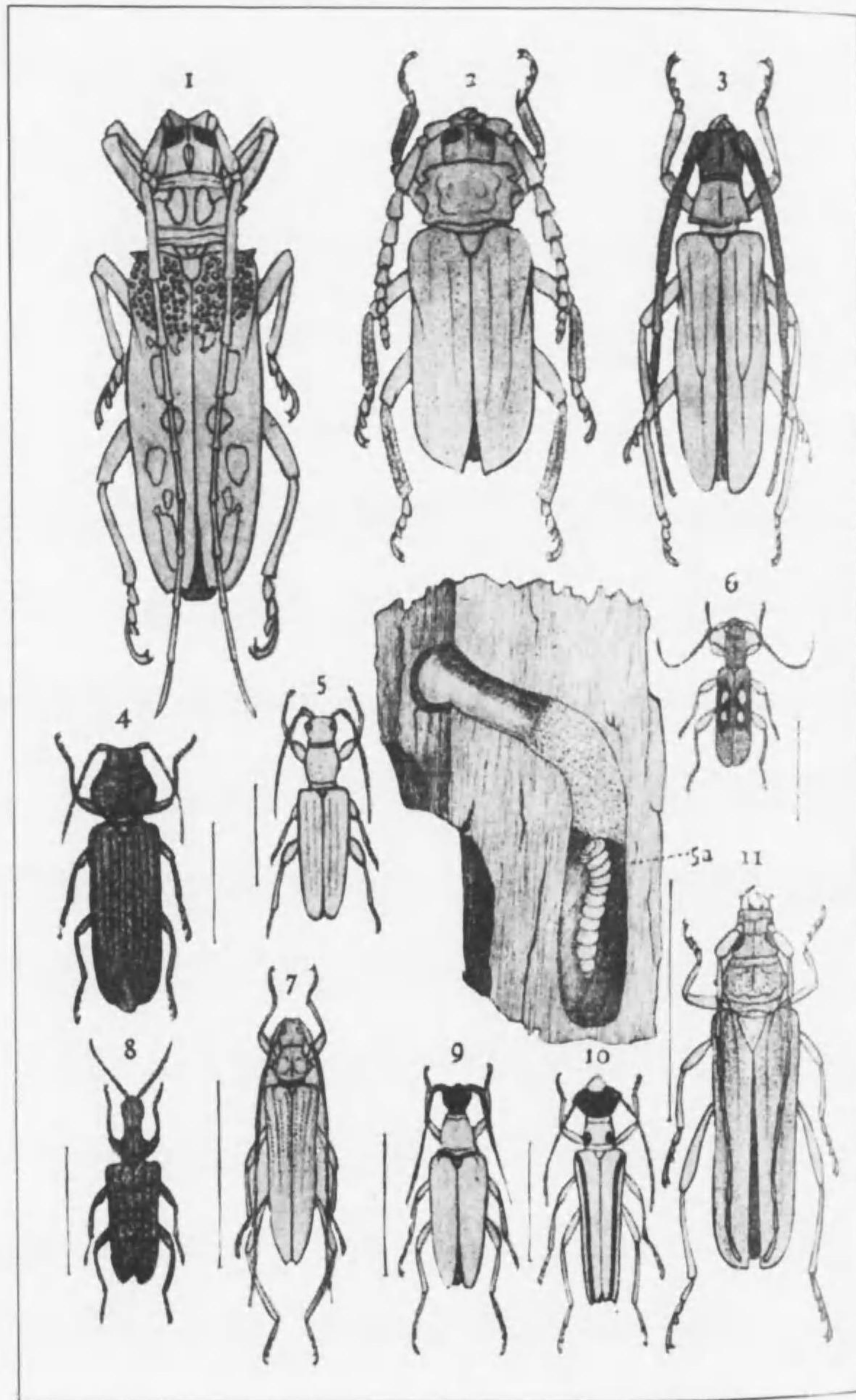
(二九) あかはなかみきり *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))

被害植物 赤楊。

圖式併四葉

- 1 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 2 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 3 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 4 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 5 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 6 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 7 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 8 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 9 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 10 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))
- 11 *Leptura succedanea* Lew. (第四十九圖版(9))





第四拾九圖

- |  |            |       |            |
|--|------------|-------|------------|
| 1. <i>Batocera lineolata</i> Chev.                         | しろすちかみきり   | ..... | P.823      |
| 2. <i>Prionus insularis</i> Motsch.                        | のこぎりかみきり   | ..... | P.824      |
| 3. <i>Aegosoma sinicum</i> Whit.                           | うすばかみきり    | ..... | P.825      |
| 4. <i>Asemum amur nse</i> Kraatz.                          | まるくびひらた    | みきり   | .....P.827 |
| 5. <i>Tetropium luridum</i> L.                             | えぞまつかみきり   | ..... | P.828      |
| a. 幼蟲  |            |       |            |
| 6. <i>Stenygrinum 4-notatum</i> Bat.                       | よつぼしかみきり   | ..... | P.829      |
| 7. <i>Distenia gracilis</i> Bies.                          | ほそかみきり     | ..... | P.829      |
| 8. <i>Allorhagium inquisitor</i> L.                        | はいいろかみきり   | ..... | P.830      |
| 9. <i>Leptura succedanea</i> Lew.                          | あかはなかみきり   | ..... | P.830      |
| 10. <i>Eustrangalia distenoides</i> Bat.                   | くろすちはなかみきり | ..... | P.831      |
| 11. <i>Aromia moschata</i> L. var. <i>ambrosiaca</i> Stev. | くびあかかみきり   | ..... | P.831      |



**特徴** 成蟲 體は黒色、前胸背翅鞘及び脚の一部は赤褐、觸角は鋸齒状にして體より少しく短く、額片は赤黄、後頭は延長して頸状をなす、前胸背の前後に各一個の黒紋あり、稜状部は黒色にして黄毛を裝ふ、翅鞘は粗大の點刻を密布し、黄毛を密生す、末端は斜に截斷せられ、其外側に刺あり、前腿節の下方及び前腿節の大部は赤褐、體下は黒褐、黄白の絹様毛を密生す、體長五分五厘乃至七分。

**經過** 未だ判然せず、成蟲は八月上旬乃至下旬現はる、幼蟲の他の天牛と異なる所は後頭部の頸状を呈するにあり、年一回の發生をなすものゝ如し、廣く本邦に播布す。樺太地方にも亦稀ならず。

(二〇) ころすちはなかみきり *Eustrangalia distenoides* Pat. (第四十九圖版(10))  
被害植物 槭。

**特徴** 成蟲 體は黄色、頭頂觸角、前胸背の二紋、翅鞘の一縱條及び尾節は黒色、跗節は黒褐、翅端は斜に刻られ、外側に一銳刺あり、粗大の點刻を散在す、體長四分五厘乃至五分。

**經過** 未だ判然せず、槭の伐木地に普通なり、雌は産卵管を樹幹に挿入して産卵し、幼蟲は深く材質部に侵入して蝕害す、二年に一回の發生をなすものならんか、甚だ多からざる種類なり。

(二一) くびあかかみきり *Aronia moschata* L. var. *ambrosiaca* Stev. (第四十九圖版(11))  
被害植物 柳、白楊。



## 特徴

成蟲 體は黒緑、觸角及び脚は黒藍色、前胸背は赤黄、前後の兩端は紺色、觸角は體より遙に長く、頭頂に大なる點刻多し、前胸背の後縁に二個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘に二縱隆あれども翅端にては判然せず、全面縮刻多し、體下は帶黒綠色、後脛節は腿節より短し、體長八分乃至九分。

## 經過

幼蟲の壽命は未だ判然せざれども略々三、四年なるが如し、完熟したる幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、七月乃至八月羽化す、兩三年に一回の發生をなすものなれば、年により更に成蟲を見ざることあり、幼蟲は老熟すれば一寸五六分に達す、成蟲は一種固有の香氣を有す。

(二二) おほあをかみきり *Chloridolum thaliodes* Bat. (第五十圖版(1))

## 被害植物 柳、白楊。

## 特徴

成蟲 體は黒緑、前胸背は少しく藍色を帶ぶ、觸角及び脚は黒藍色、前者は絲狀にして體よりも長く、柄節大なり、兩鬚は赤褐乃至黒褐、前胸背に點刻多く、中央に四個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は雌にては腹部より少しく短く、顆粒を密布す、體下は黒色にして少しく綠色を帶ぶ、後肢頗る長く、脛節は扁平にして少しく彎曲す、體長八分乃至九分。

## 經過 同前、前種より多し。

(二三) あをかみきり *Chelidonium quadricolle* Bat.

被害植物 檜、ちやうじやのき、みねばり。

## 特徴

成蟲 體は綠色、觸角脚及び眼は黒藍色、頭及び前胸背は金光の色澤を帶ぶ、觸角は雌にては體長より少しく短けれども雄にては少しく長し、前胸背の兩側に各一突起を具へ、中央に一縱溝を裝ひ、其兩側に縮刻多し、翅鞘は末端に至るに隨ひ細く且少しく暗色を帶ぶ、二個の縱隆あれども判然せず、腿節は棍棒狀に膨大し、後腿節は側扁、體下は金光色を帶ぶ、個種により全體黒藍色なるものあり、體長七分乃至九分。

## 經過

兩三年に一回の發生をなすものゝ如しと雖も未だ判然せず、幼蟲は械科植物の幹内にありて縱孔を穿ち、食害す、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、成蟲は普通六月上旬乃至七月現はる、常に樹幹に蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし、幼蟲老熟すれば一寸六分に達す、大脛は黒色、第一節は稍々方形をなし、其前半には三個の褐紋を具へ、後半は桃色を帶ぶ。

(二四) ころひらたかみきり *Senanotus chlorizans* Solsky. (第五十圖版(2))

被害植物 檜、赤楊。

## 特徴

成蟲 體は扁平、黒色にして少しく紺色を帶ぶ、觸角は體より遙に長し、前胸背は粗糙にして凹凸多く、後縁の兩側は縊る、翅鞘には顆粒突起を散在し、翅底に於て現明なり、腿節は稍々球桿狀に膨大す、體下及び附節は黒褐、體長四分乃至六分。

經過 未だ判然せず、成蟲は六月上旬より現はれ、檜の樹幹に産卵す、殊に新伐木地に集來



す、兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化すること他の天牛に異ならず。

〔附言〕拙著千蟲圖解第三卷第四百七頁に記載せる學名 *Callidium violaceum* L. は誤なるを以て爰に訂正す。

(二五) ほたるかみきり *Dere thoracica* Whit. (第五十圖版(3))

被害植物 血槭カシキム、合歡。

特徴 成蟲 體は黒藍色、觸角は棍棒狀にして黒色、頭に顆粒多し、前胸背は前後の兩端を除き赤色、中央膨起す、翅鞘に顆粒多く、中央は平坦なり、末端は少しく刳られ、其外側に一刺あり、腿節は甚だしく膨大す、各腹節の後縁は細くして黄色、體長三分内外。

經過 未だ判然せず、成蟲は四五月頃より現はれ、花上に集來する性あり、交尾後は樹幹に産卵管を挿入して産卵す、年一回の發生なるが如し、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、其數甚だ多からざるを以て、隨て加害少なし、中國九州地方に多けれども、北海道には産せず。

(二六) びろうどかみきり *Monochamus fraudator* Bat. (第五十圖版(4))

被害植物 交讓木、其他大戟科植物。

特徴 成蟲 體は褐色、天鷲絨様の光澤あり、額片及び上唇の末端は黄色、頭に點刻を粗布す、觸角は黄褐、各節の末端は少しく濃色、體長の二倍餘あり、前胸背の兩側に上向せる

棘狀突起あり、中央に點刻を粗布す、翅鞘には深き點刻を粗布し、灰褐の短毛を密生す、脚短く、腿節太し、體長六分乃至七分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月頃より現はれ、樹幹に産卵す、幼蟲は幹内を縦横に食害す、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、幼蟲は黄白色にして、頭は褐色、第一節は大にして平たく、中央にコ字形褐紋を裝ひ、其兩側に更に各一個の褐紋あり、老熟すれば一寸一二分に達す、被害樹は常に蟲孔より蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし。

(二七) せんのかみきり *Monochamus luxuriosus* Bat. (第五十圖版(5))

被害植物 刺楸ナシ(一名はりぎり)

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角は體の二倍以上ありて黄褐、基部は黒褐、前胸背は兩側に大なる棘狀突起を具へ、粗大の點刻あり、翅鞘は廣くして灰毛を密生し、其基部に顆粒を密布す、二個の判然せざる黒褐の大紋あり、灰色毛の多からざる部分、脚は赤褐、體長七分五厘乃至一寸三分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は八月下旬乃至九月中旬現はれ、樹幹に産卵管を挿入して産卵す、幼蟲は縦孔を穿ち、材質部を食害す、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化す、其成長の度異なるを以て夏期に於ては殆んど何れの時にても捕獲し得べし、廣く本邦に播布せる種類にして、沖繩地方にも産し、札幌地方には普通なり。



(二八) ひげながかみきり *Monochamus grajus* Whit. (第五十圖版(6))

被害植物 榎、えぞまつ、樅。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰色毛あるを以て暗色を呈す。觸角基部の内側に各一個の短き角状突起あり、頭の中央には縦溝を具へ、縮刻多し。觸角は雄にありては體長の二倍半あり、前胸背には縮刻多く、兩側に棘状突起ありて、其後方に灰白毛の縦紋あり、稜状部には灰白毛を密生す。翅鞘の基部には顆粒を密布し、翅端の三分の二は光澤を帯び、點刻を粗布す。後胸片の兩側に各一個の灰白紋あり、雌にありては觸角は體より少しく長く、第二節乃至第五節の基部は灰色にして少しく藍色を帯ぶ。翅鞘には灰白毛紋を散在す。體長一寸一分乃至一寸六分。

経過 年一回の發生をなすものゝ如し、北海道地方には普通なる種類なれども、深山にあらずれば捕獲し難し。新伐木地に稀ならず、成蟲は樹幹に産卵管を挿入して産卵す。幼蟲は幹内に縦孔を穿ち、食害す。其経過未だ全く判然せざれども、大形の種類なれば大害を加ふるものなるべし。

(二九) よつほしひげながかみきり *Monochamus sartor* F. var. *pellio* Germ. (第五十圖版(7))

被害植物 榎、えぞまつ、樅。

特徴 成蟲 前種に類似すれども、其差異は左の如し。

一、遙に小形なること、體長七分乃至一寸一分。

二、前胸背の兩側に白條を有せず。

三、翅鞘の前半部には粗糙の縮刻及び點刻を裝ひ、翅端には灰黄色の短毛を密生せるを以て斑紋を有する觀あり、判然せざる二三の縦隆あり。

四、後胸片の兩側に灰白紋を缺く。

五、雌にては翅鞘に普通四白紋を裝ふ時に二個なることあり。

経過 前種と同時に現はれ、同様の害をなす。北海道及び樺太地方に普通なれども、経過未だ判然せず。歐洲にありても亦榎類に大害を加ふ。

(三〇) いたやかみきり *Mecynipus pubicornis* Bat. (第五十圖版(8))

被害植物 槭。

特徴 成蟲 體は暗褐色にして、黄褐の短毛を密生す。觸角は體よりも遙に長く、赤褐を呈し、灰白毛を密生す。前胸背の兩側に棘状突起あり、翅鞘の基部には深き點刻を粗布し、中央には廣き灰白の斜帶を走らし、翅端も亦廣くして灰白なり、兩者何れも褐色紋を散在す。脚及び體下は褐色の短毛を密生す。雄にありては翅鞘の灰白帶小にして判然せず。體長六分乃至九分。

経過 未だ判然せざれども、成蟲は七月中旬現はれ、槭に産卵するを見る。廣く本邦に播布し、特に九州に多し。

(三一) ひげながごまだらかみきり *Apilima liturata* Pat. (第五十圖版(9))



被害植物 槭。

**特徴** 成蟲 體は灰白色にして黒色の斑紋多し、觸角は體の約四倍餘ありて各節の末端は黒色、後頭に三個の黒紋を具へ、兩側及び前頭にも亦黒紋あり、翅鞘は圓柱形にして兩側に棘狀突起を具へ、其下方に黒縱條あり、前縁中央に二個の黒縱條を具へ、其後縁に三錐狀の黒紋あり、翅鞘には大小の黒紋を撒布し、前縁の大部は黒色なり、腿節及び脛節の中央末端並に跗節の末端は黒色、脚及び體下は灰白毛を密生す、體長五分五厘乃至六分五厘。

**經過** 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲は樹幹に縱溝を穿ちて材質部を食するが故に、水の上昇を遮りて樹を枯死せしむることあり、成蟲は七月下旬乃至八月中旬現はれ、樹幹に産卵す、其數甚だ多からず、廣く本邦に播布す。

(三三) **ねじろかみきり** *Pogonocherus semiivens* Bat. (第五十圖版(10))

被害植物 しなのき楡。

**特徴** 成蟲 體は黒色、翅底の大半は白色、觸角は體と稍々同長にして基部は褐色、各節の基部は白色にして少しく藍色を帯び、下面に黒色の長毛を粗生す、頭及び前胸背は暗褐色、後者は中央に二個の瘤狀突起を具へ、兩側に低き棘狀突起あり、稜狀部黒色にして其中央は白色、翅底は白色にして中央に灰色紋を具へ、其前方は瘤狀に隆起す、翅鞘の後半は黒色、個の縱隆を具へ、黒色の毛地二個あり、翅端は黄色にして刺を裝ふ脚は

黒色にして長短二種の灰白毛あり、體長二分乃至二分五厘。

**經過** 未だ判然せざれども、成蟲は四月下旬より現はれ、樹枝に産卵するものゝ如し、年一回の發生にして、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、北海道地方には普通なれども、未だ他地方にて發見せることなし。

(三四) **しなかみきり** *Eutetrappa varicornis* Bat. (第五十圖版(11))

被害植物 しなのき。

**特徴** 成蟲 體は灰黄、觸角は灰白にして少しく藍色を帯び、第一及び第二節の全體並に以上五節の末端は黒色、額片は黄褐色、前胸背は圓柱形にして中央に四個の黒紋を裝ひ、兩側に各一條の黒線あり、翅鞘は約七個の黒紋を裝ひ、肩部より翅端に達する黒線ありて其中央に平行せる縱隆起あり、稜狀部の兩側にも亦黒紋あり、體及び脚に短毛を密生す、體長五分五厘乃至六分。

**經過** 年一回の發生、成蟲は六月乃至八月現はれ、しなのきの樹幹に産卵す、老熟したる幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、札幌地方には極めて普通なれども、本州には産せざるが如し。

(三五) **はんのあまかみきり** *Eutetrappa chrysargyrea* Bat. (第五十圖版(12))

被害植物 赤楊、しなのき。

**特徴** 成蟲 體は光澤ある鱗物性の淡緑、觸角、前頭の一紋、前胸背の四紋、稜狀部、翅鞘の前



葉正器圖

1	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
2	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
3	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
4	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
5	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
6	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
7	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
8	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
9	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
10	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
11	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
12	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
13	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
14	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
15	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
16	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
17	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
18	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
19	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832
20	<i>Phyllobius thalictroideus</i> Bal.	.....P. 832

縁及び縦列せる四大紋は黒色、觸角は體より少しく長し、稜狀部の中央に縁紋あり、翅鞘の黒紋には網目様の點刻あり、脚は黒色、中後の腿節は綠色を帯ぶ、腹部は黒色、尾端の兩側は綠色、體長四分乃至五分。

經過 前種と同時に現はれ同様の經過をなすものゝ如し。

(三五) かつらかみきり *Glenae fortunae* Saund. (第五十圖版(13))

被害植物 カッラ 桂。

特徴 成蟲 體は黒色、灰白の短毛を密生す、觸角は雌にては體より少しく短、雄にては長し、前胸背の兩側に各一個の灰白色縦條あり、稜狀部は灰白、翅鞘は暗灰色、兩側に黒縦條あれども翅端に達せず、脚及び體下に灰白毛多きを以て暗灰色の觀あり、體長三分乃至四分。

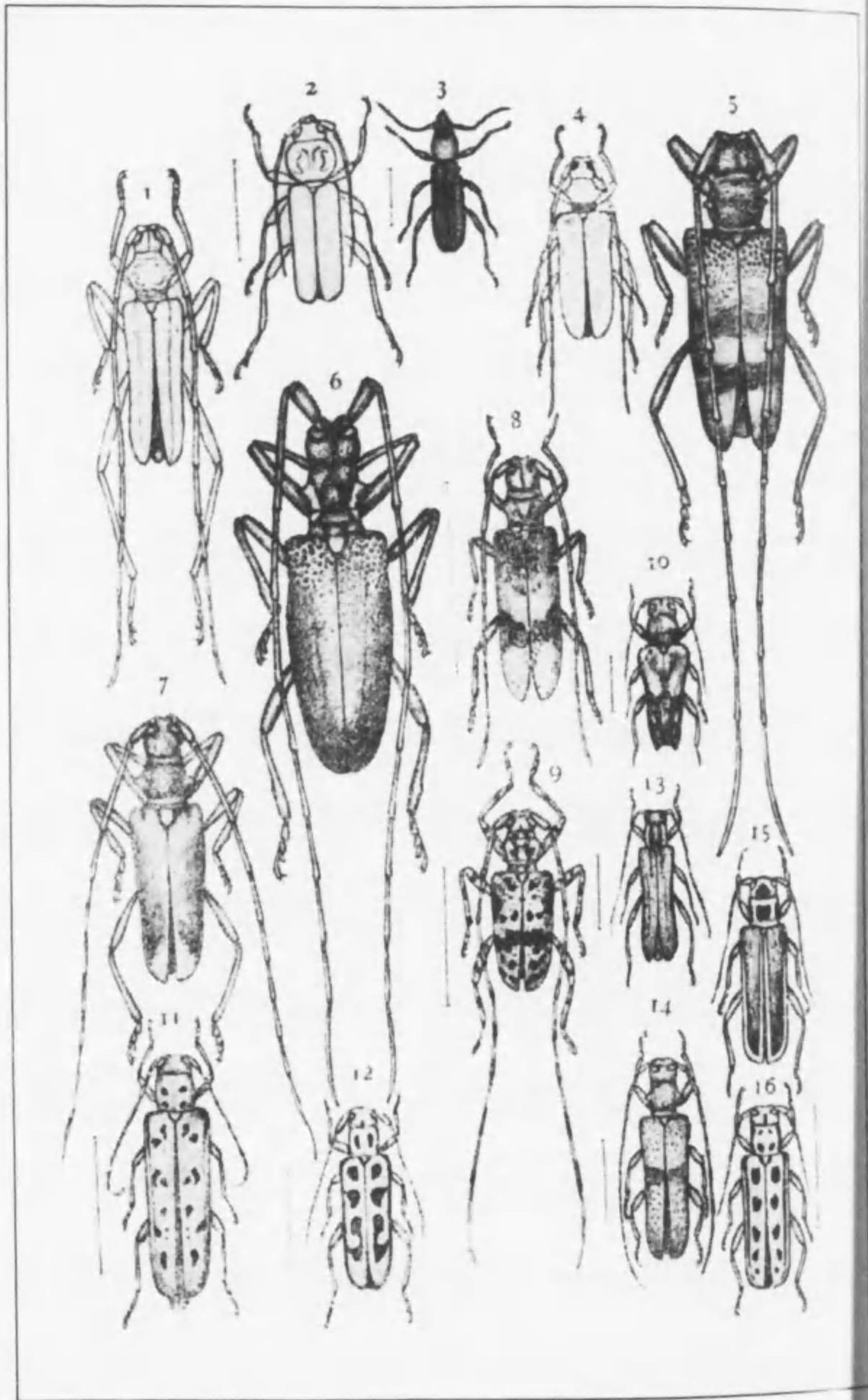
經過 未だ判然せず、四月中旬乃至五月下旬現はれ、樹幹に産卵するものゝ如し。

(三六) しのくろふかみきり *Asperla agapanthina* Bal. (第五十圖版(14))

被害植物 しのき。

特徴 成蟲 體は灰褐色、少しく綠色を帯ぶ、觸角は體よりも長く、黄褐にして長毛を裝ひ、第一節及び第二節並に各節の末端は黒褐、前胸背の兩側に低き棘狀突起あり、翅には小黒褐紋を散在し、中央に大黒褐紋を裝ふ、脚は黄褐、腿節の基部は黒色、體長三分乃至四分。





第 五 拾 圖

1. *Chloridolum thaliodes* Bat. おほあをかみきり .....P.832
2. *Semanotus chlorizans* Solsky. くろひらたかみきり .....P.833
3. *Dere thoracica* White. ほたるかみきり ..... P.834
4. *Monochammus fraudator* Bat. びろうどかみきり .....P.834
5. *Monochammus luxuriosus* Bat. せんのかみきり .....P.835
6. *Monochammus grandis* White. ひげながかみきり .....P.836
7. *Monochammus sartor* F. var. 4—*maculatus* Motsch. よつぼしひげながかみきり .....P.836
8. *Mecynippus pubicornis* Bat. いたやかみきり .....P.837
9. *Apalimna liturata* Bat. ひげながごまだらかみきり ..... P.837
10. *Pogonochaerus seminiveus* Bat. ねじろかみきり ..... P.838
11. *Eutetrappa varicornis* Bat. しなかみきり .....P.839
12. *Eutetrappa chrysargyrea* Bat. はんのあをかみきり .....P.839
13. *Glenea fortunei* Saund. かつらかみきり .....P.840
14. *Asaperda agapanthina* Bat. しなのくろふかみきり .....P.840
15. *Saperda sanguinolenta* Thoms. はんのかみきり .....P.841
16. *Saperda decempunctata* Gebl. とほしかみきり .....P.841



経過 未だ判然せず、五月中旬より現はれ、「しなの木」に普通なり、「しなかみきり」と同様の経過をなすものゝ如し、札幌地方には極めて普通の種類なれども、本州には稀なるが如し。

(三七) はんのかみきり *Saperda sanguinolenta* Thoms. (第五十圖版(15))

被害植物 赤楊。

特徴 成蟲 體は黒色、頭は赤黄、頭頂の一紋及び頭の三角紋は黒色、觸角は各節基部に於て灰白、前胸は赤黄、中央の二紋及び兩側の一紋は黒色、圓柱形にして兩側に棘刺なし、稜狀部赤黄、其兩側、翅鞘の前端及び後縁は赤黄、顆粒突起及び粗糙の點刻多し、體下及び脚は黒色、體長六分乃至七分。

経過 年一回の發生、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し次で羽化す。成蟲は三四月現はれ、樹幹に産卵す、幼蟲は材質部を食し、老熟すれば一寸餘に達す、頭は淡褐、其前縁は黒色、第一節は扁平にして褐紋を裝ふ、本州には稀ならざれども北海道には少なし。

(三八) とほしかみきり *Saperda decempunctata* Gebl. (第五十圖版(16))

被害植物 しなのき。

特徴 成蟲 體は暗黄にして少しく綠色を帯ぶ、「しなかみきり」に酷似すれども翅鞘の斑紋は大にして十個あり、稀に翅底の斑紋二個なることあり、翅鞘の兩側に縦隆を缺くを以て容易に識別することを得べし、體長六分内外。



經過 不明「しなかみきり」と同時に發生し同様の經過をなすものならんか。

(三九) くはごまだらかみきり *Melanaster chinensis* Först. (第五十一圖版(1))

被害植物 桑 柑橘 率 柳 柳棟

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、觸角は體より長く、各節の基部は灰藍色、前胸背に横皺及び棘刺を有し、二個の灰藍色紋を装ふ、稜狀部及び胸部は稍々藍色、翅鞘の基部に顆粒多く、鞘上に四十餘個の白紋を装ふ、腹部及び脚は灰藍色、體長九分乃至一寸二分。  
幼蟲 「くはかみきり」の幼蟲に酷似し形稍々小なり。

經過 同前。

驅除法 「くはかみきり」に同じ、但し幹を害するを以て該樹を搜索して母蟲を捕殺すべし。

(四〇) へにかみきり *Purpuricenus tannickii* Guér. (第五十一圖版(2))

被害植物 棗竹。

特徴 成蟲 體は黒色、頭の中央に一縦溝を有し、觸角は黒色にして體と略々同長、前胸背は朱色、後縁は突起し、側面に各一個の棘狀突起を有し、中央に五個の黒紋を装ふ、翅鞘は濃朱色、接合部は黒色、點刻を密布す、脚は黒色、褐色の短毛を密生す、體長六分。

(四一) くはとらかみきり *Xylotrichus chinensis* Chev. (第五十一圖版(3))

被害植物 桑。

特徴 成蟲 體は黄色、頭は割合に小、中央の縦條複眼、觸角及び後頭は褐色、觸角は短くし

て僅かに中肢の基部に達す、前胸は球形にして中央に斷續せる一縦條を具へ、約三分の二の前方に黒色の一横條ありて之より前方は黄色、後方は赤褐、更に其後方は黒色を呈す、翅鞘は前方廣く後方狭く、基部は黒色、次で黒黄の兩色交互に斜條をなして翅の半ばに達す、其後半は黄色にして其内に褐色の横帶あり、故に翅を接合するときは前半の斜條は恰も人字形を現はす、胸腹は總て黒色、後胸の側片に黒色の環紋を装ふ、各腹節の基部は褐色、脚は黄色、基節と腿節の半は黒色、轉節は褐色、體長七分乃至八分。

幼蟲 「くはごまだらかみきり」の幼蟲に酷似すれども小形なり。

經過 幼蟲期は約一ケ年、八九月頃産下せられたる卵子は二週間前後にして孵化す、樹皮下の軟質部を食ひ其儘越年す、翌春材質部に入りて食害したる後七八月頃に至りて老熟し、次で蛹化し、八九月頃羽化す、幼蟲は下方より上方に迂曲せる隧道を造りて食害するの傾あり、枝皮を害する場合には枝はために著しく膨大し、數年の後大に異状を呈し、遂に枯死するに至る。

(四二) ぶだうとらかみきり *Xylotrichus pyrroderus* Bat.

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體は黒色、前胸背は赤褐にして稍々球形に近く、網狀の點刻を具へ、黒毛を粗生す、翅鞘は黒色、稜狀部に近く黄褐と黄色の二横帶ありて、前方にあるものは細くして斜走し、後方にあるものは横走して太し、體長三分五厘乃至四分五厘。



經過 年一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲は黃白、大腿は黒色、口部は褐色、第一節には粗大の點刻を粗布し、硬皮板は黃白にして滑澤なり、蛹は尾端に齒狀突起を群生し、其末端は黒褐、老熟したる幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で孵化するものゝ如し、東北地方殊に岩手地方に多し、北海道には未だ産するものあるを見ず。

(四三) ことらふかみきり *Xylotrechus grayi* Whit. (第五十一圖版(4))

被害植物 榆。

特徴 成蟲 體は黒褐、前頭觸角翅鞘の基部腹面並に脚は黃褐、觸角後方に黒褐の一横條あり、後頭は黃毛を密生す、前胸は稍々球形にして中央に細き黃色の横條あり、翅鞘の基部黃褐、其下方にある斜條、中央の彎曲せる二横條並に翅端は黃色、中胸並に第一第二腹節の兩側に各一個黃色の毛塊あり、腿節の中央黒褐、體長五分乃至六分。

經過 年一回發生す、成蟲は六月上旬乃至八月現はれ、新伐木地に集まり爰に産卵す、又薪積場に集まるの性あり、被害樹は多く老木なるを以て左程害なきものゝ如し、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、札幌地方にありては普通の種類なれども東京地方には稀なり。

(四四) きすちとらかみきり *Clytus caproides* Bat. (第五十一圖版(5))

被害植物 柿。

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角翅底の斑紋及び脚は黃褐、頭の中央にある二紋後縁前胸背の

前後兩縁後狀部翅鞘の二横條腹面節の後縁並に翅端は鮮黃色、雄にては翅鞘の褐色部の下方に更に黃色の一斜條あれども餘り判然せず、中央の横條は兩者相合して人字形をなし、外半にある廣帯は端直なり、體長四分乃至六分。

經過 年一回の發生、成蟲は六月中旬乃至七月下旬現はれ、柿其他柿樹科植物の樹幹に産卵す、幼蟲は縱溝を穿ちて材質部を食ひ、一端に小孔を開きて之より糞を排出す、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、廣く本邦に播布すれども北海道には稀なり。

(四五) たけのとらふかみきり *Cyanthus annularis* F. (第五十一圖版(6))

被害植物 竹(竹細工物其他竹柱等を食害す)。

特徴 成蟲 體は灰褐、頭は小、觸角は褐色にして中肢の基部に達す、前胸は球形、中央に二個の黒紋を裝ふ、中央にあるものは大にして又狀をなす、翅鞘は暗黃、肩部に近く長楕圓形の黒輪を有し、其後方に一黒横線あり、又翅端に沿ひて大なる黒紋を具ふ、脚は暗褐、後腿節は稍々黒色を帯ぶ、腹部は灰白の細毛を裝ふ、體長四分五厘内外。

(四六) しろおびかみきり *Callidium albicinctum* Bat. (第五十一圖版(7))

被害植物 葡萄櫻等。

特徴 成蟲 體は黒色、褐色若くは灰白の短毛を裝ひ、頭には小點刻あり、觸角は體より少しく短し、前胸は球形をなし、小點刻を密布す、翅鞘には褐毛を裝ひ、中央に一白帯あり



腿節は棍棒狀に膨大す、體長二分乃至二分三厘。  
幼蟲 體は黄白、他の天牛の幼蟲と異なるなし、但し大腿は大にして他の種類よりも突出せる傾あり、體長二分。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて越年し、翌春五月下旬乃至六月上旬に羽化す、成蟲は莖皮を破り其内に卵子を藏す、一雌の卵數は四五十内外、卵は白色、長楕圓形にして一端少しく尖る、幼蟲は初めは皮膚に止まりて食害すれども、成長するに隨ひ木質部に蠶入す、蛹は綿様の繭内にあり、之が爲め葡萄の枯死すること稀ならず。

驅除法 成蟲は五月下旬乃至六月上旬孵化するものなれば注意して捕獲すべし、萎凋せる莖枝は切りて焼き拂ふべし。

(四七) あかねかみきり *Callidium maacki* Kraatz. (第五十一圖版(8))

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭及び前胸は黒色にして黒褐の細毛を粗生す、翅鞘の基部約三分の一は褐色、他は暗黒色、少しく褐色を帯び、之に二條の白色帯を裝ふ、後腿節は著しく膨大す、體長二分三厘乃至二分五厘。

(四八) すざかみきり *Sympiezocera japonica* Lac. (第五十一圖版(9))

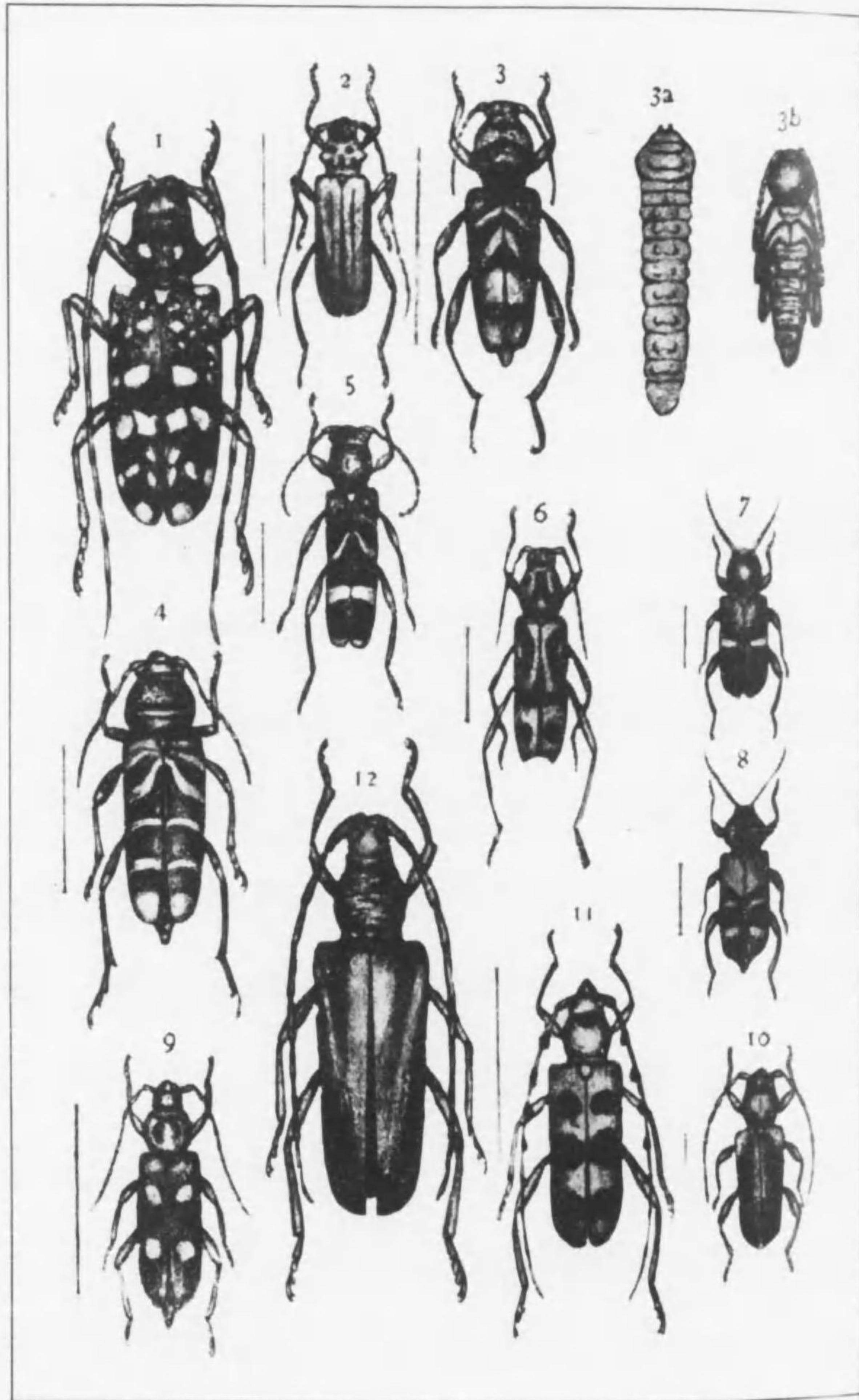
被害植物 杉。

特徴 成蟲 體は黒褐にして扁平、細毛及び點刻を密布す、觸角は赤褐にして長さ體より

圖壹廿五

1182	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1183	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1184	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1185	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1186	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1187	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1188	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1189	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1190	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1191	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1192	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1193	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1194	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1195	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1196	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1197	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1198	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1199	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ
1200	<i>Stenobothrus japonicus</i> Latr.	日本ハナハチ





第五拾壹圖

1. *Melanauster chinensis* Först. くはごまだらかみきり.....P.842
2. *Purpuricenus temmickii* Guer. べにかみきり.....P.842
3. *Xylotrechus chinensis* Chev. くはとらかみきり.....P.842  
a. 幼蟲 b. 蛹
4. *Xylotrechus grayi* Whit. ことらふかみきり.....P.844
5. *Clytus caproides* Bat. きすぢとらかみきり.....P.844
6. *Clytanthus annularis* F. たけのとらふかみきり.....P.845
7. *Callidium albicinctum* Bat. しろおびかみきり.....P.845
8. *Callidium maacki* Kraatz. あかねかみきり.....P.846
9. *Sympiezocera japonica* Jac. すぎかみきり.....P.846
10. *Semanotus rufipennis* Motsch. ひめすぎかみきり.....P.847
11. *Rosalia batesi* Har. るりぼしかみきり.....P.847
12. *Mallambyx japonicus* Bat. やまかみきり.....P.847



短し、翅鞘には各二個の黄褐色を装ふ。體長六分乃至七分二厘。

(四九) ひめすぎかみきり *Senanotus rufipennis* Motsch. (第五十一圖版(10))

被害植物 杉、松。

特徴 成蟲 體は赤褐色にして扁平、觸角は體より短くして黒褐、頭及び前胸は黒褐にして

點刻を密布し、前胸背の兩側に近く黒紋を装ふ。翅鞘は赤褐、點刻を密布す。體長三分。

(五〇) るりぼしかみきり *Rosalia batesi* Har. (第五十一圖版(11))

被害植物 胡桃。

特徴 成蟲 體は青色、觸角は體に約二倍し、柄節及び梗節は黒色、第三第四及び第五節の

末端に黒色の毛塊あり、前胸背の前縁及び中央の横紋は黒色、翅鞘は青藍色、三個の黒

紋ありて末端に近きものは不正形をなす。體下は絹絲様の青白毛を密生す、腿節及び

脛節の兩端は黒色、體長五分五厘乃至一寸。

(五一) やまかみきり *Mallambyx japonicus* Bat. (第五十一圖版(12))

被害植物 栗。

特徴 成蟲 體は灰黒にして灰黄色の短毛を密生す、頭細長、中央に縦溝を有し、大臑は大

にして突出す、觸角は黒色、體より長し、前胸は扁たく、横皺多し、翅鞘は細長にして肩部

稍々隆起す、跗節の下部は扁たくして黄色、體長一寸六分。

幼蟲 「くはかみきり」の幼蟲に酷似す、完熟すれば二寸餘に達す。



經過 三年に一回の發生を爲すものゝ如し、成蟲は七八月の頃現はれ、卵子を樹幹に残す、幼蟲は材質部に大縦孔を穿ち、食害するを以て、樹木の枯死を見ること稀ならず。

天牛一般の驅除法

第二百六十八圖  
石油注射器



(1) 瓶子嘴  
(2) 管子嘴  
(3) 管子嘴

一、上圖の如き灌注器にて、蟲孔より石油石油乳劑若くは酢を注入すべし、此器を用ふる時は、鐵砲蟲が如何なる場處にあるも、汁液を之に達せしむることを得べし、又、鋭刀にて、蟲孔を破り、其内にある幼蟲を殺すべし、此蟲は常に、蟲孔より糞を出せるを以て、容易に之を發見し得べし。

二、成蟲は幾分か燈火に飛來するの性あるを以て之を利用すべく、又、新伐木地及び白布に集來するの性あるが故に、伐木地に至りて、黄昏白布を樹幹に張り、之を捕獲すべし、而して、晝間は樹上に靜止するを以て、急に動搖して之を落下せしむるを得べし、又、被害の患ある樹幹は時々、巡視して、其有無を檢すべし。

三、卵子の所在は、樹皮浮上し、看破し得るが故に、常に其搜索に心掛くべし。

小蠹蟲科 Scolytidae.

(1) まつこのひめこしんくひ *Myelophitus (Blastophagus) minor* Hartig. (第五十二圖版(1))

被害植物 松、榎、樺、えぞまつ、落葉松。

特徴 成蟲 體黑色、圓柱形をなし、頭は下向して見えず、前胸は長く體の約三分の一を占め、前方は微細の小點を密布す、翅鞘は黒色にして、縦條を有し、其間室に點刻を列ぬ、前方は少しく細小なり、體長一分。

幼蟲 白色にして象鼻蟲の幼蟲に酷似す、脚は判然せず、體長一分二三厘。

經過 成蟲の有様にて越年す、翌春潜伏處より出で、樹幹に穿入して産卵す、卵子は白色楕圓形にして十日内外にて孵化し、産附せられたる場所より食ひ始め、各自其欲する方向に向て食進す、幼蟲孔は概ね母孔の直角にして、放線狀をなし、相交又することは稀なり、斯くて普通六月下旬乃至七月上旬に至り、成長し終れば、其處に蛹化す、八月乃至九月に至り更に甲蟲を見るは即ち第二回のものなり、幼蟲孔の長さは六七寸とす、母孔は複横孔なり、此害に罹りたる樹は年内に枯死することあり、廣く本邦に播布す。

(2) まつこのこしんくひ *Myelophitus (Blastophagus) piniperda* L. (第五十二圖版(2))

被害植物 松、榎、落葉松。

特徴 成蟲 體は黒色、翅鞘は少しく褐色を帯ぶ、胸部は前方幅狭く、後方廣し、翅鞘には縦列せる小瘤あり、瘤上には細毛を生ず、末端は截斷狀に終る、體長一分三厘乃至一分七厘。

幼蟲 白色無肢、第一節は大にして少しく黄色を帯ぶ、體長二分。



經過 年二回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、三四月頃現はれ、前種同様に産卵す、幼蟲は十日内外にして孵化し、母孔と直角に幼蟲孔を穿つ、六月若くは七月上旬蛹化す、其害の甚だしきは「あかまつ」にして三十五年乃至四十年を経たるもの最も害を被り易し、其特に恐るべきは樹の新芽を穿つにあり、晩秋越年せんが爲め樹幹二寸以上の深さに蠶入するの性あるを以て其害少なからず、母孔は單縱孔にして、幼蟲孔は割合に變形なり、成蟲の新芽に蠶入するは其食物を得んが爲めにして常に長さ一二寸の孔を上方に向ひて穿ち、其部を枯死せしむ。

(三) すものこしんくひ *Scolytus japonicus* Chap. (第五十二圖版(3))

被害植物 李、辛樹、梅、櫻、楡。

特徴 成蟲 黑色、前胸は大にして體の半を占む、翅鞘に縱條多く、翅鞘の接合部は少しく凹陥す、尾端は斜に切斷せられたるの觀を呈す、腹面に黄毛を密生す、體長八厘。

經過 年二回の發生をなす、母孔は四分乃至一寸、幅六厘にして其一端は彎曲す、鞣皮層にあり、幼蟲孔は三寸三四分に達す、初めは放線狀をなせども次第に不規則となる、楡の枝に普通なる種類にして直徑一寸位の枝を最も嗜むものゝ如し、八月中旬二回の成蟲を生ず。

(四) うめのこしんくひ *Scolytus aratus* Blandf. (第五十二圖版(4))

被害植物 梅、辛樹、櫻、楡。

特徴 成蟲 黒褐、頭は黑色、中央に一縱隆あり、前胸背は點刻を密布し、灰色毛を裝ひ、中央に一縱隆あり、翅鞘は黄褐、明瞭なる縱溝列を具へ、間空に黄毛を裝ひ、小顆粒あり、腹面は黑色、黄色の長毛あり、體長七厘。

經過 年二回の發生をなすものゝ如し、余の所藏標本は九月八日捕獲したるものなれば、定めて第二回の發生なるべし、母孔は長さ六分乃至一寸、幅四厘、其一端は分叉す、鞣皮層にあり、幼蟲孔は母孔に稍々直角をなして互に相平行す。

(五) にれのおほこしんくひ *Scolytus esuriens* Blandf. (第五十三圖版(2))

被害植物 楡。

特徴 成蟲 黑色、光澤あり、頭は雄にては前方扁たくして短毛を裝ひ、雌にては稍々隆起し、細き縱溝多し、前胸背は前縁小となり、赤褐色にして頗る光澤を帯び、點刻は中央にては小にして粗、前縁及び兩側に於ては大にして密なり、翅鞘は黑色乃至赤褐色、腹部は黑色、基部隆起す、體一分一厘乃至一分八厘。

經過 年二回の發生をなす、第一回は五六月、第二回は八九月、幼蟲の有様にて越年す、母孔は單縱孔にして深く鞣皮層に達す、幼蟲孔は直角をなして上方に向ふ、普通樹幹及び大枝を害す、札幌地方にありては普通なる種類にして樹は之が爲めに枯死す。

(六) みつとげこしんくひ *Scolytus crispinosis* Strohm.  
被害植物 楡。



特徴 成蟲 前種に酷似すれども少しく小形、尾端に赤褐の三刺を裝ふを以て容易に區

別することを得べし、體長一分二厘乃至一分五厘。

經過 前種と同時に現はれ同様の害をなす、母孔は前種よりも少しく短し。

(七) にれのこしんくひ *Scolytus chikisanii* Nils. (第五十三圖版(3))

被害植物 榆。

特徴 成蟲 黑色、形は前種に比し稍々長形なり、翅鞘は前胸よりも長く尾端細し、點刻あ

る縦列ありて其間室には小なる一列の點刻あり、第二腹節は少しく凹陷し、第二、第三

及び第四腹節の後縁は隆起す、體長一分二厘乃至一分六厘。

經過 年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月及び八月現はる、母孔は長さ七分乃至

一寸六分幅七厘、上端にて傾斜するもの多し、幼蟲孔は相接近して出で末端にて交叉

す、多くは枝を害すれども又幹にあることもあり。

(八) ゆみばらこしんくひ *Scolytus curviventralis* Nils. (第五十三圖版(4))

被害植物 榆。

特徴 成蟲 前種に酷似す、其差異は前胸背點刻の密なること及び翅鞘上の間室にある

點刻の小なるにあり、體長一分三厘。

經過 同前。

(九) にれのひめこしんくひ *Scolytus frontalis* Blandf.

被害植物 榆。

特徴 成蟲 黑色にして少しく光澤を帯ぶ、頭に點刻を密布す、黄色の短毛を裝ふ、翅鞘は

前胸背よりも廣く、縱溝は餘り判然せず、間室は狭く小點刻列あり、第一、第三及び第五

間室には二列の點刻列あり。

尙此種に係るものにして本邦に産するものは左の二種なり。

しらかはこしんくひ *Scolytus agnatus* Blandf. [にれのこしんくひ]に酷似すれども、第二腹節

は凹陷せず、翅鞘の末端は圓く、接合部に近く細かき鋸狀齒を有し、間室には不規則なる一

列の點刻を有す、しらかばの枯木に寄生す、體長一分二厘—一分五厘。

さはしばこしんくひ *Scolytus claviger* Blandf. [にれのおほこしんくひ]に酷似すれども、第二

腹節の中央に當り雄にては後方に向へる稍々長き長形の隆起を備へ、雌にては同位置に

小瘤を有することあり、體長一分乃至一分八厘、之は「さはしば」の樹皮下に寄生す。

(一〇) ひのきのこしんくひ *Phloeosinus rudis* Blandf.

被害植物 ひのき。

特徴 成蟲 黑色、雄は翅鞘の第一及び第二間室部に五六個の強き刺狀突起を備へ、第二

及び第四間室は平滑にして末端に近く一二個の突起あり、雌は第一及び第二間室に

小瘤列を裝ふ、體長八厘。

經過 未だ分明ならざるも、母孔は單縱孔或は複縱孔をなせり、「ひのきの」の樹皮下に寄生す。



(一一) ひばのこしんくひ *Phloeosinus perlatus* Chap. (第五十三圖版)

被害植物 あすなろ(ひば)。

特徴 成蟲 體は黒色、少しく褐色を帯ぶ。翅鞘赤褐色を呈し、間室には顆粒突起列を備へ、又

黄色の小鱗毛を密布す。第二間室は少しく窪み、末端にて細狭となる。體長一分餘。

經過 母孔は單縱孔にして一端に交尾孔を有す。韌皮層よりも寧ろ形成層を侵害す。

此屬に係るものにして本邦に産するものは左の一種なり。

ひばのこしんくひ *Phloeosinus lewisii* Chap. 翅鞘黒色、間室は同幅、不規則なる一列の小瘤起を具へ、灰色の鱗毛を生ず。體長六厘(ひば二ひのき)に寄生す。

(一二) やちたもこしんくひ *Hylesinus costatus* Blandf. (第五十二圖版)

被害植物 やちたも。

特徴 成蟲 黒色若くは黒褐、頭の前方は平たくして點刻多し、中央に光澤ある縦隆あり、

前胸は黒色、前方は少しく淡色、兩側は圓し、翅鞘の末端に黄色の鱗状毛あり、縦溝列は

深く、第一、第三、第五、第七及び第九間室は中央より廣幅となる。顆粒多し、體長一分二厘。

經過 母孔は長さ三分乃至八分ありて常に樹幹に横置せらる。普通形成層にあり、幼蟲孔

は甚だ不正にして長さ一寸三分乃至三寸五分あり、年發生の回數は未だ判然せず。

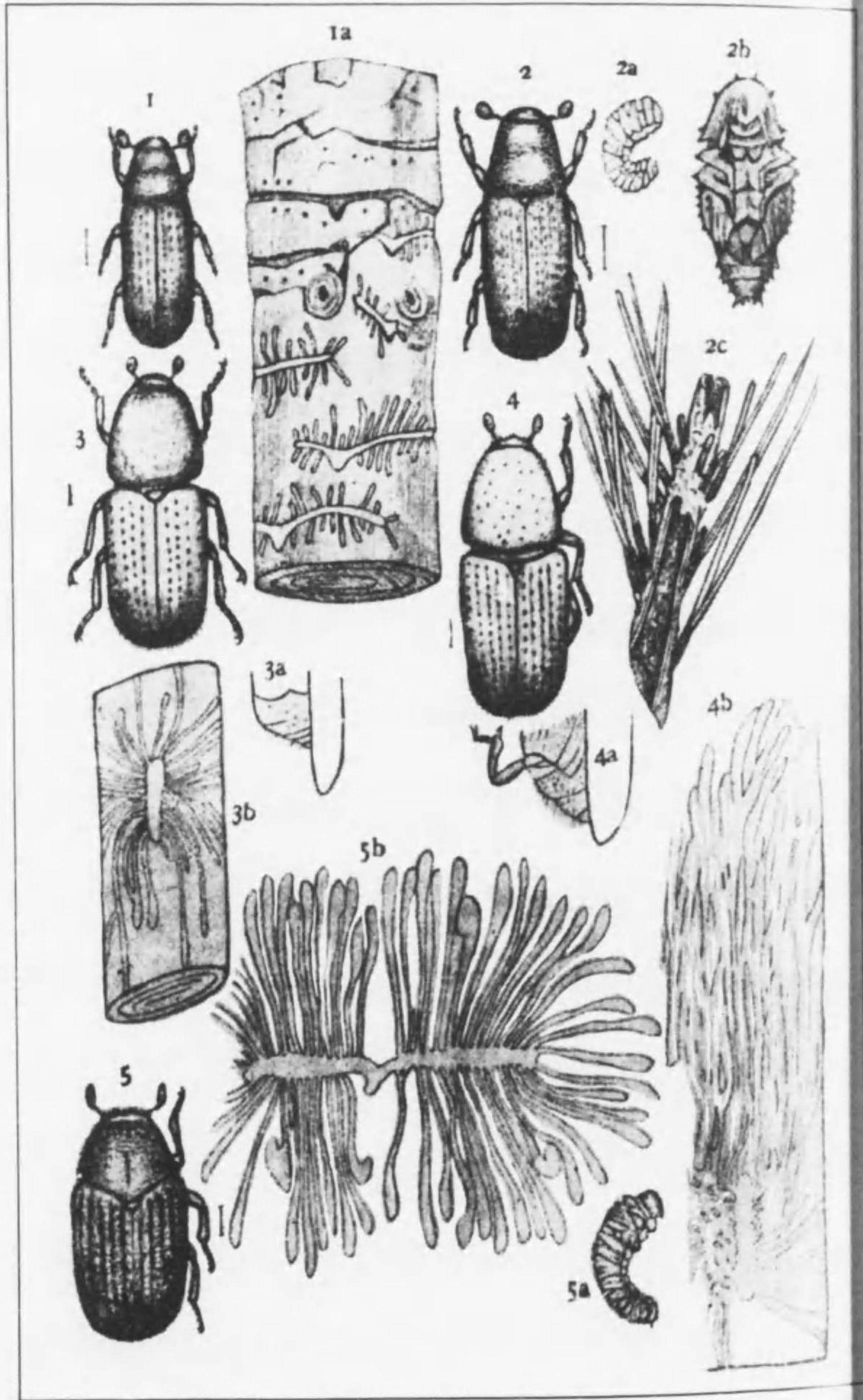
(一三) おほやちたもこしんくひ *Hylesinus nobilis* Blandf.

被害植物 やちたも。

圖版正第

853. P. (11) 1	<i>Phloeosinus perlatus</i> Chap.	成蟲
854. P. (12) 1	<i>Phloeosinus lewisii</i> Chap.	成蟲
855. P. (13) 1	<i>Hylesinus costatus</i> Blandf.	成蟲
856. P. (13) 2	<i>Hylesinus nobilis</i> Blandf.	成蟲





第五拾貳圖

1. *Myelophilus (Blastophagus) minor* Hartig. まつのみめこしんくひ…P.848  
a. 穿孔
2. *Myelophilus (Blastophagus) piniperda* L. まつのかしんくひ……P.849  
a. 幼蟲 b. 蛹 c. 蝕痕
3. *Scolytus japonicus* Chap. すもものこしんくひ ……………P.850  
a. 尾端 b. 蝕痕
4. *Scolytus aratus* Blandf. うめのこしんくひ ……………P.850  
a. 尾端 b. 蝕痕
5. *Hylesinus costatus* Blandf. やちたもこしんくひ……………P.854  
a. 幼蟲 b. 蝕痕



## 特徴

成蟲 體卵形に近く、黒色にして光澤を缺く、頭に小點刻を密布す、額は少しく突出し、光澤あり、觸角は赤褐にして球桿は末端にて尖る、前胸は前方にて細まり、小點刻を密布し、短毛を密生す、稜狀部の前方には一小凹陷あり、翅鞘の點刻列は大間室には顆粒多し、體長二分。

經過 母孔は一分二三厘の圓孔にして普通皮にありて鞣皮層を侵害せず、幼蟲孔は放線狀をなして不定の方向に走る、成蟲の出でたる孔は徑一分あり、經過不明。

左の三種は同じく「やちたも」を害す。

やちたもこしんくひ *Hylesinus laicollis* Blandf.

被害植物 やちたも。

體長一分乃至一分三厘、卵形、黒色、光澤なし、翅鞘は腹面よりも隆起す。

やちたもくろこしんくひ *Hylesinus tristis* Blandf.

被害植物 やちたも。

體長九厘乃至一分三厘、前種に似たれども腹面は翅鞘よりも隆起せり。

しらおびこしんくひ *Hylesinus cingulatus* Blandf.

被害植物 やちたも。

體長は八厘乃至一分一厘、觸角及び脚は赤褐、翅鞘に灰黄帯あり。

(一三)とどまつこしんくひ *Polygraphus p. oximus* Blandf. (第五十三圖版(1))



被害植物 榎。

特徴 成蟲 黒色若くは黒褐色にして灰色の鱗毛を装ふ。頭は黒色、光澤ありて點刻多し、雌には前頭に二小突起あり、觸角は黄褐色にして前胸幅よりも長く、前方甚だしく細小す。灰色の鱗毛及び短毛多し、中央に判然せる縦條あり、翅鞘は黒色、末端は赤褐點刻ある縦溝列を具へ、間室には粗大の點刻と灰色の鱗毛あり、體長八厘。  
幼蟲 白色にして少しく黄色を帯び、頭は褐色なり。

經過 年一回の發生、成蟲の有様にて越年す、四五月頃より樹幹に蠶入し、母孔を開きて産卵す、母孔には三個乃至四個の枝を具へたるものありて、韌皮層にあり、幼蟲孔は不正にして稍々羽狀をなす、強壯なる樹木を侵害せざるも、老木若くは枯死せんとするものに蠶入して木材の腐朽を速かならしむ、九月下旬成蟲となる。

(一五) あかぞこしんくひ *Polygraphus jescensis* Nils.

被害植物 あかぞこえぞまつ。

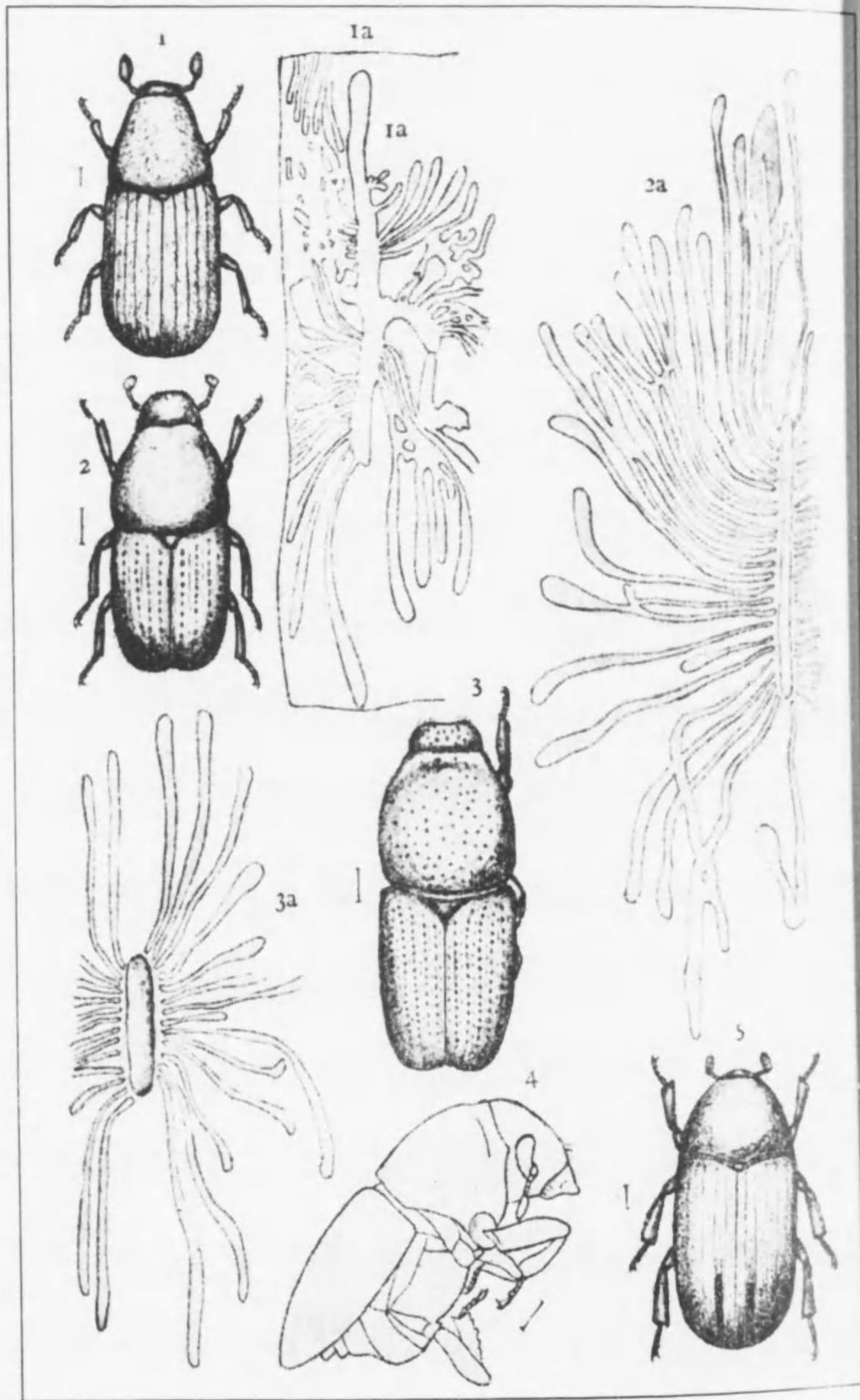
特徴 成蟲 前種に酷似すれども少しく大なり、體は黒褐、前頭は圓く、額は光澤を缺き、點刻を装ふ。前胸は長さよりも廣く、點刻を密布す、翅鞘の點刻列は判然し、間室にある點刻は小なり、腹面は突起し、短毛を密生す。雄は尾端に長毛を生ず、體長八厘乃至一分。

經過 前種と同様なるが如し、母孔は四分乃至一寸二分五厘、幼蟲孔は一定せずと雖も前種に酷似したる所あり、但し母孔の一端は前種の如く彎曲せず、前種よりも普通なる

圖參併正第

1589	あかぞこえぞまつ	<i>Mindus amplexus</i> Nils.	成蟲
1590	あかぞこえぞまつ	<i>Mindus amplexus</i> Nils.	幼蟲
1591	あかぞこえぞまつ	<i>Mindus amplexus</i> Nils.	成蟲
1592	あかぞこえぞまつ	<i>Mindus amplexus</i> Nils.	幼蟲
1593	あかぞこえぞまつ	<i>Mindus amplexus</i> Nils.	成蟲
1594	あかぞこえぞまつ	<i>Mindus amplexus</i> Nils.	幼蟲





第五拾參圖

1. *Polygraphus proximus* Blandf. とどまつこしんくひ .....P.855  
a. 蝕痕
2. *Scolytus esuriens* Blandf. にれのおまこしんくひ .....P.851  
a. 蝕痕
3. *Scolytus ch'kisanii* Niis. にれのこしんくひ .....P.852  
a. 蝕痕
4. *Scolytus curviventralis* Niis. ゆみばらこしんくひ .....P.852
5. *Phloeosinus perlatus* Chap. ひばのこしんくひ .....P.854



種類にして随つて其害も亦大なり。

(一六) ひめあかえぞこしんくひ *Polygraphus gracilis* Nis.

被害植物 あかえぞとどまつ。

特徴 成蟲 細長にして黒色、頭は光澤を帯び、雄の前頭には二個の小突起あり、觸角は黄色、球桿にして末端尖る、翅鞘は黒色、末端褐色、前胸よりも廣し、點刻ある縦溝列を具へ、間室には灰色の鱗毛を裝ひ、顆粒突起なし、前種に似れども形細長にして小なるを以て容易に區別し得べし、體長七厘乃至八厘餘。

經過 「あかえぞこしんくひ」に酷似すれども幹よりも枝を害するものゝ如し、多く形成層にありて靱皮層には稀なり。

此他此屬に係るものにして本邦に産するものは左の二種あり。

さくらのこしんくひ *Polygraphus siori* Nis. 褐色にして光澤あり、翅鞘に鱗毛を缺き、間室には不規則に三列をなせる小點あり、體長一分「しうり」さくらの樹皮下に寄生す。

もみのこしんくひ *Polygraphus oblongus* Blandf. は「とどまつこしんくひ」に酷似すれども、翅鞘は黒色にして前胸背の縦溝判明ならず、全面に小點刻を密布す、體長八厘「もみ」の樹皮下に寄生す。

(一七) はんのこしんくひ *Hylastes. alni* Nis. (第五十四圖版(一))  
被害植物 赤楊。



## 特徴

成蟲 黑色、光澤なし、頭には粗大の點刻あり、觸角は赤褐、球桿は圓錐形をなす、前胸は長さよりも廣く、前方にては粗大、中央にては微小の顆粒突起を具へ、又點刻及び短毛あり、翅鞘は前胸よりも廣く、縱溝の點刻は粗大、基部にては稍々微小、間室には顆粒と鱗毛あり、脚は黒色、跗節は赤褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、成蟲の有様にて樹幹に越年し、成蟲は九月現はる、年一回の發生なるが如し。

此屬に係るものにて本邦に産するものは左の二種なり。

まつのかほくろこしんくひ *Hylastes interstitialis* Chap. 體黑色にして長形、前胸背に大小二種の點刻を密布す、體長一分五厘「あかまつ」の切株に穿孔を造るものにして大害を加ふることなし。

まつのかほいろこしんくひ *Hylastes glabratus* Zett. 褐色にして形前種に似たれ共、前胸背にある點刻は一樣なり、其中央に滑なる縦線を有す、體長九厘内外、あかまつに寄生す。

(一八) とどちびこしんくひ *Cryphalus piceae* Ratz.

被害植物 とどまつ、えぞまつ、あかえぞ。

特徴 成蟲 黒褐、全面淡褐毛を生ず、觸角黄褐、前胸は球狀にして顆粒散在す、翅鞘は淡色、縱溝は判然せる點刻を具へ、間室には短き鱗毛ありて灰色の長毛は更に列をなして存す、脚は黄褐、體長六厘。

經過 成蟲の有様にて越年す、翌春樹幹に母孔を造り産卵す、母孔は星形若くは枝狀にして之より不正形の幼蟲孔を出す、普通枝を侵害すれども幹にも亦少なからず。

(一九) からまつちびこしんくひ *Cryphalus luteus* Nils. (第五十四圖版(2))

被害植物 落葉松。

特徴 成蟲 黑色、光澤なし、頭には點刻あり、灰色毛を帶ぶ、前頭には凹陥あり、前胸は長さより少しく廣く、剛毛を裝ひ、大小ある顆粒突起多し、翅鞘は黒褐、前胸よりも廣く、褐色の短き鱗毛あり、末端にある點刻ある縱溝は深くして判然す、間室に顆粒の一行を具へ、褐色の剛毛列を裝ふ、體長八厘。

經過 前種に酷似す、母孔は形成層にあり、幼蟲孔は皮下にあり。

(二〇) くはちびこしんくひ *Cryphalus exiguus* Blandf.

被害植物 桑。

特徴 成蟲 黑色、光澤を缺き灰色毛を裝ふ、頭の兩側に黑色を具へ、額の中央に横隆起あり、觸角は黄色、球桿は褐色、前胸は幅よりも短く、前方細し、微毛を密生す、前方の中央に二顆粒を具へ、其後方には小顆粒あり、脚は黄褐、跗節は淡色、翅鞘は前胸と同幅、縱溝の點刻は小、間室に小點刻を具へ、灰色の鱗狀毛あり、體長四厘餘。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、母孔は星形若くは不正形にして幼蟲孔も亦一定せず、韌皮部を食害するが爲め樹を枯死せしむ、本邦恐るべき害虫の一種にして、之に



罹りたる桑樹は年内に枯死するに至る。成蟲の有様にて越年し、翌春樹幹に蠶入す。余は五月十日を以て之を捕獲せり。是れ越年したるものにして、大抵九月頃に現はるゝものは越年するものゝ如し。

(二一) りんごちびこしんくひ *Cryphalus malus* Niis. (第五十四圖版③)

被害植物 苹果樹。

特徴 成蟲 黑色、光澤なし、頭は兩側に點刻を密布し、前頭の中央に一縦隆あり、前胸背は黑色、點刻を密布し、褐色毛を裝ふ、前縁に近く中央に六個の小突起ありて中央にあるもの最も大なり、尙顆粒突起多く後縁に近きものは稍々列をなす、翅鞘は前胸よりも廣く點刻ある縦溝を具へ、間室には褐色の鱗状毛を裝ひ、末端に褐毛あり、體長五厘乃至七厘。

經過 年一回の發生をなす、成蟲の有様にて樹幹内に越年す、北海道にありては四五月頃より現はれ産卵す、母孔は不正形にして一定せず、集合して産卵す、幼蟲孔も亦一定せず、北海道にありては恐るべき害虫にして、樹は之が爲めに枯死す。

(二二) すぎちびこしんくひ *Cryphalus cryptomeriae* Niis.

被害植物 杉。

特徴 成蟲 黑色、光澤あり、前頭の中央に一個の凹縦條ありて其兩側に點刻を密布す、褐毛を裝ふ、觸角は黄褐、前胸背の前縁に四個の小突起を具へ、中央には稍々三角形に排

列せる顆粒あり、後方には點刻を裝ひ、灰色毛あり、翅鞘は前胸背よりも約二倍長く、縱溝にある點刻は圓形にして深し、間室に微小の點刻を具へ、灰色の鱗毛あり、體長六厘乃至七厘。

經過 未だ判然せざるも、若き杉樹を害するものにして、森林大害虫の一なるべし、熊本地方に産す。

(二三) きいろちびこしんくひ *Cryphalus fulvus* Niis.

被害植物 松。

特徴 成蟲 暗黄色、灰色毛を裝ふ、雄にては前頭に一横隆あり、眼は黑色、前胸は長さよりも廣く、點刻多く、黄毛を裝ひ、鱗状毛あり、前縁より中央に至るまでに小顆粒あり、縦溝に點刻を具へ、間室は狭く、鱗毛及び細毛あり。

經過 松の害虫なれども、其經過は未だ判然せず、成蟲は八月中旬現はる、中國及び四國地方に稀ならず。

(二四) ひのきちびこしんくひ *Cryphalus chamaecyparicae* Niis.

被害植物 ひのき。

特徴 成蟲 黑色、光澤を帶ぶ、前頭に横溝あり、頭頂は隆起す、前胸背には顆粒突起多く、粗大の點刻あり、翅鞘は前胸の約二倍ありて、縦溝に粗大の點刻あり、間室には顆粒を裝ふ、後方に白色鱗状毛を裝ふ、脚は黄褐、體長四厘弱。



經過 未だ判然せざれども、ひのきの樹幹に蠶入して大害を加ふ、成蟲は八月中旬現はる。

(二五) やつばこしんくひ *Ips japonicus* Niis. (第五十四圖版(4))

被害植物 えぞまつ、あかえぞ、とどまつ。

特徴 成蟲 黒色、光澤を有し、頭及び前胸の前方に黄褐の長毛を密生す、前頭に一突起あり、前胸には點刻多く、前方に顆粒多く、明に幅よりも長し、後方には毛を帯びず、翅鞘は前胸よりも少しく長く、稍々褐色を帯ぶ、後端は深く卵形に刻られ、其兩側に四個の齒状突起を具へ、黄褐毛を裝ふ、縱溝には判然せる點刻を具へ、間室は少しく隆起し、微小の點刻あれども判然せず、脚黄褐、脛節黒褐、體長一分五厘。

經過 年一回の發生、成蟲の有様にて越年す、四五月頃現はれ、樹幹に産卵す、母孔は八分乃至四寸幅六厘乃至八厘あり、幼蟲孔は長くも二寸内外にして、母孔に直角をなして出づ、普通形成層にあり、九月頃に至りて蛹化す、成蟲は九十月現はれ、其儘樹幹に蠶入して越年す。

(二六) まつかはこしんくひ *Ips proximus* Eichh.

被害植物 松、えぞまつ。

特徴 成蟲 光澤ある黒褐若くは黒色、前頭縁に橙黄色の短毛あり、頭には點刻粗布す、觸角の球桿は黄褐、前胸は幅よりも長く、前方には粗大、後方には微細の點刻あり、兩側に黄褐の長毛を裝ふ、翅鞘は前胸よりも遙かに長く、縱溝に點刻を具へ、間室は隆起し、之

に微小の點刻を粗布す、翅鞘は卵形に刻られ、其縁に三四個の齒状突起あり、脚は黒褐、跗節は黄褐なり、體長一分内外。

經過 未だ判然せざるも、年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有様にて越年す、翌春四月より現はれ、樹幹に蠶入して産卵す、第二回の成蟲は八月現はる、伊豫地方にありて松を害すること大なりと云ふ。

(二七) からまつこしんくひ *Ips laricus* F.

被害植物 落葉松、えぞまつ、松。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、翅鞘末端の第二及び第三齒間は前種のそれよりも廣く、脚は黄褐なり、體長一分乃至一分三厘。

經過 成蟲の有様にて越年し、翌春四五月頃現はれ、樹幹に蠶入して産卵す、母孔は星形、枝状若くは多枝形にして一定せず、卵子は集合して産下せらる、幼蟲孔は一定せず、年二回の發生をなす。

尙此屬に係るものにして本邦に産するもの左の三種あり。

まつのおほしんくひ *Ips cembrae* H. var. 黒色にして翅鞘の間室には上面に於て一列の小點刻を存し、斜面部には四個の齒状突起あり、此蟲は「あかまつ」に寄生す、體長一分七厘。

まつのもつばこしんくひ *Ips acuminatus* Gyll. 赤褐色にして翅鞘の間室に縱列せる點刻を有す、斜面部には各三個の齒状突起あり、其内最下にあるもの最大なり、體長一分餘、あかま



つに寄生す。

まかりほこしんくひ *Ips curvidens* Germ. 赤褐色にして翅鞘の斜面部は黄色を呈し光澤あり、其兩側に各三齒を備へ、上部にあるものは最小にして上方に向ひ、中央にあるものは下方に屈曲し最大なり、體長九厘、とどまつに寄生す。

(二八) くすまるこしんくひ *Xyleborus mutilatus* Blandf. (第五十四圖版(5))

被害植物 樟。

特徴 成蟲 黑色、觸角及び脚は黄褐、褐毛を装ふ、頭には淺き點刻あり、前胸は翅鞘よりも長大にして前縁に顆粒多く、後方には點刻あり、翅鞘には縦溝ありて其間室廣く數多の點刻列あり、後方は斜に切斷せられたる觀を呈し、褐毛多し、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、九州及び沖繩地方にありては樟の樹幹に蠹入して大害を加ふ。

(二九) りんごまるこしんくひ *Xyleborus apicalis* Blandf. (第五十四圖版(6))

被害植物 萃樹、葡萄、赤楊、楡。

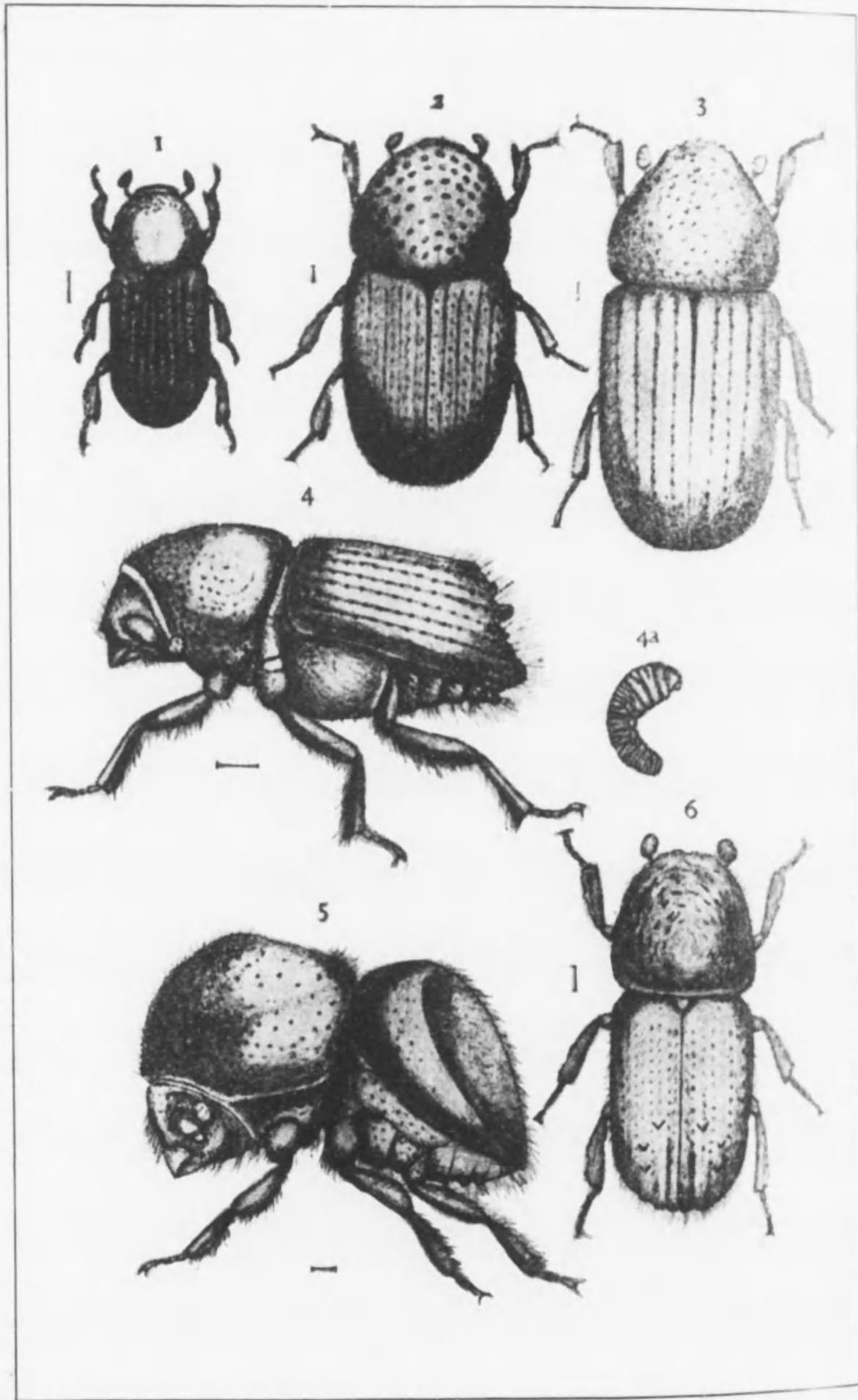
特徴 成蟲 光澤ある黑色、頭の中央に一縦隆起あり、其兩側に點刻を粗布す、前胸背の前方には顆粒突起多く、後方には微小の點刻あれども判然せず、翅鞘には明瞭なる點刻ある縦溝を備へ、間室に小點刻あり、末端は斜に截斷狀に終り、第二間室の終る處に一突起あり、體長八厘乃至一分。

經過 年一回發生す、成蟲は五月下旬より七月に亘りて現はれ、樹枝及び樹幹に蠹入し八

圖四第正第

188.1.....  
188.2.....  
188.3.....  
188.4.....  
188.5.....  
188.6.....  
188.7.....  
188.8.....  
188.9.....  
188.10.....





第五拾四圖

- 1. *Hylastes alui* Nis. はんのかしんくひ .....P.857
- 2. *Cryphalus laricis* Nis. からまつちびこしんくひ .....P.859
- 3. *Cryphalus malus* Nis. りんごちびこしんくひ .....P.860
- 4. *Ips japonicus* Nis. やつばこしんくひ .....P.862
- 5. *Xyleborus mutilatus* Bl ndf. くすまるこしんくひ .....P.864
- 6. *Xyleborus apicalis* Blandf. りんごまるこしんくひ .....P.864



月下旬に至りて産卵す、之より孵化する幼蟲は九十月に至りて殆んど老熟し其儘越年するものと、又既に蛹化して越年するものとあり、卵子は白色半透明にして、楕圓形をなし、普通四五個相集合せり、母孔は星形若くは不正形なり、幼蟲孔も亦一定せず、成蟲の蠶入する場所は普通樹枝にして皮下養分の上昇する部分を輪食し、又髓部に入りて上下に横行するを以て爲めに其局部は枯死す、枯木若くは衰弱せる樹に多しと雖も亦旺盛なる樹を食害することあり、本邦に於ける恐るべき害蟲の一なり。

[附言] 拙著害蟲編に *X. defensus* Blandf. となせるは誤なり。

(三〇) くはまるこしんくひ *Xyleborus atratus* Eichh. (第五十五圖版(1))

被害植物 桑、榆、赤楊。

特徴 成蟲 黒褐、頭は黒色、灰色毛あり、前胸背の前方は少しく淡色、小顆粒を散在す、後方には點刻を具へ、中央には判然せざる一縦滑線あり、翅鞘は判然たる點刻ある縦溝を裝ひ、第一溝の點刻は第二の其れよりは小なり、間室は廣く小點刻を具へ、灰色毛あり、前種に酷似すれども翅鞘末端に突起なく、色は少しく褐色を帯び、前胸背にある顆粒は小なり、體長八厘乃至一分。

經過 前種に酷似す、廣く本邦に播布する種類にして桑樹を枯死せしむること少なからず。

(三一) はんのまるこしんくひ *Xyleborus germanus* Blandf.



被害植物 桑赤楊。

特徴 成蟲 體は黒色、翅鞘は赤褐、光澤あり、前胸背の前半には顆粒多し、後半は滑澤にして後縁に少しく點刻あり、翅鞘は前胸と同幅なれども少しく長し、點刻ある縱溝を具へ、間室は廣く小點刻あり、尾端は次第に傾斜し、其傾斜面にある點刻は大なり、脚は黄褐、體長六七厘。

經過 未だ判然せざるも穿孔は材部に造られ、少しく厚き共同孔をなす、同處に二個或は三個が細孔によりて連續せられて存することあり、丹波地方に於て桑樹の幹枝に蠶入して大害を加ふ、本邦普通の害虫なり。

(三三) まつまるこしんくひ *Xyleborus validus* Eichh.

被害植物 松椴。

特徴 成蟲 體は黒色、光澤を帯び、黄毛を裝ふ、頭は點刻を密布し、前頭に短き一縱隆あり、前胸背の前方に顆粒突起多し、後半は滑澤、翅鞘の縱溝は淺き點刻を裝ひ、間室には顆粒あり、傾斜面にある縱溝は深く、間室の顆粒は大なり、翅鞘に黄色の長毛を裝ふを以て他と容易に區別することを得べし、脚及び觸角は黄色、體長一分三厘。

經過 年一回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、四五月頃より現はれ、樹幹に蠶入す、其蝕道は徑約六厘ありて初めは樹幹に直角に蠶入し、三四の枝道を造りて食害す、九月頃出づるものは樹幹に入りて越年す、廣く本邦に播布する種類にして、沖繩地方にも

産す。

此他尙此科に屬する害虫の種類を擧ぐれば左の如し

ほしがたこしんくひ *Phyogenus elaticographus* L. 黒褐色にして光澤あり、雄は頭の前縁に瘤狀の一小隆起を備へ、雌にありては圓き凹陷を存す、翅鞘の斜面部の兩側に各三個の小隆起を有すれども雌にありては著しく小なり、體長六七厘、えぞまつニは「いまつニたうひニもみニ」からまつニ等に寄生す。

たうひねこしんくひ *Dryocoetes autographus* Kutz. 暗褐色にして前胸背は前後狭く、全面に鱗狀の隆起あり、翅鞘に粗大の點刻を有す、體一分乃至一分五厘、たうひニえぞまつニの根株に寄生す。

れぬすまるこしんくひ *Xyleborus lewisi* Bland. 雌雄大に其形狀を異にし、黒色にして長毛多し、前胸背に鱗狀の小突起を密布す、雌は體長一分五厘、雄は楕圓形にして體長六厘、さくらニの樹幹に穿孔して之を枯死せしむ。

かつらまるこしんくひ *Xyleborus saxosus* Kutz. 黒色にして細長く七厘ばかりあり、かつらニ「かしニぶなニかばニいたやニしなニやまニならしニ」等の諸木に寄生す。

はんのおほまるこしんくひ *Xyleborus alni* Nils. 前種に似たれども形少しく大にして(八厘)赤楊を害す。

さいほくまるこしんくひ *Xyleborus septentrionalis* Nils. 黒褐の種類にして體長一分あり、あ



かえぞ「松等を害す。

かしはこしんくひ *Xyloterus quercus* Fiehl. var. *niponicus* Blandf. 黄褐にして黒縦條あり、體長一分乃至一分三厘榿榆を害す。

いたやこしんくひ *Xyloterus aceris* Nils. 黒色にして光澤あり、翅鞘眞黒にして末端に近く黄褐色の細毛を生ず、間室にある點刻と點刻線にある點刻と同大なれども前者は淺し、體長一分「いたや」の材部に穿孔す。

みかどこしんくひ *Scolytoplatypus mikado* Blandf. 黒褐にして翅鞘に深き縦隆を有す、脚黄色、體長一分二厘乃至一分六厘榿黄蘗等を害す。

だいめうこしんくひ *Scolytoplatypus daimio* Blandf. 前種よりも少しく小にして黒色なり、榿「みづき」等を害す。

しようぐんこしんくひ *Scolytoplatypus shogun* Blandf. 暗褐なる種類にして體長一分二厘あり「いたや」「こぶし」等で「こぶし」等を害す。

やちたもながこしんくひ *Crossotarsus niponicus* Blandf. 赤褐にして二分内外「やちたも」を害す。

しなのながこしんくひ *Platypus severini* Blandf. 前種よりも少しく小なり、赤褐黄毛あり、「しな」「榿赤楊」等を食害す。

### 長蠹蟲科 *Pastrychidae*.

(五節亞目に編入せらるべきものなるも便宜上此處に入る)

#### (一) つがながしんくひ *Dinoderus tsugae* Mats. (第五十五圖版(2))

被害植物 つがもみひのきすぎ。

特徴 成蟲 黒褐乃至黒色、觸角は黄褐、末端の三節は甚だしく膨大す、上唇は黄褐にして其の中央は凹陷す、前胸背の前方には粗大の顆粒多く、後半には小顆粒を密布し、兩側には點刻あり、翅鞘は赤褐、粗大の點刻を密布し、縦溝を有せず、尾端は圓く、基部は明に後方よりも狭し、黄褐の短毛を裝ふ脚は黒褐、脛節及び跗節は赤褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せざれども「つが」の材料に蠹入して大害を加ふと云ふ、成蟲は六月上旬現はる、和歌山地方に多し、小蠹蟲科の昆蟲に酷似すれども、觸角の末端三節は棍棒狀を呈し、翅鞘は縦溝を缺けるを以て容易に之を區別することを得べし。

#### (二) たけのながしんくひ *Dinoderus japonicus* Lesne. (第六十二圖版(1))

被害植物 竹。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども其重要なる差異は左の如し。

一、形短く、翅鞘の前半は後半より狭細ならず。

二、觸角及び上唇は暗褐、但し前者は其基部に於て少しく黄褐を帶ぶ。

三、翅鞘は黒褐、點刻は遙に大にして深し、末端に裝へる粗毛は少しく短く、稍々淡色な



り翅鞘明に短し、體長一分一厘。

經過 未だ判然せざれども竹稈の内部に孔を穿ちて大害を加ふることあり、前種に酷似せるを以て兩者を混するの記事多く、未だ共に加害の狀判然せず、「もみ」「すぎ」「ひのき」をも害するものとせらるれども甚だ疑はし、又鉛管をも穿つといふ。

(三) ふたつのながしんくひ *Sinoxylon japonicum* Lesne. (第六十二圖版(11))

被害植物 柿、櫻。

特徴 成蟲 體は黒褐にして翅鞘は赤褐、觸角は黄褐を呈す、前胸背の前半には後方に向へる齒狀突起を散在し、其内前線にある二三は鈎狀に曲り、後半は小顆粒多く、兩側に灰白の軟毛を裝ふ、翅鞘には顆粒及び粗大の點刻多く、或ものは相適合す、斜面部に各一個の栓狀突起あり、全面に黄白の軟毛多し、脚は栗色、爪は黄褐、體長一分七厘内外。

經過 不明、四國九州に普通なる種類にして常態、かし、并に柿の材部に穿入して大害を加ふることあり。

(四) こながしんくひ *Rhyzopertha dominica* F. (第六十二圖版(13))

被害物 麥粉、洋菓子。

特徴 成蟲 體の上面は暗褐、下面は赤褐、觸角は黄褐、基部の二節は暗褐、後頭は頗る光澤を帯び、滑澤なり、前胸背渦狀をなして顆粒突起列を備へ、後方には小顆粒を散在す、翅鞘は粗大の點刻ある縱溝を備へ、間空は平滑、縦に稍々隆起せる部分あり、後方には灰

黄色の短毛を粗生し、斜面部に異狀なし、脚は暗褐、跗節は黄褐なり、體長一分内外。

經過 未だ判然せざれども、臺灣には普通なる害虫にして、大小麥粉其他「ビスケット」等を食し、殊に後者の如きは小孔を穿たれ、大害を被ること少なからず、世界共有の害虫にて、特に印度支那地方に最も多く、米國にも少なからず。

小蠹蟲科及び長蠹蟲科一般の驅除法

一、成蟲の發生期を見計ひ、樹幹に石油乳劑の十倍液を灌注すべし、死せざるも他に飛び去るべし。

二、二度内部に蠹入せば驅除の道なし、然れども小孔を穿てるを以て其孔より灌注器を以て石油酢の如きものを注入すべし。

三、此害虫は水氣を忌むものなれば、可成樹木の成長を旺盛ならしむべし、瘠地に生ずるもの若くは老木は被害の虞あるを以て注意すべし、雌蟲の樹幹に蠹入するに當り汁液を多量に滲出するときは其木を去て他に行くものゝ如し、故に小刀を以て樹皮を搔くときは大に液汁の滲出を促し、其蠹入を防ぐのみならず、既に内部に入れるものも之が爲めに死すべし、要するに肥料を施し、樹木の成長を盛ならしむるは最も有効なる豫防法なり。

四、被害木は切りて燒棄すべく、若くは成蟲の出でざる前燃料に供すべし。

五、伐木地に集來するの性あるを以て注意して捕ふべし、伐採後株木を掘り取ることを



は必要なれども甚だ困難なり、故に少なくとも皮を剥ぐべし、火災を受けたる場合は可成早く伐採すべし。

六、果樹其他材木の何れを問はず、枯枝を生ずるときは伐りて焼棄すべし。

七、郭公蟲は小蠹蟲を食するものなれば頗る有益なり、第五十五圖版(4)は郭公蟲科に屬する「ありもどきかつかう」*Clerus formicarius* L. と稱するものにして、體は赤色、頭觸角前胸の前縁翅鞘及び脚は黒色、翅鞘の翅底は赤色、其後方に波狀をなせる白毛塊の横紋あり、體長二分五厘乃至三分、幼蟲は白色、頭及び第一節は淡褐、第二及び第三節には各二個の淡褐紋あり、蛹は白色、樹皮下若くは樹幹の空隙にあり、尙其他小蠹蟲科の昆蟲を食するものには「おほこくぬすと」ありて其形大なれば其之を食ふも亦大なり、此の學名を *Tennochila japonica* Reitt. と稱し黒色にして光澤を帯び、頭長く、前方に一個の縦溝あり、翅鞘に九條の判然せる點刻列ありて、其間室に小刻の一行あり、跗節は褐色、爪は赤褐、體長四分五厘乃至五分、「べにひらたむし」*Cupes cocepinatus* Lew. も亦樹皮下にありて小蠹蟲其他小蠹蟲の幼蟲を食す、體は黒色扁平、翅鞘は朱色、體長三分五厘乃至四分五厘、幼蟲は黄色にして頭及び第一節は淡褐を帯び、體は頗る扁平なり。

豆象科 Mylaridae (Bruchidae)

(1) まめぞう *Mylaris* (*Bruchus*) *chinensis* L. (第五十五圖版(4))

被害植物 大小豆、豌豆貯藏品。

特徴 成蟲 體は赤褐、灰色の短毛多し、頭は小にして常に下方に向ひ、大なる複眼を有す、觸角は長くして櫛齒狀、口吻は突出するも象鼻蟲の如く甚だしからず、前胸は前方狭まりて下向し、後方は廣くして其中央隆起す、稜狀部の直上に灰色の二毛塊あり、翅鞘は稍々四角形にして赤褐の縦條を裝ふ、跗節は一見四節なれども其實五節なり、體長約七厘。

幼蟲 全體乳白にして肥大し、横皺多く無脚なり、頭は小、黄色にして鱗片の如き銳利の大腮を具へ、體の兩側に判然せる九双の氣門を有す、體長一分二三厘。

經過 年一回の發生をなす、處によりて幼蟲の有様にて豆の中に越冬し、翌春蛹化し次で羽化すれども、或は成蟲或は蛹にて越冬することもありて一定せず、甲蟲は野外に出で豆圃に至りて茲に交尾し、夜間若くは曇天に産卵す、産卵の場所は莢の膨大したる部即ち豆粒の上に當る所にして一粒宛に過ぎず、豆の收穫後は倉庫内にありて食害す。

驅除豫防法 二硫化炭素を小皿に盛り空を密閉して其儘數時間放置すべし、豆中の害蟲を殺滅するの効あり、夏日曇天の時豆圃に産卵せんとする成蟲を捕殺すべし、倉庫内を搜索して成蟲及び幼蟲を殺すべし、又倉庫の窓には金網を張りて害蟲の飛去を防



ぐべく、其根本的の驅除を計るには青酸加里の瓦斯を燻蒸するにあり。  
 (II) おほまめぞう *Mylabris dorsalis* F. (第五十五圖版(5))  
 被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰色の短毛を密生す、前種に似たれども遙かに大なり、觸角は黒色、基部の四節は赤褐色、前胸背後縁の中央及び稜狀部には灰色の旋毛を裝ふ、翅鞘に暗色を帯びたるものと灰褐色を帯びたるものとの二種あり、何れも縦溝を有し、其間室に細毛を裝ふ、細毛は點々白毛を混するを以て恰も白斑を散在するの觀あり、殊に褐色なるものに於て然りとす、尾節には灰藍色の毛塊を有するを以て恰も斑紋の如くに見ゆ、體長一分二厘。

經過 略前種に似たり。  
 驅除法 同前。

#### 長角象鼻蟲科 Anthribidae

(I) ひめひげながざうむし *Tropideres nodulosus* Sharp. (第五十五圖版(6))

被害植物 桑、苹樹、榆、老木。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰白毛を裝ふ、頭は小、複眼は黒色にして大なり、口吻は扁大

にして頭に直角をなして下向し、觸は白色、前胸の前方は細まり、灰白の斑紋を裝ふ、翅鞘に黒色の點刻縦列を具へ、工字形の灰白斑紋を裝ふ、其上方の一横線は太く之れに二個の黒點あり、體長一分七厘。

經過 未だ判然せざるも、札幌地方にありては最も普通なり、但し老木にあるを以て其害大ならず、成蟲は材質部に蠶入して産卵するものゝ如し。

驅除法 時々巡視して成蟲を捕殺すべし、外物に驚く時は脚を縮小して落下するが故に樹下に密若くは白布を敷き其上に落すをよしとす。

(II) こひーひげながざうむし *Araccerus fasciculatus* Degg.

被害物 珈琲(豆)・枇。

特徴 成蟲 體は黄褐にして灰色の短毛を密生す、微小の點刻を密布すれども判明ならず、翅鞘には黒褐紋を散在し、點刻ある縦溝を有すれども判然せず、尾節露出し、體下は暗褐脚及び尾端は黄褐にして腿節の中央は少しく暗色を帯ぶ、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲 黄白色にして頭は少しく濃色、大腮は暗褐、體側には瘤狀の突起及び横皺多し、完熟すれば一分七厘餘に達す。

經過 未だ判然せざれども成蟲幼蟲共に珈琲豆に蕃殖して大害を加ふ、又枇を食害することあり、珈琲豆を害する場合には恰も豆象と同様なる状態を呈す、支那にありては



最も普通なる害虫なれども、目下本邦にも少なからず。

**驅除法** 被害物を堅牢なる箱に入れ、箱の大きさにより分量は異なれども、箱の大きさ若し三尺四方内外なるときは、青酸加里の數片(大片)を綿に包みて其中に入れて一晝夜間放置すべし、但し青酸加里は種子の抵抗力を失ふものなれば種子用に供する場合は二硫化炭素を用ふべし。

### 象鼻蟲科 Curculionidae

#### (1) こくざう *Calandra oryzae* L. (第五十五圖版(7))

**被害物** 穀類(貯藏品)。

**特徴** 成蟲 若きものは赤褐、老いたるものは黒褐、頭は小、口吻は細長、前胸背には顆粒多し、翅鞘は前胸と同幅、點刻の縱溝列を具へ、脚は短大、細毛を有す、腿節は太し、體長一分一厘乃至一分四厘。

幼蟲 體は灰白、頭は黄褐、圓柱形にして常に弓狀に彎曲し、横皺多し、觸角短、單眼及び脚を缺如す、體長一分五厘。

**經過** 年二回發生し、成蟲の儘越冬す、翌春穀粒の發芽點に白色の卵子を一個宛産下す、卵は十日乃至十二日にて孵化し、内部に蠶入して食害す、穀蛾の幼蟲の如く粒より粒に移轉することなく、大概は一粒にて成長し、終り其内に蛹化す、蛹は裸蛹にして、脚口吻

及び翅鞘割然せり。

**驅除豫防法** 穀物を貯藏する前にはなるべく乾燥し、少量の胡椒を混じ置くべし、又食鹽を混するも可なれども、後者は水分を呼ぶを以て劣れり、尙菴草及び胡桃の葉を入れ置くも有効なり、倉庫の中央に二三斗の穀物を圓錐形に積み、其周圍のものを掻き擴げ置くときは、害虫は其中央にのみ集まるを以て、之に熱湯若くは二硫化炭素を注ぎ殺すべし、倉庫は可成寒冷に保ち置くべし、華氏の四十五六度位の溫度にありては食害することなし、此目的を以て歐米にては種々の通風器を製造し、堆積せる穀物中に冷氣を通することあり、硫黄を燻蒸するも効あり。

#### (2) ひめざうむし *Baris deplanata* Roel. (第五十五圖版(8))

**被害植物** 桑。

**特徴** 成蟲 長楕圓形にして色黒く、少しく光澤を帯び、觸角、腿節並に跗節は赤褐なり、觸角は口吻の中央より少しく前方に位し、刺毛と黄色の微毛とあり、口吻は弓狀に彎曲す、翅鞘には縱溝列ありて其内に更に點刻を具へ、列間には大なる點刻列あり、腿節には凹陥せる部分ありて、腿節端には一爪を裝ひ、體下には點刻を密布す、體長一分三厘。

幼蟲 黄白色にして淡褐の頭部を有し、硬皮板は黄色、體は圓錐形にして少しく弓狀に曲り、横皺多く黄色の光澤ある短毛を粗生す、體長一分五六厘。

**經過** 年一回の發生をなし、成蟲若くは蛹の有様にて樹枝内に越冬す、翌春圓形の孔を穿



ちて外部に出で、桑の新芽を食し、又其内に蠶入して大害を加ふ、交尾後口吻を以て樹枝に孔を穿ち、其内に長楕圓形の白色卵子を産下す、幼蟲孵化すれば材質部に入りて食害す、晩夏に至り蛹化し其儘越年するものと、羽化して後越年するものとあるは前述の如し。

**驅除法** 新芽に集まりて蠶入せんとするものを受網に打ち落し殺すべし、成蟲の蠶入する前に砥石劑を灌注すべし、石油乳劑も亦効あり、象鼻蟲を殺し得ざるも其臭氣の爲めに之を驅除し得べし。

此屬に係るものにして臺灣にほうじろかむちやざうむし *Paris sacharivora* Mats. と稱するものあり、體は黒色にして黄色の鱗毛を裝へども、口吻、前胸背の中央及び翅鞘の基部に之を缺く、前胸背の中央には顆粒狀の點刻多く、其兩側には黄色鱗を密布す、翅鞘は長楕圓形にして細き縱溝を有し、中央にある鱗毛は判明にして八字形を呈す、翅端は截斷狀に終り腹端を露出す、體長二分、臺灣にては甘蔗の根を食害す。

(三) だいこんざうむし *Rhinoncus bruchoides* Herbst.

**被害植物** 蘿蔔、蕪菁。

**特徴** 成蟲 光澤ある黒色なれども、全體灰白の鱗毛にて被はるゝを以て一見暗灰色を呈す、口吻の末端及び脚は赤褐、觸角は黒褐、脚には白鱗多し、前胸背の上方には三個の凹陥を有し、後縁に近き兩側には疣狀突起あり、翅鞘には縱溝多く、其間に黄色及び白

色の鱗毛列あり、稜狀部は凹陥す、體長七厘内外。

**經過** 不明なれども、五月上旬より田圃に現はれ、殆んど何れの植物をも食害するもの、如し。

**驅除法** 打落法によりて殺すべし、又拘網を以て捕殺し得べし。

(四) あさのざうむし *Rhinoncus pericarpus* L. (第五十五圖版(9))

**被害植物** 大麻。

**特徴** 成蟲 體は卵形にして肥大し、地色は黒色、體下部は白色の鱗毛を密布す、口吻は割合に長く、彎曲して殆んど胸片に接す、頭は小、前胸には點刻多く、前方に横溝、兩側に棘狀突起を有す、翅鞘は粗糙にして前胸より廣く、點刻を有する縱溝を連ぬ、稜狀部は凹陥し、其下方に一白紋あり、脚及び觸角は赤褐、灰白の短毛を密生す、體長一分餘。

**經過** 未だ判然せず、早春より大麻及び甘菜の葉を食害す、其害甚だ大ならず。

(五) さるざうむし *Centorhynchus asper* Roel. (第五十五圖版(10))

**被害植物** 藍。

**特徴** 成蟲 體は黒色、口吻は長く、中央に黒褐の觸角ありて基部端に刺あり、前胸背に粗糙の點刻多く、兩端に各一個の突起あり、翅鞘は前胸より遙かに廣く、翅端に至り細小す、鞘上には澤き縱溝を并列し、更に其内に點刻を列す、稜狀部は甚だしく凹陥し、其胸部に白鱗多し、體下に黄白の鱗毛多く、脚に白色の短毛あり、體長一分五厘。



經過 移植後藍烟に集まり二十乃至三十顆の白色卵子を藍莖に藏す、幼蟲は黄色にして

藍莖の一節に二三頭乃至五六頭あり、二週間内外にて老熟し、次で褐色なる繭様の被  
内に蛹化する、成蟲は甚だ活潑にして藍葉に無數の小孔を穿ち網狀脈を残留す、其害の  
猖獗なるときは一兩日にして藍烟の全面を枯死せしむることあり。

〔附言〕拙著日本害虫編に學名を *coelosternus sulcatostriatus* Foel. とせるは誤なり、爰に訂正す。

(六) まだらあしざうむし *Ectatorhinus adamsi* Roel. (第五十五圖版(11))

被害植物 漆樹。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭は灰黄褐、複眼は黑色、口吻は基部を除き光澤ある黑色、觸角の第

二節以下は灰色、前胸背に陷刻多く、中央に漆黒の一隆條を疑走す、翅鞘は頗る粗糲に  
して凹凸に富み、數個の棘狀突起を具ふ、其中肩部のものは最も大にして灰黄褐なり、  
各腿節の末端は膨大し、白輪を具へ、跗節に灰黄毛を裝ふ、體長三分五厘乃至五分五厘  
(口吻を除く)。

經過 未だ判然せざるも、早春漆樹に集まりて新芽を食ひ、大害を加ふることあり、幼蟲は

材質部を食するものならん。

(七) いちござうむし *Minyrus japonicus* Roel. (第五十五圖版(12))

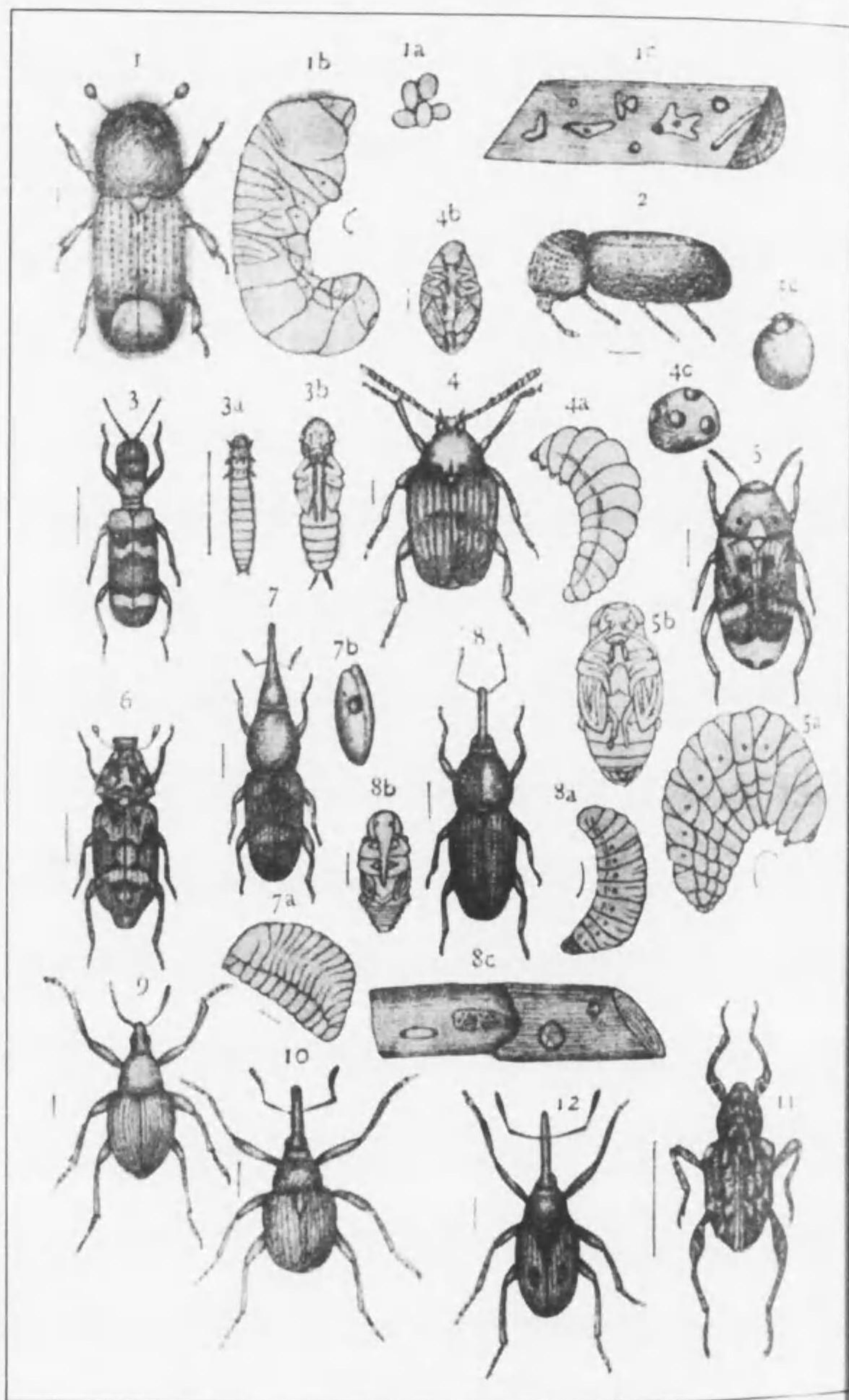
被害植物 西洋莓。

特徴 成蟲 體は赤褐、多少光澤を有す、灰白の短毛多し、觸角は十二節にして前胸より長

藥正正圖

1787	<i>Minyrus japonicus</i> Roel.	西洋莓の害虫
1788	<i>Ectatorhinus adamsi</i> Roel.	漆樹の害虫
1789	<i>Ectatorhinus sulcatostriatus</i> Foel.	漆樹の害虫
1790	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1791	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1792	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1793	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1794	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1795	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1796	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1797	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1798	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1799	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1800	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1801	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1802	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1803	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1804	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1805	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1806	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1807	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1808	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1809	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫
1810	<i>Ectatorhinus japonicus</i> Roel.	漆樹の害虫





第五拾五圖

1. *Xyleborus atratus* Eich. くはまるこしんくひ .....P.865  
a. 卵 b. 幼蟲 c. 被害ノ有様
2. *Dinoderus tsugae* Mats. つがながしんくひ .....P.869
3. *Clerus formicarius* L. ありもどきかつかう .....P.872  
a. 幼蟲 b. 蛹
4. *Mylabris (Bruchus) chinensis* L. まめざう .....P.873  
c. 幼蟲 b. 蛹 c. 被害ノ有様
5. *Mylabris dorsalis* F. おほまめざう .....P.874  
a. 幼蟲 b. 蛹 c. 被害ノ有様
6. *Tropideres nodulosus* Sharp. ひめひげながざうむし .....P.874
7. *Calandra oryzae* L. こくざう .....P.876  
a. 幼蟲 b. 被害ノ有様
8. *Baris deplanata* Röel. ひめざうむし .....P.877  
a. 幼蟲 b. 蛹 c. 卵
9. *Rhinoncus pericarpus* L. あさのざうむし .....P.879
10. *Ceutorrhynchus asper* Roel. きるざうむし .....P.879
11. *Ectatorrhinus adamsi* Roel. まだらあしざうむし .....P.880
12. *Minyrus japonicus* Roel. いちござうむし .....P.880



し、口吻は弓状をなして少しく下方に向ひ、大腿は發達す、頭及び前胸は黒褐、灰白毛多く又點刻を密布す、翅鞘は前胸より遙かに廣く縱溝列ありて其内に點刻を列ね、灰白毛多し、翅底の大部及び接合部は黒褐、脚は赤褐、前腿節には三個の棘狀突起あり、體長一分。

經過 未だ判然せざれども、早春より現はれ、西洋莓の葉を食害す、幼蟲は「ひらたあぶ」の幼蟲に酷似し、葉花稚果を食害す。

驅除法 受網を以て捕殺すべし。

(八) くりしぎざうむし *Balaninus dentipes* Roel. (第五十六圖版(1))

被害植物 栗、櫟。

特徴 成蟲 體は暗黄色、翅鞘は殆んど圓柱狀をなし、黒褐の斑紋を散在す、其縱溝は黒色なり、前胸背に不明なる三黄線あり、全部黄色の細毛にて被はる、口吻は赤褐にして頗る長し、各腿節の末端は膨大し、之に一個の棘狀突起あり、體長二分乃至三分、口吻二分、幼蟲 全體黄白にして小形なる褐色の頭を有し、體には横皺多く、短毛多し、體長四分。

經過 成蟲は六七月頃現はれ、長き口吻を以て稚果に孔を穿ち、口吻にて一顆宛卵子を深く其内に納む、果實の成長後は其孔口は閉塞せられて單に黒點を留むるに過ぎず、蟲害に罹りたる栗果は熟すること早きを以て、地上に落つるや老熟せるものは孔を穿ちて果外に出で深く地中に入りて越冬す、翌春蛹化し次で羽化す、其未だ老熟せざる



ものが果内に残り坊間に販賣するものゝ内に存在することあるは人のよく知る所なり。

**驅除法** 被害の爲め落下せるものは焼棄すべし、小木にして貴重なる種類には三四十倍の石油乳劑に煙草浸汁劑二合を加へ、園藝用唧筒にて成蟲發生の時期を見計ひ灌注すべし、成蟲死せざるも之が爲めに驅除せらるべし。

(九)なしのちよつきりざうむし *Rhyrchites horos* Roel. (第五十六圖版(2))

**被害植物** 梨 苹果 枇杷。

**特徴** 成蟲 體は光澤ある赤紫色、口吻は長く大腮は鋭し、前胸は略々圓筒形、點刻及び細毛多し、翅鞘は稍々正方形にして點刻の縦列を具へ、點刻の多くは金色なり、暗褐の短毛を簇生す、體長三分、幅一分五厘。

**幼蟲** 體は圓柱形にして兩端細く、白色半透明なるを以て胃中の内容をも透見し得べし、頭は少しく黄色を帯び、口部は赤褐なり、體節は太く何れも腫起し、背面には横皺、側面には縦皺多し、各節の後半には短小の粗毛ありて横列す、體長四分。

**經過** 成蟲は六七月頃現はれ、長吻を以て果實に孔を穿ち、後尾端を其孔に當て一個の卵子を産下し、後一種の膠質液を以て孔を閉塞す、雌蟲の既に産卵し終りたる頃、雄來りて其枝の半周を咬み切るを以て、時の經過と共に其局部折れて垂下し、幼蟲の蛹化せる頃地上に落下するに至る、幼蟲は斯くて果外に出で、土中に入り土塊を纏めて球形

の繭を帯み、其内に越冬す、翌春蛹化し、五六月頃羽化すること前述の如し。

**驅除法** 五六月頃樹上にある成蟲を打落法によりて捕殺すべし、晚秋樹下に土二三寸位まで攪拌して越冬せる幼蟲を殺すべし、六七月頃石油乳劑(三四十倍位のもの)を注射すべし、其臭氣は産卵を防ぎ得る効あり、苹果樹の如き止むなくんば袋掛を行ふべし。

(一〇)いたやまきざうむし *Rhyrchites betuleti* F. var. *moischaleskyi* Lew. (第五十六圖版(3))

**被害植物** 槭 白楊 樺 葡萄 苹果 樹。

**特徴** 成蟲 體は綠色若くは赤銅色、但し後者は光線の工合にて綠色を帯ぶ、脚及び體下は黒藍色、觸角は黒色にして少しく藍色を帯ぶ、複眼間に長楕圓形の凹陥あり、後頭は黒紫色にして横皺多く、前胸背の前方は縊れ、中央に一縦溝ありて綠色を帯ぶ、雌には兩側に各々一齒ありて前方に突出す、兩側に點刻を密布す、稜狀部は黒紫色、翅鞘は稍々四角形稜狀部の下方に當り各一個の凹陥あり、點刻を密布し、縦溝あれども餘り判然せず、體長二分乃至二分五厘、口吻九厘。

**經過** 年二回發生、第一回は五六月、第二回は八九月、成蟲は葉の一端を切り之れを管狀に縦に巻き其内に一個の卵子を産下す、幼蟲は苹果樹の葉を食とし成長す、往々全葉をして褐色の卷葉となさしむることあり、卵子より成蟲となるには約二ヶ月を要す、早春にありては新芽に口吻を貫き液汁を吸收す、幼蟲の有様にて地中に越冬し、翌春蛹化し、次で成蟲となるものゝ如し、本邦にありては普通白楊に多し、歐洲にありては葡萄



を害すること大なりと云ふ。

(一一) ぶだうめざうむし *Eucyrtus lucunipennis* Jekel. (第五十六圖版(4))

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體は光澤ある褐銅色、光線の工合にて少しく紫色を帯ぶ、頭は前胸背より少しく長く、口吻端は少しく太し、前胸背の中央に一縦溝あり、點刻及び縮刻多し、翅鞘は稍々正方形、粗大の點刻ありて縦列をなす、間室には前胸背と同様の點刻を裝ふ、脛節赤褐、體長一分五厘乃至一分七厘(口吻共)。

經過 年二回の發生をなす、第一回は五六月頃現はれ、第二回は九十月に出づ、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、成蟲は葡萄の新芽に口吻を挿入し、液汁を吸收し同時に食害す、幼蟲は恐らくは管狀に卷きたる巢中にあるべしと雖も未だ實見したることなし。

(一二) おとしぶみ *Attelabus jekeli* Roel. (第五十六圖版(5))

被害植物 栗。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、前胸背の基部及び翅鞘は赤褐、口吻は短小、雄の頭は甚だ長く胸部の方細小す、眼は割合に大にして黒褐、觸角の基部は短し、雌の口部は發達し、頸短く胸部に接する部分甚だしく緊縮す、前胸背は凹凸を有し、翅鞘には點刻線を並列し、四條の隆線を具へ、稜狀部は黒色なり、體下に點刻を密布す、體長三分乃至三分五厘。

(一三) りんごひめおとしぶみ *Attelabus minimus* Koel.

被害植物 苹果。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども形遙かに小に、雄の前胸は赤褐、頭は頗る長く殆んど腹部と同長なり、觸角は赤褐、體長(雌)一分五厘(雄)一分七厘、頭部一分五厘。

(一四) ひめおとしぶみ *Attelabus nonlanus* Koel.

被害植物 栗はしばみ<sup>五〇、一七</sup>等。

特徴 成蟲 體は赤褐、頭は胸部に直角をなして下向し、光澤ある黒色、但し雌にありては咽喉赤褐、腿節端は黒褐なり、雄の頭部は甚だしく延長し、觸角及び脚は褐色、前胸は細く前後の兩縁は縊れ微小の點刻を散在す、雄の兩側に暗色條あり、翅鞘は方形にして縦隆及び點刻線を列ぬ、體下に點刻多く側面に黄白毛あり、體長二分五厘乃至三分。

(一五) ひめくろおとしぶみ *Attelabus rufiventris* Roel. (第五十六圖版(6))

被害植物 薔薇。

特徴 成蟲 體は黄褐、頭胸及び翅鞘は光澤ある黒藍色、雌雄共に頸短く、複眼の中間に暗褐紋あり、觸角の基部及び大腿は赤褐、翅鞘には點刻列を列ぬ、其基部凹陷す、脚は黄褐、體長一分七八厘。

以上四種の經過 年二回の發生をなし、蛹の有様にて地中に越年す、成蟲は翌春現は



れ、一葉の中肋より折半し巧に二個の卷葉を作り、其内に一個若くは二個の卵子を藏す、卵は淡黄にして球形を呈す、幼蟲は白色にして肥大し、頭部は淡褐にして横皺多く少しく黄毛を装ひ、脚を缺く、幼蟲にては種類を區別し難し、幼蟲は七月頃老熟す、卷葉は初めより萎凋すれども落下することなく、幼蟲十分成長するに至りて地上に落ち地中に入りて蛹化する、八月上旬二回の甲蟲現はれ、産卵すること前の如く、之より成長したるものは蛹となりて地中に越冬す。

**驅除法** 五六月及び八月頃現はれたる成蟲は打落法にて捕殺すべし、卵子は筒状の枯葉内にあるを以て摘殺すべし。

(一六) いねざうむし *Echinoenemus bipunctatus* Roel. (第五十六圖版(7))

**被害植物** 稻。

**特徴** 成蟲 體は暗色、灰黄の鱗毛多し、觸角は口吻の前端に位し赤褐なり、前胸には點刻多く、側面には黄色の鱗毛を密生す、翅鞘は前胸と略々同幅、兩側には鱗毛より成れる灰色の太き縦線を有し、中央の鱗毛には黒色のものあり、縦溝を並列し、末端に近く鱗毛より成れる二個の白色紋あり、腿節には突起なく、脛節端には太き爪様の突起あり、體下に灰黄の鱗毛を密生す、體長一分六厘、口吻五厘。

幼蟲 黄白色、頭は淡褐にして小、第一節の硬皮板は二個に分離し黄色なり、體には横皺多く、黄褐の短毛を装ひ、氣門は赤褐にして少しく隆起す、體長二分八厘内外。

**經過**

東京地方にては年一回の發生をなす、成蟲の有様にて越冬し、翌春五六月頃苗代に集まり産卵す、根邊の草髓を食ひ、七八月頃に至り稈の内に蛹化し、九月頃に至りて羽化す、甚だしき時は稻を枯死せしむることあり。

**驅除法** 五六月頃稻葉にある成蟲を捕殺すべし、白枯せる稻莖を採集して其内の幼蟲を殺すべし。

此屬に係るものにして臺灣にたいわんいねざうむし *Echinoenemus squameus* Billb. と稱するものあり、いねざうむしに酷似すれども其の重要な差異を擧ぐれば、體は黒色にして黄褐鱗を缺き、翅鞘の後方に灰黄の二點を有せざること是なり、體長一分五厘、稻及び甘蔗の根を食害す。

(一七) いねのあかざうむし *Erihinus oryzae* Mats.

**被害植物** 稻。

**特徴** 成蟲 體暗黒、頭は小、口吻は弓状をなし黄褐毛を装ふ、觸角は其末端に附着し褐色

なり、前胸は稍々圓く點刻及び黄褐の粗毛を散在す、翅鞘には點刻の縦列を有し、翅端に近く黄白の毛塊ありて二個の斑紋の如き觀をなす、腹面及び脚には粗糙の點刻を密布し、各脛節以下は褐色なり、體長二分、口吻六厘内外。

幼蟲 體は乳白色、弓形に彎曲す、褐色の細毛を粗生し、頭は褐色、口部は發達し大腮は大なり、背に疣状突起の二列あり、體長二分五六厘。



経過 未だ判然せざれども、多くは成蟲にて越年するものゝ如く、翌春産卵し、八月下旬に

は幼蟲二分内外に成長し、盛に稻根を食害し、次で蛹化し九月頃羽化して稻の刈株又は附近の雜草間に越年するものゝ如し、但し越年せるものゝ中には幼蟲蛹の混ぜるを以て見れば、経過は必ずしも一定せるものと云ふべからず、要するに成長の度の異なるに隨ひ越年の状態を異にするものならん。

驅除法 六月初旬より稻の莖葉に靜止する成蟲を掬取すべし、早春融雪後刈株雜草を集め悉く焼き拂ふべし。

(一八) ありもどきざうむし *Cylas formicarius* Tryon. (第五十六圖版⑧)

被害植物 甘藷。

特徴 成蟲 頭は黒色、後頭は黒褐、口部觸角前胸及び脚は黄褐、口吻は前胸より少しく長く、觸角は雌にては末端節甚だ長大にして全長の三分の二を占む、前胸は中央にて縱る、翅は綠色にして長楕圓形を呈し頗る光澤あり、點刻は小にして粗なるを以て判然せず、脚は頗る長し、其外觀蟻に似たる所あるを以て此名あり。

経過 年發生の回数は、臺灣にては七回なれども、沖縄にては未だ明かならず、成蟲は甘藷塊根の表皮を破りて一粒づゝ産卵す、一頭の總産數三四十粒、幼蟲は不規則に内部を食ひ、老熟すれば表皮下二三分の下に蛹化し、次で羽化す、此害を被りたる甘藷は苦味を生ず、成蟲の有様にて越年す、本邦に産せざれども、臺灣小笠原島及び沖縄地方には

普通なり。

(一九) おほくちかくしざうむし *Ceclania crenata* Pas. (第五十六圖版⑨)

被害植物 柳、白楊、榆、榿。

特徴 成蟲 體は黒色若くは黒褐色、觸角は赤褐、柄節は短く、複眼は發達せず、頭球形、口吻は下方に向ひ少しく弓狀に曲り、前胸より少しく長し、前胸は黄鱗を散在し、前縁は著しく縱れて頸狀を呈す、顆粒狀の突起多く、其内に大形の點刻を散布す、翅鞘に八個の深き縱溝を裝ひ、其中或ものは遮斷せられて點刻となる、中央に各一個の黄色鱗毛塊を裝ひ、全面に同色の小紋を散在す、體長三分五厘乃至四分五厘。

経過 未だ判然せざるも、幼蟲は榆、柳、其他樹木の根を食するものならんか、成蟲は五月頃より現はれ、柳、榆、榿、其他樹幹に穴を穿ち、之より出で来る汁液を吸收すれども、大害をなさざるが如し、廣く本邦に播布し、殊に北海道地方に普通なり。

(二〇) やなぎしりじろざうむし *Cryl torhynchus lapathi* L. (第五十六圖版⑩)

被害植物 白楊、柳、赤楊、樺。

特徴 成蟲 體は暗黒、前胸背の兩側並に翅鞘の末端は灰白、形前種に酷似す、前胸背に五個の黒褐の毛塊を裝ひ、白色及び黄色の鱗毛を散生す、粗大の點刻多し、翅鞘は其翅底に近く各二個の黒褐毛塊を具へ、粗大の點刻ある縱溝を裝ふ、尾端の三分の一は灰白、其中に淡褐の斑紋あり、腿節基部の大半は白毛を密生す、體長三分五厘乃至四分。



**經過** 年一回の發生、成蟲の有様にて越年するものと、幼蟲の有様にて越年するものとあり、翌春蛹化し次で羽化す、成蟲は五月中旬頃より現はれ、重に柳の樹皮を食ひ、又之より出づる液汁を吸収す、八月頃迄食害し、後交尾して根際に産卵す、卵は二週間位にて孵化し、深く材質部に入り、下方より上方に向ひて孔を穿ち食害す、一樹幹に十五乃至二十匹あるを常とす、暴風の際其被害部より折れ倒るゝことあり、北海道には普通なり。

尙此屬に係るものにして、**まつのしらほしざうむし** *Cryptorhynchus insidiosus* Roel. (第六十二圖版(4))と稱するものあり、體は暗褐にして翅鞘の中央より少しく上方に當り二個の白點と尙後方に小なる二白點を具へ、前胸背にも四小白點ありて横置せらるれども甚だ判然せず、脚には灰白鱗を生じ斑をなす、體長二分二厘内外、幼蟲は松の衰弱せる樹幹或は全く枯死せる部分に寄生し、八九月の頃主として樹皮下に沿うて孔を造り、又淺く材部に蠶入して材質を損す、冬期は木屑を以て造りたる繭内にて越年す、九州地方に多し。

(111) **おほざうむし** *Sipahus gigas* L. (第五十六圖版(1))

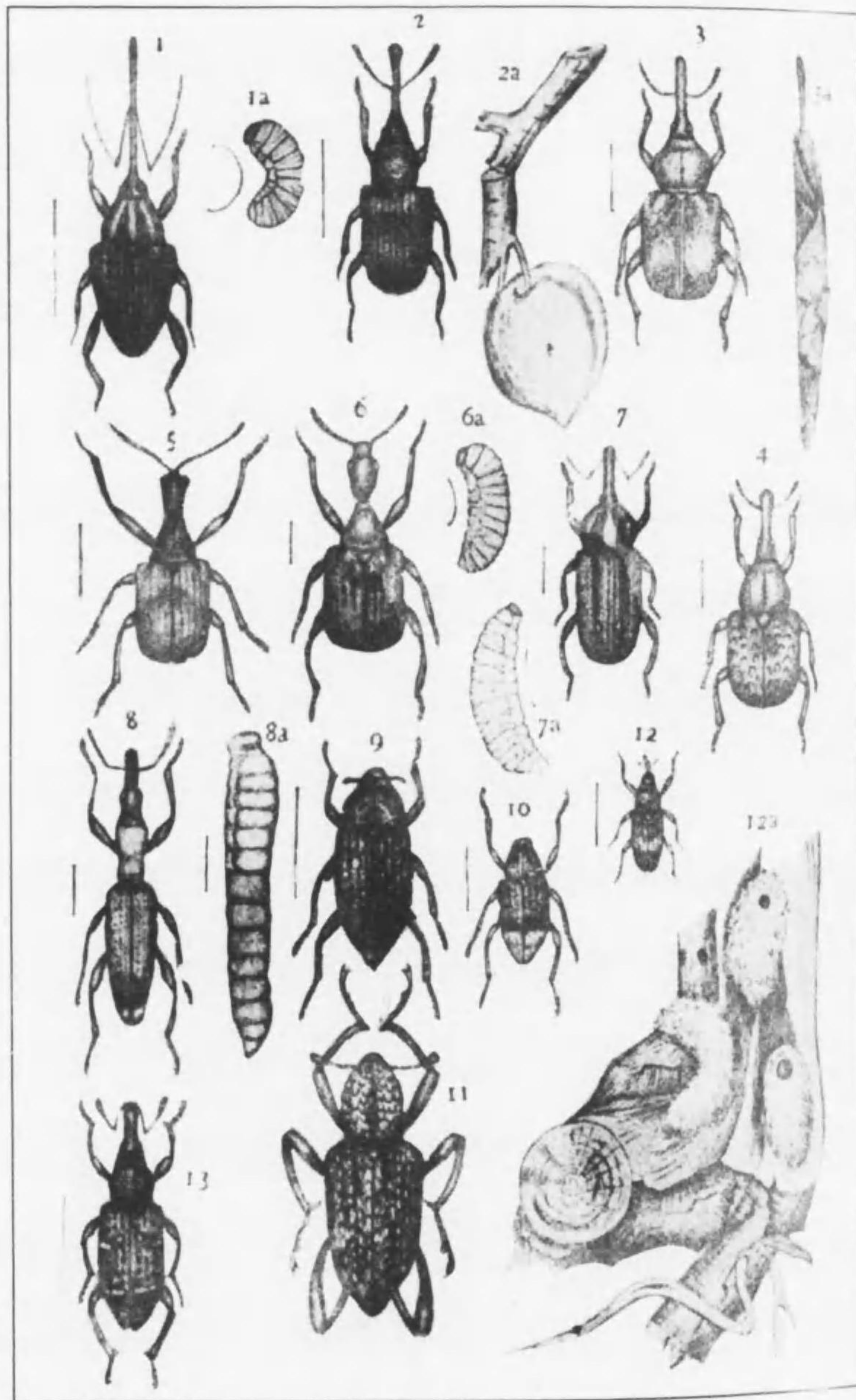
**被害植物** 榆、柳、樺、栗、枹、檜等。

**特徴** 成蟲 體は灰色若くは暗灰色、口吻の末端は黒色、觸角暗色、前胸背には粗大の顆粒突起多く、中央に黒色の一縦條を裝ふ、翅鞘には三個の黒縦條ありて相斷續し、其斷間

圖六係正第

1891	.....	.....
1892	.....	.....
1893	.....	.....
1894	.....	.....
1895	.....	.....
1896	.....	.....
1897	.....	.....
1898	.....	.....
1899	.....	.....
1900	.....	.....
1901	.....	.....
1902	.....	.....





第五拾六圖

1. *Balaninus dentipes* Roel. くりしぎざうむし .....P.881  
a. 幼蟲
2. *Rhynchites heros* Roel. なしのちよつきりざうむし .....P.882  
a. 被害ノ有様
3. *Rhynchites betuleti* F. var. *motschulskyi* Lew. いたやほまきざうむし  
a. 卷葉 .....P.883
4. *Byctiscus lacunipennis* Jekel. ぶだうめざうむし .....P.884
5. *Attelabus jekeli* Roel. おとしぶみ .....P.884
6. *Attelabus rufiventris* Roel. ひめぐろおとしぶみ .....P.885  
a. 幼蟲
7. *Echinocnemus bipunctatus* Roel. いねざうむし .....P.886  
a. 幼蟲
8. *Cylas formicarius* Tryon. ありもどきざうむし .....P.888  
a. 幼蟲
9. *Cechania eremita* Pasc. おほくちかくしざうむし .....P.889
10. *Cryptorrhynchus lapathi* L. やなぎしりじろざうむし .....P.889
11. *Sipalus gigas* L. おほざうむし .....P.890
12. *Pissodes nitidus* Roel. まつのきぼしざうむし .....P.891  
a. 被害ノ松樹
13. *Hylobius abietis* L. まつのおほざうむし .....P.891



に灰色の疣状突起あり、粗大の點刻ある縱溝を裝ひ、尾端には小顆粒の點刻多し、脚に顆粒突起を散在し、各之に一個の銳鈎を裝ふ、頗る堅牢の翅鞘を具へ、爲めに針を貫くこと困難なり、體長五分乃至一寸。

**經過** 年一回發生す、幼蟲は多分根部に近き幹を食するならんか、未だ發見したることなし、而して成蟲は口吻を以て樹皮を破り之より滲出する液汁を吸收するものにして爲めに其局部は畸形を呈す、成蟲は六月より八月に亘りて出づ、幼蟲の有様にて越年し、翌年蛹化し次で羽化するものゝ如し。

(111) まつのおぼざうむし *Pissodes nitidus* Roel. (第五十六圖版(12))

**被害植物** 松、榎、えぞまつ、落葉松。

**特徴** 成蟲 體は黒褐、白鱗を裝ふ、頭、口吻、前胸及び翅鞘は赤褐、口吻は短大にして末端黒色、前胸には點刻を密布し、中央に二個の白紋を裝ふ、翅鞘には點刻の縱列を有し、末端は急に細小す、翅端に近く白鱗を密生し、恰も斑紋の如し、脚は赤褐色にして少しく黒色を帶ぶ、稜狀部は黄白色、體長二分五厘、口吻六厘。

**經過** 成蟲は樹幹に卵子を産下す、幼蟲は皮下に鳥巢の如きものを造り、其内にありて食害す、老熟すれば靱皮部に入りて蛹化す、羽化すれば、少圓孔を穿ち外界に出づ、年一回の發生をなすものゝ如し。

(112) まつのおぼざうむし *Hyllobius abietis* L. (第五十六圖版(13))



被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は黒褐、口吻は短大にして少しく赤色を帯び、浅き點刻を密布す、前胸は不正なる球形をなし、顆粒狀の隆起及び點刻多し、翅鞘は前胸より少しく幅廣く、深き點刻列を有し、黄白色の毛塊紋ありて約二列に排置せらる、腹面には黄白色の短毛を粗生す、體長四分五厘、口吻一分。

經過 二年に一回の發生をなせども、時に一年若くは一年半にして成蟲を出すことあり、成蟲は老樹又は倒木に産卵するの性あり、幼蟲は根際を害すること多し、成蟲は幼樹の皮を食し、黄白色にして無脚、頭は褐色、老熟すれば四分餘に達す、形成層を食するを以て樹木を枯死せしむ。

(二四) りんござうむし *Hylobius transversoguttatus* Goez. (第五十七圖版(1))

被害植物 苹果。

特徴 成蟲 前種に酷似す、全體粗糙にして殊に翅鞘には粗き凹陷ありて網目狀を呈し、前胸に黄褐色の毛塊紋を有す、翅鞘は急に細小し、肩部は突起す、體長四分七厘、口吻一分五厘内外。

經過 未だ判然せざれども、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し次で羽化するものゝ如し、成蟲は樹皮を輪食し、大害を加ふ、恐らくは根際に産卵するものなるべし。

(二五) あめのさうむし *Lixus impressivertis* Roel. (第五十七圖版(2))

被害植物 藍。

特徴 成蟲 體は細長にして黒褐、口吻は細くして前胸より長し、觸角は赤褐、前胸背には顆粒狀の點刻多し、翅鞘は略々圓柱形、縱溝を具へ、白毛を裝ふ、全體經節に似たるを以て「かつをむし」の稱あり、體長三分内外、口吻一分三厘。

經過 年三回の發生をなす、卵子は晩秋、莖大黃の如き野草に産下せられ、其儘越年す、翌春第一回の發生を終へ、成蟲は五月下旬、藍苗移植後に現はれ、藍葉を食ひ、一個乃至四個の卵子を莖節に藏す、一頭の産卵數多きは二十三四個、卵は白色圓形、一週間以内に孵化し、莖中に蠶入して三週間餘にて老熟す、蛹は褐色、第二回の成蟲は七月上旬、第三回は八月下旬現はる、朝夕は葉下に潜み、晝間出でて食害す、幼蟲は莖中に蠶入して大害を加ふ。

此屬に係るものにして「かむちやほそざうむし」*Lixus vetula* F. と稱するものあり、體は黒色、觸角は赤褐、頭頂には一縱條を有し、前胸には顆粒多し、翅鞘は前胸の約二倍ありて後方に至りて少しく擴がる、判然せざれども、灰白の毛塊紋を散在す、體長三分、臺灣にては甘蔗の葉を食して有害なり、幼蟲は其根を食とするものならんも不明なり。

(二六) おほごばうざうむし *Larinus griseopilosus* Roel. (第五十七圖版(3))

被害植物 牛蒡。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、口吻は胸部より長く、前胸背に縮刻多く、兩側及び後縁に



一個の凹陷あり、翅鞘には粗大なる點刻の縱條を裝ひ、白色の毛塊多きを以て恰も白紋を散在せるが如し、體下及び脚には灰白毛を裝ふ、體長三分五厘乃至四分。

經過 未だ判然せざれども成蟲の有様にて越年するものゝ如く、五六月頃より現はれ野生の山牛蒡を食ひ、次で栽培植物に移り來り加害するものゝ如し。

(二七) ごぼうざうむし *Larinus latissimus* Recl.

被害植物 牛蒡、

特徴 成蟲 前種に酷似すれども少しく小にして卵形頭は小、點刻を密布す、口吻は大にして下向す、翅鞘には點刻列ありて白色の毛塊を散在す、前胸と共に腹部に粗大の深き點刻を裝ひ、又短毛を粗生す。

經過 未だ判然せざれども牛蒡の種實中に入りて食害し、遂に其内部を空虚ならしむ。

(二八) こふきざうむし *Eugnathus distinctus* Roel. (第五十七圖版(4))

被害植物 大小豆。

特徴 成蟲 體は黒褐、綠色鱗を裝ひ、光線の工合にて白粉を密布せるが如き觀を呈す、口吻短く、中央に一縱溝あり、觸角は細くして黒褐、前胸背の前後は同徑にして圓柱形を呈し、翅鞘は卵形に近く、八條の點刻ある縱溝を裝ふ、體長一分五厘。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は七月より現はれ、大小豆の圃に集まり來り其葉を食害す、幼蟲は根部を食するものなるべしと雖も未だ判然せず。

(二九) ちひあきざうむし *Phyllobius pruni* Mats.

被害植物 萃樹、桃、櫻、栗。

特徴 成蟲 體は褐色、黄緑の鱗毛を密生す、觸角及び脚は黄褐、但し後者には金緑毛あり、口吻は褐色、頭及び前胸背は稍々同幅、翅鞘には八個の點刻より成れる縱溝列ありて、間室には點刻あれども鱗毛の爲め判然せず、體は暗褐、體長七厘乃至一分。

經過 未だ判然せざるも熊本地方にては大害を加ふる種類なり、成蟲は六月より現はれ、葉の裏面を食ひ表皮及び纖維を殘留す、幼蟲は地中にありて根を害するものなるべし。

(三〇) りんごあまざうむし *Phyllobius argentatus* L. (第五十七圖版(5))

被害植物 萃樹。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰黄毛を裝ふ、頭胸及び翅鞘には金綠色の鱗毛あり、複眼は黒色にして大、口吻は短く、中央に縱溝を裝ふ、觸角の基節溝は口吻の上方にありて相接近す、前胸背の中央は稍々隆起し、翅鞘には縱溝ありて之に白毛を裝ふ、脚は黄色、腿節には棘刺あり、體長一分八厘、口吻五厘。

經過 成蟲は六七月頃現はれ、萃樹の新芽及び軟葉を食害すれども其經過未だ判然せず、幼蟲は地下にありて食害するものなるべし。

(三一) りんごこふきあまざうむし *Phyllobius armatus* Roel.



被害植物 同前。

特徴 成蟲 前者に酷似すれども觸角の基節溝は口吻の兩側にありて廣く分離す脚は

黒色、稀に黒褐のものあり、體長(雄)一分五厘(口吻共)乃至(雌)二分、口吻五厘内外。

經過 同前。

(三二) りんごひげながあまざうむし *Phyllobius longicornis* Roel. (第五十七圖版(6))

被害植物 同前。

特徴 成蟲 「りんごあまざうむし」に酷似すれども地色は黄褐にして綠色鱗を密生す、觸

角は長くして黄色、膝狀をなし、末端は膨大し、後肢の基節を越ゆ脚は黄褐、腿節は著しく膨大す、體長二分五厘内外(口吻共)。

經過 同前。

(三三) おほあまざうむし *Chlorophanus grandis* Roel. (第五十七圖版(7))

被害植物 苹果樹。

特徴 成蟲 體は鑛物性の黄綠色、觸角の末端及び基部は黒褐色、口吻は前胸より短く、中

央に一縦溝あり、前胸背には縮紋を具へ、兩側に黄色の縦條あり、稜狀部は黄色、翅鞘に點刻ある縦溝を具へ、兩側に黄色の縦條を裝ふ、體下に黄毛を有する部分あり、體長(雌)四分乃至五分。

經過 不明なり、青森地方にては苹果樹の葉を食することあれども其害大ならず。

(三四) ふさすぐりざうむし *Pentateucterius bifasciatus* Roel. (第五十七圖版(8))

被害植物 ふさすぐり。

特徴 成蟲 體は暗灰色、口吻は短く、末端二分し、其中間は黒色、之に數個の剛毛を具へ又

金屬性の光澤ある灰黄若くは淡緑の鱗毛を裝ふ、眼は黒色、觸角の基節溝は黒色にして長く、眼底に達す、前胸は頭より廣く、背及び側面に暗色の縦線を有するものあり、翅鞘は甚だしく膨起し殆んど球形をなし、深き點刻の縦列あり、全面圓形の鱗片にて被はれ、二條の暗褐帶あり、脚にも亦金色の鱗毛を裝ふ、體長二分内外。

經過 未だ判然せざれども幼蟲は地下に棲息するものゝ如し、成蟲は六七月頃現はれ、ふ

さすぐり」の葉を食ひて大害を加ふることあり。

(三五) まつのとびざうむし *Polydrusus pini* Mats. (第六十二圖版(6))

被害植物 松。

特徴 成蟲 黄褐色にして上面に黄褐毛、下面に少しく紅色を混ぜる灰白毛を寄生す、口

部は暗褐、觸角は黄褐、末端の球桿は褐色を呈し、前胸背の兩側には灰白毛ありて縦紋をなし、翅鞘は前胸より遙かに廣く、灰白にして翅底及び全面に散在せる斑紋は黄褐なり、脚黄褐、腿節は太く、其膨大せる部分は灰白毛を密生す、體長二分五厘内外。

經過 未だ判明せざるも成蟲は四五月頃より發生し、松の新芽に小孔を穿ち、又針葉を食す、九州地方にては三月頃より現はる、千葉熊本地方に多し。



(三六) あしながざうむし *Philodes rufipennis* Roel. (第六十二圖版(1))

被害植物 「くぬぎ」ならし。

特徴 成蟲 光澤ある黒色を有し、翅鞘は赤褐にして其基部に瘤状の二突起を備へ、粗大の點刻及び縦列溝あり、稜状部は黒色にして其中央凹陷す、脚は黒色にして長く、殊に前肢に於て然りとす、體長二分五厘内外。

經過 成蟲は五六月より現はれ、樹葉を筒状に卷縮し其内部に一個宛白色球形の卵子を藏す、幼蟲孵化すれば其内容を食し、完熟する頃には卷葉地上に落つるを以て同時に地中に入り、次で蛹化し、翌春に至りて成蟲となること前述の如し。

(三七) れいすざうむし *Hyorhynchus lewisi* Blandf.

被害植物 「はるにれ」すたや「はんのき」ぶな。

特徴 成蟲 灰褐色を呈し雄にありては頭部少しく長く口吻状をなし、雌にありては圓形なり、眼は各中央にて二分す、翅鞘の肩部と中央より後方に向ひ不規則なる帶状部ありて、末端には短き黄毛を裝ふ、體長一分五厘。

經過 成蟲は五六月頃より現はれ材部に眞直なる孔を穿ちて産卵し、幼蟲は其上下に不規則なる長孔を造りて食害す、成蟲の状態にて越冬するものと幼蟲の儘越冬するものとあり、成蟲は小蠹蟲科の種類に酷似せるものにして、従來小蠹蟲科に編入せられたるものなり。

尙此科に屬し有害なるものは左の如し。

(三八) ちやいろこふきざうむし *Myliocerus brunneus* Mats. 赤褐色にして、口吻の末端は黒褐、體長二分七厘、甘蔗の葉を食害す、臺灣に普通なり。

(三九) うすあそこふきざうむし *Myliocerus cutulus* Mats. 黒色、帶綠灰色の鱗毛を以て被はれ、翅鞘に暗色紋を散在す、體長二分五厘、甘蔗の葉を食害す、臺灣に普通なり。

(四〇) しろこなざうむし *Erisomus alpinus* Mats. 灰白にして、粗大の點刻多し、前胸背に三條の黒斑を備へ、其中央にあるものは最も判明なり、翅鞘には二個の黒紋を裝ふ、體長二分、甘蔗の葉を食害す、臺灣に産す。

(四一) しらほしまるざうむし *Cneorhinus albigitatus* Mats. 灰褐にして、白色の鱗毛多し、前胸背に粗大の横皺を有し、縦走せる白色條あり、翅鞘に數個の灰白紋を散在す、體長四分、甘蔗の葉を食す、臺灣に普通なり。

(四二) あらげざうむし *Phytoscapus formosanus* Mats. 赤褐、灰白の鱗毛多し、翅鞘には暗褐の短毛及び鱗毛を密生するを以て不規則の斑紋を現はす、體長二分、甘蔗の葉を食す、臺灣に産す。

(四三) はひいろざうむし *Tanyneucus rusticus* Gyll. 黒色なれども灰黄の鱗毛を密布するを以て一見灰色を呈す、翅鞘には點刻ある縦溝を備へ、前縁は濃厚の灰白色を呈す、體長四分乃至六分、甘蔗の恐るべき大害虫にして、臺灣に普通なり。



(四四) くすざうむし *Ameletonychus Peregrinus* Oliv. (第六十二圖版(5))

黒色にして光澤あり、頭頂及び前胸背に三縦溝ありて後者の兩側には縮刻あり、翅鞘には八條の點刻列ありて間室は平滑、翅鞘端には短き黄毛多し、體長五分内外、臺灣に於ける有名なる害虫にして樟の苗を食す。

(四五) わたざうむし *Ameletonychus Gossypi* Mats. 前種に酷似すれども全面に灰色の鱗毛を密

生し、又灰色の毛塊紋あり且灰白の短毛を裝ふを以て容易に區別することを得べし、體長五分内外、臺灣にて棉の苗を食害すること大なり。

(四六) たいわんおほあまざうむし *Hypomeces squamosus* F. 黒色にして、金緑色の鱗毛を密布

す、頭は金色、脚及び體下は帯紅金色の鱗毛を密布す、體長五分内外、前種同様に種々の稚苗を食害す、臺灣には最も普通なり。

(四七) くすあなあきざうむし *Hylobius macilentus* Bohem. (第六十二圖版(3))

赤褐乃至暗褐にして、前胸背に疣狀の小突起を散在し、中央には後縁に達せざる一縦隆起あり、翅鞘には點刻列ありて、尾端に近き兩側に疣狀の一突起あり、金色の鱗毛多し、體長五分内外、沖縄地方に普通なる樟の害虫なり、目下東京地方にも産するに至れり。

(四八) かんしよざうむし *Sphenophorus obscurus* Boisj. 黄褐にして、頭觸角及び口吻は暗褐色を呈し、前胸背上は稍々平たく、中央に短き黒褐の一縦條あり、中央にある點刻は少なく且小形にして兩側には二個の暗褐紋あり、翅鞘には八個の深き縦溝列ありて之に點刻を

有し、間室は隆起し、之に點刻を連ぬ、兩側に褐色の一縦條あり、體下は光澤ある黒色にして黄褐紋を裝ふ、脚は黄褐、腿節端及び附節は暗褐なり、體長四分、口吻一分五厘、甘蔗苗に附着し布哇より臺灣に輸入せられたる大害虫なり。

(四九) まがさはらざうむし *Sphenophorus maculatus* Mats. (第六十二圖版(2))

前種に酷似すれども形小にして短く、口吻は黄褐にして其點刻小なり、胸背上の點刻も亦遙かに小さく、翅鞘の中央には暗褐の二紋を具へ、兩側及び翅端は暗褐、腿節末端の内側に暗褐の大紋あり、體長三分五厘、口吻一分、小笠原島にては甘蔗を害すること大なりと云ふ。

(五〇) しらふへうたんざうむし *Anystax fasciatus* Reel. (第六十二圖版(7))

暗褐、頭及び前胸背の兩側に灰色の鱗毛を密布す、前胸背に疣狀の突起多し、翅鞘は長卵形にして灰白の小紋を散在し、中央より少しく後方に當りて灰白の二紋あり、且末端も灰白なり、脚は黄褐、灰白の鱗毛多し、體長二分五厘内外、伊豫地方にて梨を害すること大なりと云ふ、又松をも害すといふ。

異節類 *Heteromera*偽步行蟲科 *Tenebrionidae*



(一) こめのごみむしだまし *Tenebrio obscurus* F. (第五十七圖版(9))

被害物 穀粉。

特徴 成蟲 體は赤褐にして稍々扁たく、頭、前胸背及び翅鞘は黒褐、微小の點刻を密布し、翅鞘には八條の點刻ある縱溝を裝ふ、脚は赤褐、體長五分五厘内外。  
 幼蟲 全體黄色、細長にして硬化せる皮膚を有す、十二の判然せる環節より成り、發達せる大腮及び脚を具ふ、體長一寸内外。

驅除法 倉庫内に發生せる場合には硫黄を燻蒸すべし、又二硫化炭素を用ふるも宜し、幼蟲は篩にて分離すべし、倉庫内の壁は可成白色となし、成蟲の存在を顯著ならしむべし。

(二) くわしのごみむしだまし *Hypophloeus folicola* Mars.

被害物 穀粉菓子。

特徴 成蟲 體は赤褐若くは黄褐、細長にして頭は稍々隆起し、小點刻を密布す、觸角末端の三節は膨大す、前胸背には小點刻を密布し、其前縁角は棘狀をなして突出し、後縁は圓く中央に濃色の二縱列あり、翅鞘は前胸背よりも約二倍半廣く、約八個の點刻ある縱條を裝ふ、體長一分。

經過 未だ判然せざるも成蟲は夏日現はれ、穀粉干菓子等に稀ならず。  
 驅除法 同前。

(三) こくぬすともどき *Tribolium ferrugineum* F.

被害物 同前。

特徴 成蟲 體は赤褐若くは黄褐にして扁平なり、額には點刻多く、觸角末端の三節は膨大す、胸部は稍々四角形、翅鞘には四孔ある縱溝ありて、列間には更に點刻を裝ふ、體長一分五厘。

幼蟲 形細長黄褐にして關節部は淡色、尾節に三個の突起を具ふ、體長二分内外。  
 經過 少くも年四回の發生をなす、其早きは二十四日間にて一代を終るものなれども、寒冷若くは食物缺乏の場合には二ヶ月餘に亘ることあり、多くは幼蟲の儘越年す、卵子は食物上に産附せられ約六日間にて孵化す、蛹は裸蛹なり。  
 驅除法 同前。

## 花蚤科 Mordellidae.

(一) あさのはなのみ *Mordellistena cannalis* Mats. (第五十七圖版(10))

被害植物 大麻。

特徴 成蟲 全體黒色、灰白の短毛を裝ふ、頭は下向し、眼は卵形、前胸及び翅鞘は弓狀に膨大し、恰も西瓜の斷片の如し、後腿節は膨大し、跳躍に適す、雌は圓錐形の長産卵管を具ふ、體長一分内外。